

ラオス人民民主共和国  
東西回廊における  
実践的な観光開発プロジェクト  
事前評価調査報告書

平成 19 年 10 月  
(2007 年)

独立行政法人国際協力機構  
ラオス事務所

ラオ事

J R

07-05

**ラオス人民民主共和国  
東西回廊における  
実践的な観光開発プロジェクト  
事前評価調査報告書**

平成19年10月  
(2007年)

独立行政法人国際協力機構  
ラオス事務所

## 序 文

日本国政府はラオス人民民主共和国の要請に基づき、同国の東西回廊における実践的な観光開発プロジェクトに係る技術協力を実施することを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの協力を実施することとした。

当機構では、プロジェクト実施に先立ち、本件協力を円滑かつ効果的に進めるため、当該分野の今後の協力の方向性について検討を実施するとともに、今後実施が予定されている技術協力プロジェクトの基本的な内容を整理することを目的として、2007年3月8日～25日まで18日間にわたり、当機構ラオス事務所所長森千也（当時）を団長とする事前評価調査団を現地に派遣した。

同調査団は、本件の背景を確認するとともにラオス人民民主共和国政府の意向を聴取し、かつ現地踏査の結果を踏まえ、本格協力に関する協議議事録（M/M）に署名した。

また、環境社会配慮調査の必要性に鑑み、2007年9月11日～20日まで当機構アジア地域支援事務所臼井広域企画調査員により環境社会配慮調査を実施した。

本報告書は、事前評価調査（M/M 協議）結果及び環境社会配慮調査結果を取りまとめるとともに、引き続き実施を予定している本格協力に資するためのものである。

終わりに調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申しあげたい。

平成 19 年 10 月

独立行政法人国際協力機構  
ラオス事務所長 高島 宏明

# 目 次

序 文

第一部 事前評価調査報告

団長所感

ラオス人民民主共和国地図

略語表

第1章 事前評価調査の概要	1
1-1 派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	1
1-3 現地調査日程	2
1-4 調査の方法及び主要面談者	2
1-4-1 PCM ワークショップ	2
1-4-2 FGD の実施	3
1-4-3 旅行者インタビュー	3
1-4-4 主要面談者	3
1-4-5 現場視察・ヒアリング概要	3
1-5 プロジェクト計画の策定	3
第2章 協力の必要性・位置づけ	4
2-1 プロジェクトの位置づけ	4
2-1-1 ラオス側政策上の位置づけ	4
2-1-2 日本の援助政策上の位置づけ	5
2-2 現状と問題点	6
2-2-1 対象地域の概況	6
2-2-2 サバナケット県の観光セクター	6
2-2-3 サバナケット県の観光セクターの課題	7
2-3 他ドナーの協力状況	9
2-3-1 SNV (The Stichting Nederlandse Vrijwilligers)	9
2-3-2 GTZ	10
2-3-3 ADB	10
2-3-4 CIDA	10
2-3-5 国際金融公社 (IFC)	10
第3章 プロジェクト戦略	11
3-1 基本方針	11
3-2 プロジェクト名	11
3-3 協力の実施体制	12
3-3-1 合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee)	12

3-3-2	プロジェクト事務所 (Project Office)	12
3-4	ラオス側実施機関	12
3-4-1	LNTA	12
3-4-2	サバナケット PTO	13
3-5	協力期間	14
3-6	受益者	14
3-7	モニタリング・評価の計画	14
第4章	プロジェクト基本計画	15
4-1	上位目標	15
4-2	プロジェクトの目標	15
4-3	アウトプット	15
4-4	活動	17
4-5	投入	18
4-6	外部条件とリスクの分析	19
4-7	前提条件	19
第5章	プロジェクトの実施妥当性	20
5-1	妥当性	20
5-1-1	ラオスの開発政策との整合性	20
5-1-2	わが国の援助政策との整合性	20
5-1-3	対象地域 (サバナケット県) のニーズとの整合性	20
5-1-4	わが国の経験の活用	20
5-1-5	対象地域選定の妥当性	20
5-1-6	ターゲットグループ選定の妥当性	21
5-1-7	ほかのドナーとの相乗効果	21
5-2	有効性	21
5-3	効率性	22
5-4	インパクト	23
5-5	自立発展性	23
5-6	ジェンダー評価	23
5-6-1	ターゲットグループ (男女双方) のニーズの把握	23
5-6-2	男女双方に対するプロジェクトの公平な便益	24
5-6-3	男女双方の (潜在) 能力の活用	25
5-6-4	プロジェクトへの男女双方による参加の度合い	26
5-6-5	予測される負の影響への対策の盛り込み	27
5-7	結論	27

付属資料

1. PDM	31
1-1 PDM (日本語版)	31
1-2 PDM (英語版)	33
1-3 具体的活動の例	35
2. PCM ワークショップ結果及び参加者リスト	37
2-1 LNTA・ワークショップ	37
2-1-1 LNTA・参加者リスト	37
2-1-2 LNTA ワークショップ・目的分析系図	37
2-2 サバナケット県・ワークショップ	38
2-2-1 サバナケット県・参加者リスト	38
2-2-2 サバナケット県ワークショップ・目的分析系図	39
2-2-3 PDM・サバナケット県でのワークショップの結果(暫定版)	40
2-3 首都ビエンチャン・ワークショップ	42
2-3-1 首都ビエンチャン・参加者リスト	42
2-3-2 首都ビエンチャン・ワークショップ・目的分析系図	43
2-3-3 PDM・首都ビエンチャンでのワークショップの結果(暫定版)	44
3. FGD 結果	47
3-1 FGD の結果(要約)	47
3-2 Summary of the Focus Group Discussions	51
4. 旅行者インタビュー結果	55
4-1 旅行者インタビュー調査の概要	55
4-2 調査結果	55
4-3 Tourists Interview Date	59
5. 主要面談者リスト	62
6. 主要ヒアリング・現場視察リスト	64
7. 調査日程	65
8. 収集資料リスト	66
第二部 環境社会配慮調査報告	67
略語表	69
第1章 環境社会配慮調査実施の経緯と目的	71
1-1 本調査の経緯	71
1-2 環境社会配慮ガイドラインに基づくカテゴリ分類とその理由(要望調査時)	71
1-3 調査の概要	71
1-4 本調査の位置づけ	73
第2章 ラオスにおける環境社会配慮に関する法制度と実施状況	74
2-1 環境アセスメント制度、関連組織	74

2-2	生物資源の保全に関する規制	76
2-3	そのほかの環境関連法	77
第3章	本プロジェクトにおけるスコーピング	80
3-1	現況	81
第4章	環境社会配慮モニタリング案	97
付属資料		
1.	収集資料リスト	101
2.	情報公開用サマリー（英）	102

# 第一部

## 事前評価調査報告

## 団 長 所 感

観光振興の経済へのインパクトは大きく、外貨獲得、雇用創出、及び貧困削減とも直結する地域開発の可能性により、ラオス政府は、観光振興を推進していくことを社会経済開発計画のなかでも重要政策の1つとしてあげている。

観光客は既に100万人を超えるようになっているが、観光情報の未整備や観光庁での人材育成も十分でないこと、観光客がラオス国の情報を得たいにもかかわらず十分な観光情報が得られないなどの現状が依然としてある。さらに、第2メコン架橋が2006年12月に完成し、タイ国からベトナム国への円滑な移動も可能になったが、国道9号線（東西回廊）においては、魅力的な観光資源の開発がまだまだ十分ではなく、既存の観光情報が十分に観光客に提供されていないことから、タイ国又はベトナム国へ観光客が通過してしまい、観光によるラオス国への経済効果は小さいことが懸念されている。

このため、東西回廊からの直接的経済効果が期待できる国道9号線沿線での観光開発を促進するため、観光庁及びサバナケット県での観光に係る人材育成を強化し、実践的な観光資源を開発することが喫緊の課題となっている。

このような背景から、当該プロジェクトでは、東西回廊となっているサバナケット県を中心に実践的な観光開発を実施し、施策面での改善や、サービス、品質の向上、観光にかかる販売促進（マーケティング・プロモーション）能力を向上させることを目的として、必要な人材をプロジェクト期間中に可能な限り育成することをめざす。

また、本プロジェクトの実施にあたっては、貧困削減への寄与だけではなく、経済発展のポジティブな面と、社会文化的な側面に与えるネガティブな面の両方に配慮しつつ、又ジェンダーに配慮したバランスの取れた支援を実施することが重要と思料する。

東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト  
事前評価調査団長 森 千也

# ラオス人民民主共和国地図

Map of Lao PDR



## 略 語 表

ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
ASEAN	Association of Southeast Asian Nations	東南アジア諸国連合
CIDA	Canadian International Development Agency	カナダ国際開発庁
EU	European Union	欧州連合
FGD	Focus Group Discussion	フォーカス・グループ・ディスカッション
GMS	Greater Mekong Sub-region	拡大メコン地域
GRDP	Gross Regional Domestic Product	域内総生産
GTZ	Deutsche Gesellschaft für Technische Zusammenarbeit	ドイツ技術協力公社
IFC	International Finance Corporation	国際金融公社
JICA	Japan International Corporation Agency	独立行政法人 国際協力機構
LNTA	Lao National Tourism Administration	ラオス観光庁
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
ODOP	One District One Product	一村一品
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PO	Plan of Operations	活動計画表
PTO	Provincial Tourism Office	県観光局
SARS	Severe Acute Respiratory Syndrome	重症急性呼吸器症候群
SNV	The Stichting Nederlandse Vrijwilligers	オランダ開発機構
STD	Sexually Transmitted Diseases	性感染症
SWOT	Strength, Weakness, Opportunity, Threat	強み・弱み・機会・脅威
UNESCO	United Nations Educational, Scientific, and Cultural Organization	国連教育科学文化機関
WG	Working Group	ワーキング・グループ
WTO	World Tourism Organization	世界観光機関

# 第1章 事前評価調査の概要

## 1-1 派遣の経緯と目的

ラオス人民民主共和国（以下、「ラオス」と記す）においては、観光産業は外貨獲得、所得と雇用の拡大、地域振興などの側面から、経済開発に寄与するものとして期待が高い。ルアンパバンとワット・プーが世界遺産として国連教育科学文化機関（UNESCO）に登録され、世界的にも注目されつつある。また豊かな自然が残されていることから希少な動植物が生息し、景勝地や歴史的遺産も多く、観光資源開発のポテンシャルを有している。

ラオスが国際観光に力を入れ始めたのは、社会主義経済が行き詰まり 1986 年に開放経済体制に移行してからのことである。同年のラオス人民革命党全国会議では、「観光は国の解放を進めるうえで重要な要素であり、潜在的な収入源である」と位置づけられた。1993 年には 10 万人に過ぎなかったが観光客の数は、2000 年には 74 万人、2005 年には 110 万人に達し、観光産業は電力・鉱物資源の輸出と並んで有力な外貨獲得源の 1 つとなっている。観光客数は、2010 年に 200 万人に増加すると予想されている<sup>1</sup>。

ラオス政府は、急速に拡大する観光産業に対応するため、2004 年に国家観光局をラオス観光庁（LNTA）（Agency）に格上げし、予算の確保に配慮するなど関係組織の強化を図ってきた。しかしながら、観光のためのインフラストラクチャーが不十分であることに加え、観光に関する情報が十分整理されておらず、観光プロモーションは大きな課題となっている。また LNTA での人材育成も十分でないことから、増大する観光サービス需要を満たすための組織と人材の更なる強化が必要となっている。

中部のサバナケット県では、第 2 メコン橋が 2006 年 12 月に完成し、タイからベトナムへの円滑な移動が可能になったが、ラオス内では国道 9 号線（東西回廊）沿線の魅力的な観光資源に乏しいことや、旅行者への情報提供の不足などから、9 号線をタイからベトナムへ（あるいはその逆）通過するだけの旅行者も多く、東西回廊の、ラオス経済への裨益効果は高いとはいえない状況にある。

このような背景の下、国道 9 号線沿線において、東西回廊のラオス国内への経済効果が期待できる実践的な観光開発を実施しつつ、LNTA 及びサバナケット県で観光関連人材の育成を行い、戦略策定やマーケティング・プロモーション力を強化するための協力が要請された。

本調査は、技術協力プロジェクトの実施に向け、LNTA 及びプロジェクトサイト候補地であるサバナケット県において、観光産業関係者から必要な情報を収集し、ジェンダーに配慮しつつ、LNTA 及びサバナケット県の関係者などとの協議を通じて、協力内容・範囲、協力方法、投入規模等の基本的な計画を策定することを目的として実施された。

## 1-2 調査団の構成

森 千也	（総括）	独立行政法人国際協力機構（JICA） ラオス事務所長
藤田 伸子	（評価分析）	財団法人 国際開発高等教育機構
林 泰子	（プロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM）評価分析）	財団法人 国際開発高等教育機構

<sup>1</sup> 2006 Statistical Report on Tourism in Laos による。

於勢 泰子	(ジェンダー分析評価)	株式会社かいはつマネジメント・ コンサルティング
佐野 明平	(協力企画)	JICA ラオス事務所
Mittavisouk Rattana	(業務調整)	JICA ラオス事務所
大関 郁	(業務調整)	JICA ラオス事務所

### 1-3 現地調査日程

現地調査期間：2007年3月8～25日（調査日程詳細は付属資料7参照）。

### 1-4 調査の方法及び主要面談者

本調査は、以下のように関係機関との協議、プロジェクト関係者による PCM ワークショップ、サバナケット県におけるフォーカス・グループ・ディスカッション（FGD）、旅行者インタビュー、現場視察、そのほかヒアリング等により実施した。

#### 1-4-1 PCM ワークショップ

簡略化した PCM 手法によるプロジェクト計画の検討を、下記3回に分けて実施した。これらの成果は付属資料2を参照。

##### (1) LNTA におけるワークショップ

日時：3月9日（金）14：40～16：00

議論内容：調査団と LNTA との協議のあとに、サバナケット県における観光振興に必要な手段について、あらかじめ得られた情報に基づき作成した概念図を基に、LNTA からの意見を聴取し、簡単な目的分析を行った。

成果：LNTA としての目的分析系図（付属資料2-1）

参加者：男性・女性各1名（付属資料2-1）

##### (2) サバナケット県の観光セクター関係者によるワークショップ

日時：3月15日（木）13：30～16：30

議論内容：同日午前実施した、2回の FGD で得られた情報を出発点として、サバナケット県における観光振興のための目的分析及びプロジェクト概要案の作成を行った。

成果：目的分析系図（付属資料2-2-2）及び PDM（付属資料2-2-3）

参加者：19名（男性：10名／女性：9名、内訳は、JICA：2名、ほかドナー：1名、公共セクター：8名、民間セクター：8名）（付属資料2-2-1）

##### (3) より広範なプロジェクト関係者を対象としたビエンチャン・ワークショップ

日時：3月19日（月）9：20～12：00

議論内容：LNTA・JICA のほか、旅行エージェント協会、ホテル・レストラン協会、エコツーリズム協会、更にほかドナーも参加して、サバナケット県における観光振興のための目的分析及びプロジェクト概要案の作成を行った。

成果：目的分析系図（付属資料2-3-2）及び PDM（付属資料2-3-3）

参加者：9名（男性：5名／女性：4名、内訳は、JICA：2名、ほかドナー：2名、公

共セクター：2名、民間セクター：3名）（付属資料2-3-1）

#### 1-4-2 FGDの実施

観光産業に関係の深い人々を対象にした FGD を、県都カイソン・フォンビヘン郡内で2グループ、ピン郡で2グループ、計4グループ実施した（表1-1）。ジェンダーに配慮してそれぞれ男女のグループに分け、第2メコン橋の影響、旅行客の増加による正・負の影響、東西回廊をどのように地元に裨益させていくかについての意見、現状の問題点や不安等を聞いた。対象者はいずれも、県や郡の観光局員、行政職員、ゲストハウス・レストラン・ツアー会社経営者などで、官民両セクターを含む。これらの FGD の結果は付属資料3に示す。

表1-1 FGD 対象グループ

	女性	男性
ピン郡 観光関連セクターで働く人々	グループ① (3月13日 13:30~15:30)	グループ② (3月13日 15:30~17:00)
カイソン・フォンビヘン郡 観光関連セクターで働く人々	グループ③ (3月15日 8:20~10:00)	グループ④ (3月15日 10:30~11:50)

#### 1-4-3 旅行者インタビュー

カイソン・フォンビヘン郡内において、外国人旅行者24名を対象に、訪問の目的・サバナケット県の印象・改善すべき点等をヒアリングした。この調査の目的は、旅行者の興味、特にタイからの訪問客の関心・印象を欧米からの旅行者と比較し、プロジェクト計画の参考とすることにあつた。この結果は付属資料4に示す。

#### 1-4-4 主要面談者

主要面談者を付属資料5に示す。

#### 1-4-5 現場視察・ヒアリング概要

上記以外の現場視察・ヒアリングは付属資料6のとおり実施した。

### 1-5 プロジェクト計画の策定

以上の調査結果を踏まえ、調査団と LNTA、サバナケット県観光局（PTO）との間の協議を経て最終的なプロジェクト計画案、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）案が策定された〔付属資料1-1（和文）、1-2（英文）〕。この際、3回の PCM ワークショップで出されたプロジェクトに関する参加者のアイデアが失われることのないように、「活動」の更に細かいレベルである“Sub-Activities”の例として、系図に示した（付属資料1-3）。

## 第2章 協力の必要性・位置づけ

### 2-1 プロジェクトの位置づけ

#### 2-1-1 ラオス側政策上の位置づけ

##### (1) 第6次国家社会経済開発計画(2006~2010)(National Socio-Economic Development Plan 2006~2010)

第6次国家社会経済開発計画2006~2010において、観光を含むサービスセクターは、経済成長・雇用の創出・国民の福祉向上に対する貢献を期待されており、観光インフラストラクチャーの改善、輸出用観光製品の競争力強化などの政策があげられている。第6次計画では、これまで以上に開発における民間投資の役割が重要視され、地場産業の育成や観光開発等を通じて、ラオス国内の各地域の持続的な開発を実現しようとしている。

##### (2) ラオス観光戦略(Lao PDR Tourism Strategy 2006~2020)

ラオス観光戦略(2006~2020)は、上記の第6次社会経済開発計画(2006~2010)のほか、社会経済開発戦略(2001~2020)や、これまでに採択された観光開発政策、過去15年間の観光セクターの実績等を参照してLNTAが策定した観光戦略である<sup>2</sup>。

様々な民族から構成されるラオスの文化、習慣、歴史的建造物や遺跡などとともに、人々の寛容さ、微笑み、互助の意識、平和や政治的安定、経済の安定成長、静かさや社会の安全を活かしつつ、メコン地域の1国として東南アジア諸国連合(ASEAN)の繁栄をとらえていくとの戦略が示されている。

具体的には、以下の8つのプログラムがあげられている。

- ① 観光サイトを調査し、目録(Inventory List)を作成する
- ② 観光サイトの開発を計画する
- ③ 地域ごとの観光マスタープランを策定する
- ④ 県ごとの観光マスタープランを策定する
- ⑤ 参加型エコツーリズムを開発する
- ⑥ 観光産業に、国内の資源を活用する(ホテルやレストランの備品・内装・食材など)<sup>3</sup>
- ⑦ 環境を保護する(ゴミ捨て場、トイレ、ゴミ処理場などの管理)
- ⑧ 観光関係の統計を収集する

このうちサバナケット県については、上記③のなかで、タイからベトナムへの「通過点からストップ・オーバー地点への転換」と、「観光資源による収入の確保」が重要とされている。

##### (3) サバナケット県社会経済開発計画(2006~2010)

サバナケット県の社会経済開発計画(Savannakhet Socio-Economic Development Plan)では、サービスセクターの項で観光セクターの開発計画が述べられている。文化・自然・歴史的価値をもつ観光サイトの改善と保全、特に国道9号線沿いの観光サイトの開発が

<sup>2</sup> これとは別に、エコツーリズム戦略計画(National Ecotourism Strategy and Action Plan)2004~2010が、オランダ開発機構(SNV)の支援により策定されている。

<sup>3</sup> スローガンは“Laos made, Laos use, Laos developed”

あげられている。同時に、ゲストハウスやホテル、レストラン等を含めた観光セクターのマネジメントの質が改善されるべきとしている。

なかでも優先プロジェクトとしてあげられているのは、次の2つである。

- ① 自然・歴史・文化的観光サイトの改善（州予算 10 億 9,700 万キップ<sup>4</sup>）
- ② Xonnabouly 郡における野外恐竜博物館の建設（州予算 20 億キップ）

## 2-1-2 日本の援助政策上の位置づけ

### (1) 対ラオス国別援助計画（2006）

2006 年に策定されたわが国の「対ラオス国別援助計画」では、3 つの援助目標として、貧困削減の促進、社会経済インフラストラクチャー整備及び民間セクター育成支援、能力開発支援があげられている。このうち2つ目の目標の中では特に、「経済活動の拠点となる首都ビエンチャン、東西経済回廊の中核都市サバナケット等を重点地域とする」とし、又民間セクター育成支援については、「外貨獲得源及び政府の税収基盤の拡大にも貢献するとして成長が期待される、観光分野を含む民間セクター育成のための環境整備、制度構築、行政サービスの機能強化のための技術支援を実施する」としている。

さらに同計画では、「わが国援助実施上のアプローチ」の1つとして、メコン地域案件の実施にあたっては、「周辺国とのネットワーク化に伴う移動人口の増加、及びそれがもたらす HIV/AIDS 等の感染拡大のリスクについての配慮を行うとともに、必要に応じて適切な防止・緩和措置を検討する」ことが明記されている。

### (2) 「日本・メコン地域パートナーシップ・プログラム」（2006 年 12 月）

メコン地域の開発は、個別の国を対象とした開発に加え、アジア開発銀行（ADB）の拡大メコン地域（Greater Mekong Sub-region : GMS）構想を軸に進められてきた。日本も 2001 年 11 月には東西回廊の整備、第 2 東西回廊（ホーチミンーバンコク）の整備を協力の柱とすることを表明した。同年 12 月にはタイ・ラオスの 2 国間にまたがる広域インフラストラクチャー事業（第 2 メコン国際橋架橋事業）に円借款を供与し、更に 2003 年にはメコン地域開発に対する 15 億ドルの支援を表明した。続いて 2006 年 12 月の ASEAN 首脳会議では、今後 3 年間、ラオス及びメコン地域に対する政府開発援助（ODA）を拡充すること、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV）に対し約 4,000 万ドルの新たな支援を行うことを表明するなど、日本政府はメコン地域の開発を積極的に支援する方針を明確にしている。

### (3) ラオス国別事業実施計画（2006 年度 JICA ラオス事務所）

同計画では、6 つの重点分野の1つとして、「民間セクター強化に向けた制度構築及び人材育成」があげられている。このうち「民間振興プログラム」としては、投資・貿易の促進とともに、観光産業についても、「外貨の稼ぎ手として、産業発展の起爆剤となる可能性を有している」としている。また、地域特性を生かした経済活動の活発化に資するため、一村一品（ODOP）をいくつかの県で展開するにあたっては、観光開発に対する協力と連携して実施していく方針を掲げている。

---

<sup>4</sup> 1 円=約 90 キップ

## 2-2 現状と問題点

### 2-2-1 対象地域の概況

サバナケット県はラオス中部にあり、面積は2万1,774 km<sup>2</sup>（四国地方よりやや大きい）で、西側はメコン川をはさんでタイと、東側はベトナムに隣接する。県の人口は82万6,000人（2005年センサス）で首都ビエンチャン（69万8,000人）をしのぎ、ラオスで最大の人口をもつ県となっている。県内には、低地ラオ族、プータイ族、タイダム族、カタン族、モンコン族、ワリ族、ラワ族、スワイ族、カポ族、カルーン族、タオイ族の11民族が暮らす<sup>5</sup>。

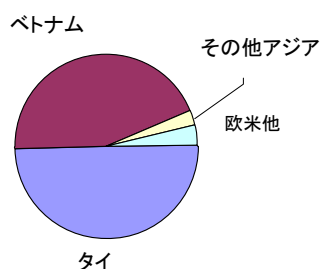
全長約1,500kmの「東西回廊<sup>6</sup>」は、ベトナムのダナンから、ラオス、タイを通り、ミャンマーのモーラマインまでインドシナ半島を横断する。サバナケット県を東西に横切る国道9号線は、このうちのラオス部分を形成する国際幹線道路である。

### 2-2-2 サバナケット県の観光セクター<sup>7</sup>

サバナケット県には年間で19万人余りの外国人旅行者が訪れる。内訳をみると、タイとベトナムからが圧倒的に多い（図2-1）。県内には、133のホテル（計380室）、62のゲストハウス（計856室）、53のレストランが存在する（数字はいずれも2006年<sup>8</sup>）。

サバナケット県を訪問する旅行者数は、図2-2のとおり、米国同時多発テロの翌年の2002年と、イラク戦争の開始及びインドネシアにおけるテロに重症急性呼吸器症候群（SARS）の発生が重なった2003年は伸び悩んだが、2004年にASEANフェアのホスト国を務めたのを契機に、以降は大幅な増加傾向となっている。

第2メコン橋の開通（2006年12月プレ・オープン、2007年1月一般開通）による旅行者の増加についてみてみると、2007年2月の第2メコン橋側からの入国者数は、2006年同月比で約30%の増加となっている<sup>9</sup>。



出典：Statistics of tourists (PTO, 2007)

図2-1 サバナケット県を訪れる旅行者の出身地内訳（2006年）

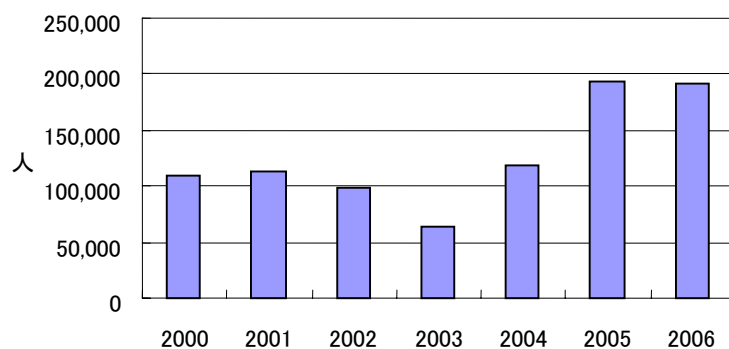
<sup>5</sup> The Official Lao People's Democratic Republic Tourism Guide Book 2006, Lao National Tourism Administration

<sup>6</sup> ただしミャンマー部分は未完成。

<sup>7</sup> サバナケット県における観光セクターについては、プロジェクト形成調査「メコン地域開発」に詳しい。

<sup>8</sup> PTO 提供資料による。

<sup>9</sup> 統計が四半期ごとの発表であるため事前評価時点では正式なデータはないが、第2メコン橋のラオス側出入国管理事務所におけるヒアリングによると、1月10日～2月28日の入国者数は3万7,513人であった。これを日割り計算して2月を2万1,000人と見積もり、2006年同月（1万6,294人）と比較して算出した。



出典：Statistics of tourists (PTO, 2007)

図 2 - 2 サバナケット県への旅行者数の推移

### 2 - 2 - 3 サバナケット県の観光セクターの課題

今回の調査の結果、サバナケット県観光セクターの課題を整理すると次のようになる。

#### (1) 全体計画/戦略の策定の必要性

上述のように、東西回廊の恩恵によりサバナケット県へ入る旅行者は大幅に増加しているが、多くが通過するだけか、止まっても昼食か休憩をとるのみでベトナムあるいはタイへ向かう。東西回廊がサバナケット県の経済社会の向上に貢献するためには、旅行者を県内に引き留めるに足る魅力と努力が必要である。

この点については、LNTA・県観光局 (PTO) とともに十分認識しているが、そのための全体的な戦略はまだ策定されていない。副知事・サバナケット PTO からのヒアリングによれば、同県をタイ側からベトナム側へ横断する 7 日間ツアーの構想をもっている (これにより沿線のほぼすべての地域が直接・間接に裨益する) が、現状からすると実現性に乏しく、より短期間のプランから始めることが適当と考えられる。

また、前述のようにラオス観光戦略 (2006~2020) でも各県に「観光マスタープラン」の策定を促しており、LNTA における協議でも県の全体計画策定の必要性が強調された。

#### (2) 観光情報の整備と効果的な提供

県内の観光サイトの情報は、現在のところ散在しており、サバナケット PTO でも集約しきれていない。海外からの観光客は、『ロンリープラネット』等のガイドブックをみて同地を訪れる。隣国からの旅行者はツアー会社のパンフレットで情報を得るか、あるいは特段の情報を入手せずに訪れる。

現在、市内の観光情報センターでは、エコツーリズムを中心とした観光情報の提供を行っているが、県内の観光情報をより拡充し、又ホームページを開設するなどしてサバナケット県の魅力をより多くの人に伝えるためのプロモーションを強化する必要がある。第 2 メコン橋のたもとの観光案内所に至っては、開設後間もないとはいえ、その存在が旅行者にほとんど認識されておらず、せっかくの地の利を生かせないでいる。ここでは、同県の観光情報については、エコツーリズムのパンフレットを壁に掲示している程度である。

### (3) 観光資源の開発

国道9号線沿いには戦跡や恐竜の足跡、寺院などの潜在的な観光資源が点在するが、これらはアクセスの問題に加えて上述のような情報不足もあり、旅行者に効果的なアピールができずにいる。また、観光資源の周辺での休憩所、土産売り場などが少ないことも「観光地」としては一考が必要である<sup>10</sup>。

他方、欧米人観光客のなかには、観光地化しておらず、静かで、人々が穏やかで、それほど特別なものはないがリラックスできるという点にサバナケット県の魅力を見いだしている層もある<sup>11</sup>。第2メコン橋の近くではカジノの建設も始まっており、人や車両の行き来が増えることによって、町の雰囲気が変わり、現在のサバナケット県の魅力が損なわれてしまう可能性も高い。ほかの観光地にはないサバナケットのもつ特色を失わずに、かつ観光客が満足できるようなバランスの取れた観光開発が課題である。

### (4) 特産品開発

旅行者がサバナケット県の土産物を求めようとしても、野菜や果物を除いては、地元の特産品が少ない。ベトナム国境に近いピンの市場ではベトナム製品が、又タイ国境に近いカイソン・フォンビヘン郡内の市場ではタイ製品が並び、特に外国人観光客にとっては買い物の楽しみが少ない。

織物の得意な少数民族も暮しており、地元の特色を生かした手工芸品の開発を促進することで、地場産業の振興・所得の向上にもつながると考えられる。農産品（例えば乾燥牛肉）を土産用にパッケージを工夫することだけでも違うであろう。またサバナケット県以南の4県（サラバン、セコン、チャンパサック、アタプー）での特産品を国道9号線沿いで販売できれば、4県の貧困削減にもつながり得る<sup>12</sup>。

### (5) 観光産業従事者のサービスの向上

ガイドや、レストラン従業員などのサービス向上の必要性、特に地元の観光資源や歴史に関する知識や語学力の不足が、PCM ワークショップやFGDの参加者から指摘された。隣国のタイやベトナムに比べると改善の余地が大きいことは、地元の人々も十分認識している。

### (6) 担当部局のキャパシティ・ビルディング

人や車両の行き来の急激な増加に対応するため、LNTA・サバナケットPTOで対処すべき問題も多様化し、観光局職員の能力強化が必要となっている。例えば、計画策定、ベースライン調査、関係諸機関との調整、海外に向けたマーケティング、マネジメント、語学力などである。

---

<sup>10</sup> 例えば、セノ近郊の製塩所は、規模も大きく、特に海外からの旅行者には非常に興味深いと思われ、アクセスもカイソン・フォンビヘン郡内から15分程度と決して悪くはない。しかし、ときに炎天下の屋外での見学となることから、見学が終わったあとの休憩所等があれば、又製品の塩も実用的な一般消費だけでなく、土産としてパッケージや持ち帰りやすい大きさに配慮した商品があれば、観光地としての魅力は増すと思われる。

<sup>11</sup> 旅行者インタビューによる。

<sup>12</sup> 例えばセコン県ボラウェン高原産のアラピカ・コーヒーは、高品質で知られている。

## (7) 様々な負の影響への対応

サバナケット県での調査では、PCM ワークショップでも、FGD でも、旅行者の増加による観光ビジネス環境の向上とともに、負の影響に関する懸念がたびたび表明された。これらは、例えば買春の増加、HIV/AIDS や性病の増加、深夜営業・喧嘩や暴力などによる治安の悪化、外国のファッションによるラオス文化の侵食、ゴミの増加、交通事故の増加など、多岐にわたっている。

## 2-3 他ドナーの協力状況

サバナケット県の観光セクターで活動しているドナーは、SNV、ドイツ技術協力公社 (GTZ)、ADB、カナダ国際開発庁 (CIDA) がある。うち、最も活発なのが SNV である。

### 2-3-1 SNV (The Stichting Nederlandse Vrijwilligers)

SNV は 1993 年に首都ビエンチャンで活動を開始した、オランダの開発機関である。援助実施機関というよりはアドバイザーサービスが主体で、オランダ政府からの資金のほか、ADB 等からも資金を得ながら、欧州連合 (EU)、世界観光機関 (WTO)、ラオス国立大学と協力しつつ活動を実施している。LNTA の大臣・幹部職員対象のキャパシティ・ビルディング研修も実施中である (2006 年 10 月～2007 年 10 月)。

地方での活動としては、現在はルアンパバンとサバナケット県に地方事務所を開設している。サバナケット県の事務所は 2006 年開所で、同県のほか、カムアン県、チャンパサック県も活動範囲としており、事前調査時の体制は、専門家 7 名、サポートオフィサー 2 名であった。活動分野は (1) エコツーリズム (Pro-poor Sustainable Tourism。サバナケット県及びカムアン県で実施)、(2) 貧困者のための市場アクセスの改善 (具体的には中小企業振興及び、ラオ女性同盟による村落開発基金設定などの小規模金融。サバナケット県で実施)、及び (3) ガバナンス [カムアン県で、世界銀行の資金 (日本基金) により実施] である。

このうち (1) エコツーリズムに関する活動の一環として、サバナケット県のサバナケット PTO に専門家 1 名が常駐し、年間活動計画 (Annual Activity Plan) で合意した活動に関するアドバイスを行っている。2007 年の活動は、

- ① エコツーリズムに関する組織の改善
- ② エコツーリズムに関する村の意識向上 (自然環境保全)
- ③ サバナケット PTO スタッフのキャパシティ・ビルディング
- ④ タット・インハン寺院に近接した観光情報センターの改善
- ④ ドン・ナタ村におけるトレッキングツアーの改善、手工芸品の振興、ガイドの改善
- ⑤ サバナケット PTO と関係機関の協力・調整の改善 (観光長期計画の策定開始、ベトナム・タイとの協力推進)
- ⑥ サバナケット PTO による、ラオス・ベトナム・タイの旅行会社に対するマーケティングの改善、展示資料の作成

以上で、SNV 側の予算は年間 5,000US ドルとなっている。

### 2-3-2 GTZ

GTZ はアカ族の住む北部ルアンナムタ県において、ベトナムの旅行会社 Exotissimo 社との協力でエコツーリズムを展開している。GTZ は又 2007 年 1 月から 2 年間の予定で首都の LNTA にマーケティングの専門家を派遣している。主たる業務は海外の観光客に向けたエコツーリズムのプロモーションとのことである<sup>13</sup>。

サバナケット県においては、民間セクター振興の一環として、2006～2007 年にかけて同県で官民合同ワークショップを実施し、観光分野を含め、民間セクターと公共セクターとの対話を促している (Public Private Dialogue Project)。

### 2-3-3 ADB

ADB は、拡大メコン地域構想観光セクター戦略 (Greater Mekong Sub-region Tourism Sector Strategy) の一環として、第 2 メコン橋の管理棟に新設された観光案内所へのコンピューターの供与、展示支援 (2,000US ドル) を行ったほか、国道 9 号線沿い地区への投資促進セミナーを開催している。

### 2-3-4 CIDA

CIDA は、ピン郡に資源開発センター (Resource Development Center。地元の人たちからは“ライブラリー”と呼ばれている) を建設し、専門家の派遣と機材や図書の供与を行った。プロジェクトは 2007 年 3 月に終了しているが、このセンターのなかにツーリズム・デスクを置き、近隣の国立公園への 1～2 日間のツアーや、ほか地域でのエコツーリズムの案内や予約受付を行うことになっている。

### 2-3-5 国際金融公社 (IFC)

IFC-Mekong Private Sector Development Facility<sup>14</sup>では、観光客の調査を実施中である。観光客の満足度、消費のパターンなどを調査内容とし、結果は 2007 年 4 月に一報が、最終報告書が 9 月に出る予定である<sup>15</sup>。

---

<sup>13</sup> GTZ 専門家ヒアリング (2007 年 3 月 14 日) による。

<sup>14</sup> IFC により 1997 年に設立された、ADB 及び日本を含む 11 カ国による共同基金。持続可能な民間セクター開発により、ラオス、カンボジア、ベトナムの貧困削減をめざす。

<sup>15</sup> SNV ヒアリング (2007 年 3 月 14 日) による。

## 第3章 プロジェクト戦略

### 3-1 基本方針

以上のような背景から、2007年度実施予定の「東西回廊における実践的な観光開発」技術協力プロジェクトでは、東西回廊が位置するサバナケット県を中心に実践的な観光開発を推進し、施策面での改善や、サービス品質の向上、観光に係る販売促進（マーケティング・プロモーション）能力、更に LNTA とサバナケット PTO における人材開発能力を向上させることを目的とする。このプロジェクトの実施により、LNTA とサバナケット PTO が、観光開発の現状と課題を分析し、これに基づき、東西回廊沿いで民間産業との連携を模索しつつ、具体的な地域観光開発計画（パイロットプロジェクト）を策定できるようにすることをプロジェクトの基本方針とする。

まず、（既存の調査を極力活用しつつ）県の観光資源の洗いだし、可能性調査を行い、観光戦略を策定する。この作業は専門家とサバナケット PTO を中心に、民間の観光産業関係者を加えて行う。南部4県の観光情報や特産品も合わせて提供できるように配慮することで、南部の開発の支援も視野に入れる。

サバナケット県の貧困ライン以下の住民の比率は、首都ビエンチャン特別市に比較すると3倍となっている<sup>16</sup>が、観光振興がもたらす、宿泊・食事・交通・ツアー等の提供のための雇用の増加、露店などインフォーマルセクターの収入機会の拡大、特産品の生産による伝統産業の振興、家具・什器・建設資材需要による地元産業振興、食材提供のための農業振興などにより、貧困削減効果も期待できる。

パイロット・プロジェクトサイトについては、当初ピン郡が想定されていたが、今回の調査では、同地でプロジェクト受け入れの機が熟しているかどうか確認するに至らなかった。このためパイロット・プロジェクトサイトの選定に関しても、県観光戦略計画の策定の際に改めて検討されることとする。

さらに、旅行客の増加による負の影響への対処として、観光モラル委員会（仮称）を関係機関の参加を得てプロジェクト内に立ちあげ、担当機関が対処するように促す仕組みをプロジェクトの活動に組み入れる。この委員会で扱うテーマとしては、地元文化の保護策、売買春の増加に伴う HIV/AIDS や性感染症（STD）などの問題、治安の悪化、ゴミの増加等環境問題や、交通事故の増加等がある。これらに対応するため、観光セクターのみならず、警察や女性同盟、保健局等、県をあげての取り組みを促すため、関係組織が当初から委員会に参加することを想定している。

### 3-2 プロジェクト名

プロジェクト名は「東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト」（英文名：The Technical Cooperation Project on Prototype of Attractive Tourism Center in the East West Economic Corridor for Community Empowerment and Poverty Alleviation）、略称をサバナケット県観光プロジェクト（Savannakhet Tourism Project）とする。

<sup>16</sup> 県別貧困率：サバナケット県 37.1%、首都ビエンチャン特別市 12.2%（1997～1998）〔貧困ラインは、1万5,218 キップ（1人、1ヵ月当たり）〕。National Growth and Poverty Eradication Strategy, PRSP, 2004 による。

### 3-3 協力の実施体制

本プロジェクトは、LNTA 及びサバナケット PTO を実施機関とし、サバナケット PTO を本拠地として、首都の LNTA とは緊密な連絡を保ちつつ実施する。特に、県の観光戦略計画の策定段階では、LNTA とできる限り意見交換をしながら進める。また、重要事項は下記合同調整委員会に諮って協議するものとする。

#### 3-3-1 合同調整委員会 (Joint Coordinating Committee)

合同調整委員会の役割は次のとおりとする。

- ・ R/D の範囲内で活動計画に基づく年間のワークプランを承認する。
- ・ 年間ワークプランの達成状況及びプロジェクトの進捗を検討する。
- ・ プロジェクトに関する重要な事項を検討する。

現在協議中ながら、同委員会のメンバーは、

##### ■ 議長：

- ・ プロジェクト・ディレクター：  
・ Mr. Saly PHIMPHINITH (LNTA, Director General)

##### ■ ラオス側：

- ・ プロジェクト・マネージャー：  
・ Ms. Khantivong BOUNMY (PTO, Director)
- ・ カウンターパート (LNTA)：  
Ms. Sengsonda VANTHANOUVONG (Chief of Promotion Division)  
Mr. Kettasone SUNDARA (Director of Tourism Marketing Division)
- ・ カウンターパート (PTO)：  
Mr. Syha PHANNAVONG (Deputy Director)  
Mr. Bountheung XAYAVONG (Deputy Director)

- 日本側：JICA ラオス事務所長、プロジェクトの派遣専門家、JICA 事務所が推薦する者。在ラオス日本大使館員が適宜オブザーバーとして参加する。

#### 3-3-2 プロジェクト事務所 (Project Office)

サバナケット PTO に置き、専門家が常駐する。専門家はサバナケット PTO における観光振興の活動を通じてキャパシティ・ビルディングを行う。

### 3-4 ラオス側実施機関

#### 3-4-1 LNTA

LNTA は首相府に直結し、観光・ホテル部 (要員 13 名)、マーケティング・プロモーション部 (同)、統計・計画・協力部 (同) のほか、総務部 (25 名)、研修センター (7 名) で構成され、旅行エージェント協会、ホテル・レストラン協会も傘下におさまっている。また 17 カ所にあるサバナケット PTO は、総務部の下に入っている (図 3-1 組織図参照)。GTZ の専門家 1 名はマーケティング・プロモーション部に、又 ADB の専門家 1 名が統計・計画・協力部に派遣されている。

本プロジェクトは、マーケティング・プロモーション部の主管となるが、部同士の連絡は

必ずしも円滑ではない場合もあるとみられることから、プロジェクトを実施していくうえではその点に留意する必要がある。

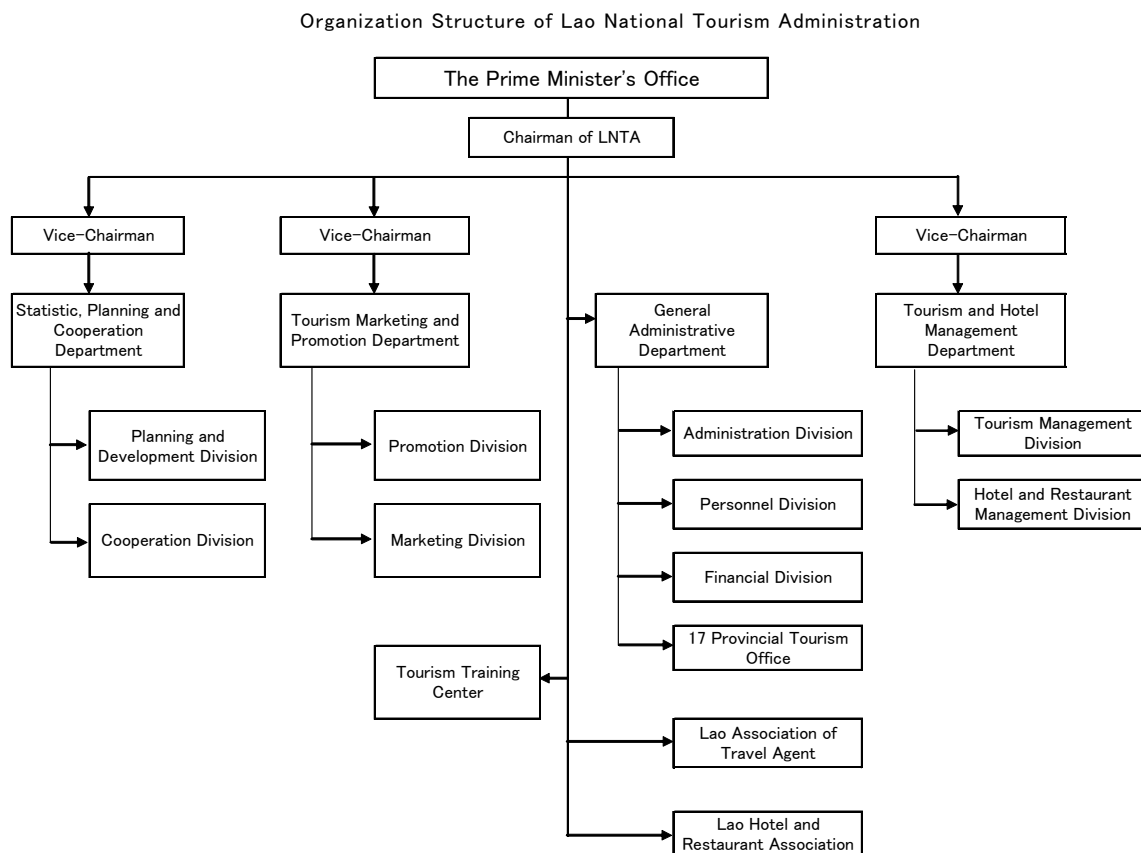


図 3 - 1 LNTA 組織図

### 3-4-2 サバナケット PTO

パーマネント・スタッフ 12 名、契約スタッフ 3 名の計 15 名からなり、組織の構成は図 3-2 のとおり。

予算は、州政府からと、LNTA が管理する観光開発基金（National Tourism Development Fund）の 2 通りある。サバナケット PTO のヒアリングによれば州政府からの予算をプロジェクト用に回すことは困難とのことである。観光開発基金は、観光客がツアーに参加する際の料金の一部を旅行会社等がまとめて納付しており、これが資金源である<sup>17</sup>。この基金の使用には LNTA の承認が必要である。

<sup>17</sup> ADB が拡大メコン地域（GMS）観光セクター戦略の一環として設置したリボルビング・ファンド。観光客が支払う旅行代金の一定割合が同基金に入る仕組みで、ツアー・オペレーター協会などからも納入される。

## Organization Structure of Provincial Tourism Office of Savannakhet

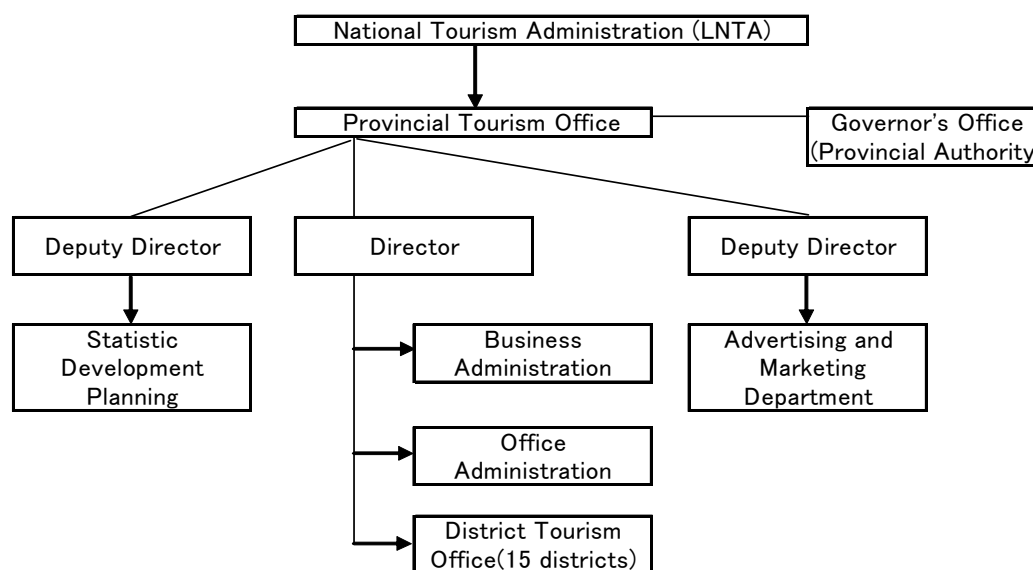


図 3-2 サバナケット PTO 組織図

### 3-5 協力期間

2007年9月～2010年8月

### 3-6 受益者

本プロジェクトの便益を裨益するグループは、直接的及び間接的なものが以下のとおり想定された。

直接的受益者：LNTA 及び PTO 職員、観光産業関係者

間接的受益者：サバナケット県住民

プロジェクトが実施する活動を直接的に受ける又は活動にかかわる者として前者があげられているが、プロジェクトのめざすものはサバナケット県住民が観光産業から波及するなんらかの利益を享受することにある。

### 3-7 モニタリング・評価の計画

終了時評価を 2010 年 2 月頃を実施する。

## 第4章 プロジェクト基本計画

### 4-1 上位目標

要約	サバナケット県の経済が活性化される
達成指標	サバナケット県の地域内総生産が、2013年までにX%増加する

プロジェクトが実施されたことによる長期的な効果として、サバナケット県の経済が活性化されることをめざす。

### 4-2 プロジェクトの目標

要約	サバナケット県において観光産業が振興する
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① サバナケット県内のサービスを利用する旅行者の数(サバナケット県内のホテルの宿泊客数、ツーリストインフォメーションセンター訪問者数、ツアー参加者数等)が2010年までにXX%増加する</li> <li>② 旅行者がサバナケット県に滞在する日数が2010年までにYY%増加する</li> <li>③ サバナケット県におけるレストラン、ホテル、交通サービス、旅行会社の売上げが2010年までにZZ%増加する</li> </ul>

プロジェクト終了時までには達成すべき目標として、サバナケット県において観光産業が振興することをめざしている。本目標は、旅行者がサバナケット県をただ通過するのではなく、県内のなんらかのサービス(ホテル、ツアー等)を利用することをめざしているため、指標①では利用度を測ることとなっている。なお、宿泊者数については、サバナケットPTOが月ごとの統計を取っているのをこれを利用する。

また、指標②ではサバナケット県が旅行者にとって魅力的になったかどうかを調べるため、旅行者の滞在日数の増加を測ることとした。

さらに、指標③では、利用者の増加が売上げに反映されるものとして、観光産業の売上げを指標とした。

### 4-3 アウトプット

アウトプット1	サバナケット県の観光振興における方針が定まり、関係者に広く共有される
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 戦略計画が2008年初期に策定され、これに基づき具体的な活動が実施される</li> <li>② 年間アクションプランが毎年作成され、活用される</li> <li>③ XX種類の観光資源が2009年までに特定され、プロモーションに供される</li> </ul>

本アウトプットは、カウンターパート機関の1つであるLNTAからの強い要望があり、PCMワークショップでも協議のうえ、選択された。本アウトプットはプロジェクトの骨格を形成するものである。

アウトプット2	サバナケット県の観光セクターにおけるサービスが向上する
達成指標	① YY人のLNTA及びサバナケットPTOの職員が2009年までにサービス向上に関する研修を受ける ② ZZ人の民間セクターの観光産業従事者が2010年までにサービス向上に関する研修を受ける ③ 旅行者満足度調査における、サービスに関する満足度が2010年までにXX%高まる

2回のフォーカス・グループ・インタビュー及びPCMワークショップでは、サービスの向上及びそのための人材育成の必要性があげられた。本プロジェクトでは、まず公的機関の人材育成を図り、育成された公的機関職員が民間セクター向け人材育成事業を実施することとなっている。上記人材育成事業の成果として、旅行者の満足度が向上することが狙いの1つとされている。ただし、研修を受けたことが効果となって現れることを確認するため、具体的な測り方を考慮することが求められる。現時点では研修内容の詳細が未確定であるが、①で研修を受けた職員がほかの職員に知識を普及したり、また彼/彼女らが中心となって、②にかかわることを確認するが必要である。

アウトプット3	サバナケットPTO/LNTAと民間セクターの協調の下で、地元観光資源(*1)のプロモーションが行われる
達成指標	① 商品化された観光資源の件数が2009年までにXX件になる ② 観光イベントへの参加、又は開催件数が2009年までにYY件となる

本プロジェクトでは、官民連携の下で、地元にあるがいまだ脚光を浴びていない観光資源について、プロモーションが実施されることが狙いの1つとされている。

\*1 ベースラインサーベイによって特定され、かつ有望視された観光資源。自然、文化的、歴史的観光地、地元特産品などを含む。例えば、アグロツーリズム、機織り体験、そのほかのツアー、地元特産品など。

アウトプット4	サバナケット県の観光に関する情報が旅行者及び関係者に効果的に提供される
達成指標	① XX種類の宣伝用資料(パンフレット・ビデオ等)が2009年までに旅行者に提供される ② Webサイトのアクセス数が2010年までにYY%増加する

現在ツーリスト・インフォメーション・センターが存在するものの、効果的に活用されているといいがたい状況である。したがって旅行者にとってより分かりやすい形での情報提供が行われるべく、本アウトプットが設定された。

アウトプット5	観光開発による負の影響を防止する仕組みが導入される
達成指標	① 観光モラル向上委員会が2008年までに設置される ② ワーキング・グループ(WG)と観光モラル向上委員会が半年ごとに意見交換の場をもつ

今回の調査中、2回のFGD及びとりわけサバナケット県で実施されたPCMワークショップにおいて、観光産業の振興によって観光客増加による（注：プロジェクト自体ではない）負の影響に対しての憂慮が表明された。例えば、売買春が増加しラオスの女性が被害に遭うこと、ゴミの増加等環境問題、治安悪化や交通事故の増加等の問題である。これらに対応するため、観光セクターのみならず警察や女性同盟、保健局等、県をあげての取り組みを促す仕組みとして同委員会の設置が盛り込まれた。

#### 4-4 活動

それぞれのアウトプットを達成するための活動は、以下のとおり設定された。詳細な活動については、PCMワークショップ及び関係者の聞き取り結果及び下記のとおり活動に盛り込まれているベースライン調査の結果等を参考に、WGが取り決めるものとする。

なお、WGの活動内容としては、国道9号線沿線地域を中心とした県全体の観光開発計画の策定、必要に応じ観光関連法令・制度改定への働きかけ、全国並びに近隣諸国・国際的市場までを視野に入れたマーケティング、近隣諸国との連携を図ることなどとする。メンバーは、サバナケットPTO、JICA、地元観光産業の代表、その他の関係者とする。

アウトプット1	サバナケット県の観光振興における戦略が策定される
活動	① サバナケット県の観光開発に関するWGを設置し運営する ② サバナケット県及びラオス南部の有望な観光資源を特定するベースラインサーベイを実施する ③ ベースライン・サーベイに基づき、サバナケット県における地元観光資源を特定する ④ マーケティング戦略を策定できるようLNTA及びサバナケットPTO職員を対象に研修を実施する ⑤ サバナケット県における観光振興の戦略的計画を策定する(*2) ⑥ サバナケット県の観光開発に関する年間アクションプランを作成する ⑦ 旅行者の満足度調査を実施する

\*2 全体的な戦略とともに、必要に応じてパイロットエリアを選定して重点的に観光振興を行うことも視野に入れる。

アウトプット2	サバナケット県の観光セクターにおけるサービスが向上する
活 動	① サバナケット PTO 職員を対象にサービス向上の研修を実施する ② LNTA 及びサバナケット PTO が観光関連民間セクターを対象に、サービス向上の研修を定期的実施する

アウトプット3	サバナケット PTO/LNTA と民間セクターの協調の下で、地元観光資源のプロモーションが行われる
活 動	① (1-③で特定された) 地元観光資源を官民協力の下商品化する ② 商品化された観光資源につき、サバナケット県において販売促進活動を行う ③ 商品化された観光資源につき、国内他地域や他国で販売促進活動を行う

アウトプット4	サバナケット県の観光に関する情報が旅行者及び関係者に効果的に提供される
活 動	① サバナケット県及び南部地域における観光資源の情報を集約する ② 旅行者向けの情報資料を用意し、ツーリストセンターに効果的に展示・配置するとともに、映像資料を用意する ③ LNTA の Web サイト内にサバナケット県の観光産業についての Web サイトを設立し、定期的に更新する ④ 観光情報資料の使用状況に関するモニタリングを実施する

アウトプット5	観光開発による負の影響を防止する仕組みが導入される
活 動	① 観光開発によってもたらされる悪影響を防ぐための観光モラル向上委員会を設置する ② WG と観光モラル向上委員会が定期的に意見交換の場をもつ

#### 4-5 投 入

##### (1) 日本側

##### 1) 長期専門家派遣

チーフアドバイザー兼観光開発

##### 2) 研修員受け入れ

2) - 1 シンガポールのトレーニング機関から講師を招聘しての TOT 研修

2) - 2 JICA 東京主催の集団研修「観光とマーケティング」への派遣

##### 3) 機材供与

デジタルカメラ、プロジェクター、ビデオカメラ、コンピューター、ファックス、スキャナー、プリンター、複写機

##### (2) ラオス側

##### 1) プロジェクト・ディレクター (1名)

- 2) プロジェクト・マネージャー（1名）
- 3) カウンターパート（4名）
- 4) 事務員
- 5) 日本人専門家執務室
- 6) 一般運営経費

#### 4-6 外部条件とリスクの分析

- (1) 活動からアウトプット達成に必要な外部条件  
特になし。
- (2) アウトプットからプロジェクト目標達成に必要な外部条件
  - ① 鳥インフルエンザのような世界的流行病が蔓延しない
  - ② （ラオスへの旅行に影響を与えるような）テロが発生しない
- (3) プロジェクト目標から上位目標達成に必要な外部条件  
特になし。

現在のところ考えられる外部条件は以上であるが、プロジェクト開始後も引き続き、予想されていなかった外部条件がないかどうかには注意する必要がある。

一方、PCM ワークショップ及び FGD において、インフラストラクチャーの整備、特に国道からの支線の改善が指摘されていた。本プロジェクトの活動には含めていないものの、道路が改善されれば観光開発の更なる向上につながり、プロジェクトの一層の効果が期待できる。

#### 4-7 前提条件

プロジェクト開始前に満たされておくべき条件は、以下のとおり。

- ・ 主要な関係者の協力を得られる

なお、主要な関係者とは、LNTA、サバナケット PTO、サバナケット県における商工会議所等の観光に携わる民間セクター、更に必要に応じパイロットエリアの住民を想定している。

## 第5章 プロジェクトの実施妥当性

### 5-1 妥当性

本案件は、以下に示すとおり、ラオスの政策及びニーズ、対象地域のニーズ、わが国の援助政策との整合性を確保し、かつわが国の観光分野の支援経験を活用できるという優位性がある点から、妥当性が高いと判断できる。

#### 5-1-1 ラオスの開発政策との整合性

ラオスの国家政策である『第6次国家社会経済開発計画 2006～2010 (National Socio-Economic Development Plan (2006～2010))』では観光産業が税収増加のために重要な産業の1つとして重要視されている他、LNTA は『観光戦略 2006～2020 (National Tourism Development Strategy for Lao PDR (2006～2020))』において観光産業はラオス国民の利益のために重要な役割を果たすと位置づけられている。よってラオスの政策との整合性は確保されている。

#### 5-1-2 わが国の援助政策との整合性

外務省が取りまとめたわが国の『対ラオス国別援助計画 (2006年9月)』によると、民間セクター強化のための人材育成と、経済政策立案・実施能力強化のための行政能力の向上が重点分野として掲げられている。また『平成18年度国際協力機構ラオス国別事業実施計画 (案) (2006年11月28日)』によると、ODOP運動と連携した観光開発に対する協力を実施して、地域特性を生かした経済活動に資することとしている。さらに日本政府のメコン地域での開発を積極的に支援する方針等があるとともに、上記対ラオス国別援助計画で東西回廊の「経済回廊」化がめざされていることから、わが国の援助政策と合致しているといえる。

#### 5-1-3 対象地域 (サバナケット県) のニーズとの整合性

今回の調査では、FGD をサバナケット県で4回、PCM ワークショップをサバナケット県で1回、及び首都ビエンチャン特別市で2回、計3回実施した。その結果、共通して当該県における観光分野での官民の人材育成、情報整備等の必要性があげられた。

#### 5-1-4 わが国の経験の活用

JICA は過去にボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、ベトナム、カンボジア、ガーナ等において類似案件 (エコツーリズム、地域振興、道の駅、観光関係機関のキャパシティ・ビルディング、観光産業における官民パートナーシップ等) を実施しており、当該経験を生かすことにより、日本の優位性は高い。

#### 5-1-5 対象地域選定の妥当性

本計画の対象地域サバナケット県は、LNTA と JICA ラオス事務所によって選ばれた経緯がある。当該地域は、日本の ODA 供与によって 2006 年 12 月に開通した第 2 メコン橋のラオス側出入国口に位置し、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナムを横断する「東西回廊」が通じている。また東西回廊からラオス南部 4 県 (チャンパサック県、セコン県、サラワン県、

アタプー県) へのアクセスの要の位置にある。第2メコン橋開通により観光客の数は増加しているが、観光情報の未整備や官民双方の当該分野における人材育成が十分でないことから、観光客は当該地域を通過することが多く、同県は回廊からの利益を十分享受できずにいる。

一方、地元コンサルタント (Mixai Techno Engineering & Consulting Co, Ltd) が実施した ODOP に関する調査でも、サバナケット県及び南部4県において綿織物やトレッキングなど複数の有望資源が特定され、それら資源を有効活用できる見通しがあることから、当該地域でのプロジェクト実施は適当と考えられる。

また、今回調査団が面談したラオス政府関係者、民間セクター関係者等のいずれからもサバナケット県を対象地域として選定することについて何ら否定的な意見を述べる者はいなかった。

#### 5-1-6 ターゲットグループ選定の妥当性

本計画では、直接裨益者として観光産業にかかわっている行政官及び民間セクター双方の人材育成を図っている。これは国別援助政策にも合致するばかりでなく、FGD 及び PCM ワークショップでも官民双方の人材育成や情報整備等のニーズが把握されており、設定は妥当である。

一方、間接的裨益者としては、サバナケット県住民を想定しており、上記直接裨益者からの波及効果及び経済効果によって、最終的にサバナケット県住民が裨益することをめざしている。これは上記 (5-1 (1) ラオスの開発政策との整合性) にもあるとおり、観光を通じた貧困削減に寄与するものである。

#### 5-1-7 ほかのドナーとの相乗効果

首都ビエンチャンに位置する LNTA には、GTZ から派遣されたマーケティング専門家が活動を開始している。JICA から派遣を予定されている専門家はサバナケット県を拠点とし、GTZ 専門家とは、それぞれ地方拠点と中央政府という棲み分けをして、協力関係をもちながら活動にあたることとなっている。

また観光分野では、既に SNV が支援をしており、サバナケット PTO にアドバイザーが派遣されている。また、サバナケット県における SNV 事務所では、Pro-poor sustainable tourism (PPST) 分野でエコツーリズムのプログラムを立ちあげ、現在マーケティングにフォーカスした活動を実施している。

さらに第2メコン橋出入国管理棟には観光案内所が設置されているが、同案内所には ADB から供与されたコンピューター等が配置されている。サバナケット県ピン郡には、CIDA の協力により資源開発センターが建設されている。

本計画は、これらの実績を活用し、かつプロジェクトで組織される WG がイニシアチブを取って他ドナーに働きかけることにより、上記の他ドナーからの支援と協力を得て、相乗効果を生じさせることができると考えられる。

### 5-2 有効性

以下のとおりプロジェクト目標達成に必要なアウトプットが選ばれ、併せてプロジェクト目標達成に必要な外部条件が検討された。

- ・プロジェクトでは、アウトプット1として観光開発にかか係る骨格となる戦略が策定され、アウトプット2として観光セクターのサービス向上が図られ、アウトプット3として官民連携でのプロモーションが実施され、アウトプット4として観光関連情報が旅行者に効果的に提供される。またアウトプット5としては旅行者増加によって憂慮される負のインパクトに対しての予防策が図られる。以上のように、プロジェクト目標達成に不可欠な要素及び負の影響に対する対応が盛り込まれている。
- ・プロジェクトの実施機関関係者をはじめ、民間セクターを含む多数のキーパーソンが計画策定段階からかかわっており、プロジェクトが円滑に実施される可能性が高い。
- ・外部条件については、「鳥インフルエンザのような世界的流行病が蔓延しない」と「(ラオスへの旅行に影響を与えるような)テロが発生しない」があがっているが、ラオス中部に限っていえば比較的治安はよく、テロが引き起こされるような要因は少ない。一方、外部条件としてはあげられていないが、支線道路補修等インフラストラクチャー整備についても、実施されればプロジェクトの効果をより一層高める要因となり得る。
- ・プロジェクト目標の指標（①サバナケット県内のサービスを利用する旅行者の数（サバナケット県内のホテルの宿泊客数、ツーリストインフォメーションセンター訪問者数、ツアー参加者数等）が2010年までにXX%増加する。②旅行者がサバナケット県に滞在する日数が2010年までにYY%増加する。③サバナケット県におけるレストラン、ホテル、交通サービス、旅行会社の収益が2010年までにZZ%増加する）は、当該目標が官民連携の下で達成されねばならないとの方針から設定されたものである。同指標には数値目標を示すことが望ましいが、今後のベースライン調査及びカウンターパート機関との協議に基づき設定することが妥当と考えられる。

### 5-3 効率性

以下のことから効率性は高いと判断される。

- ・アウトプットの指標は「4-3」にて記載したとおりであり、アウトプットの内容をとらえている。ただし目標値については、活動開始後速やかにベースラインを取り、WGで協議の後具体的な数値を記載する必要がある。また指標入手手段については、既にサバナケットPTOが統計を取っているものもあるほか、プロジェクトの活動として旅行者満足度調査を実施することが計画されており、適切な手段が検討されたといえる。さらに指標の入手がキャパシティ・ビルディングの一環として盛り込まれている。
- ・アウトプットを産出するための活動は「4-3」にて記載したとおりであり、アウトプットを産出するに十分である。プロジェクト開始後新たに必要性が認識された活動については、適宜WGで協議のうえ、追加することとする。活動からアウトプットに至るまでの外部条件は今回の調査では発見されなかったが、想定外の外部条件がないか、引き続き観察する必要がある。
- ・本案件は研修及び専門家によるOJT形式での市場調査や計画策定等の技術移転に取り組む計画である。投入も専門家主体で、大規模な設備や資機材の投入は予定されておらず、必要最低限の経費で運営される計画である。なお、長期専門家については、効率性確保の観点からもできるだけ早い時期での赴任が望まれる。

#### 5-4 インパクト

プロジェクトの正のインパクトとして、サバナケット県の経済が活性化し、サバナケット県の GRDP が増大することが期待される。

プロジェクト実施前から観光客数は増加傾向にあるが、観光産業の発展によって予想される負のインパクト（ゴミ投げ捨てるの増加や、HIV/AIDS 感染者の増加等）に対しては、観光モラル委員会を設置し、観光セクター関係者のみならず、地域をあげて予防策を講じるよう活動に盛り込んでいる。

#### 5-5 自立発展性

本案件は以下の点から自立発展性が見込まれる。

- ・カウンターパート機関である LNTA 及びサバナケット PTO の人材育成を活動に盛り込んでおり、組織的な自立発展性を担保するものである。
- ・財政面では、ラオス側が負担する経費が、LNTA が管理する観光開発基金から充当される見込みである。
- ・さらに技術面においては、第三国で研修を受けた LNTA 職員が民間セクターの研修の実施に直接かかわるため、対象地域及び受益者にとってニーズがある内容が取捨選択されることが予想され、技術及び知識の定着には問題がないものと考えられる。
- ・プロジェクト実施にあたっては、関係者のオーナーシップを醸成するため、関係者による WG で意思決定が行われる。プロジェクト終了後もこの仕組みが継続的に運用される必要がある。

#### 5-6 ジェンダー評価

プロジェクトをジェンダーの視点から評価するにあたり、①ターゲットグループの男女双方のニーズが把握されているか、②プロジェクトの便益が男女双方に公平にもたらされるように計画されているか、③男女双方の（潜在）能力を生かすように計画されているか、④男女双方が参加できるプロジェクトになっているか、⑤ジェンダーに関して予測される負の影響への対策が組み込まれているか、の5つの評価項目を用いた。ジェンダー評価の結果、プロジェクトは5つのジェンダー評価項目をおおむね満たしており、ジェンダーの視点から公平に計画されていると評価できる。しかし、5-6-5で後述するように、プロジェクトが実施されることによる負の影響が予測されており、プロジェクト実施期間中、それらの負の影響は慎重にモニタリングされる必要がある。各ジェンダー評価項目に基づいた評価結果は以下のとおり。

##### 5-6-1 ターゲットグループ（男女双方）のニーズの把握

ターゲットグループのニーズを把握するために、PCM ワークショップと FGD が実施された。PCM ワークショップ及び FGD には、男女双方が参加し、観光振興のために自分たちができることについて意見を出し合った。PCM ワークショップはサバナケット県と首都ビエンチャンの双方で開催された。いずれのワークショップにおいても、ほぼ男女同数が参加した（サバナケット県での男女比は10対9、首都ビエンチャンでの男女比は5対4）。PCM ワークショップでは、「サバナケット県の観光産業が推進される」を中心目的とし、同中心目的を達成するために具体的に何ができるかについて討議が行われた。

FGD はカISON・フォンビヘン郡とピン郡で行われ、男女別のニーズを把握するために、いずれの FGD も男女別で実施された。FGD では、「観光客の増加をどのようにとらえているか（どのように生かしたいか）」「観光客を迎えるにあたり、自分としては何ができると思うか」などの観光振興に関する質問がファシリテーターから投げかけられた。参加者からは、レストラン経営や特産品の宣伝などの意見が出された。FGD や PCM ワークショップで参加者から出された意見（観光産業推進のために自分たちができる・やりたい活動）がプロジェクトに含まれていることから判断して、彼（女）らはプロジェクト活動に積極的に参加するものと評価できる。

PCM ワークショップは男女混合で行われたが、FGD は男女別で行われたので、FGD では男女が異性の目を意識することなく、又、ジェンダー不平等を生み出す社会・文化的価値観に左右されることなく、率直な意見を出し合ったと考えられる。以上の理由から、PCM ワークショップと FGD を通じてターゲットグループの男女双方のニーズが把握され、それが反映されたプロジェクトになっていると評価できる。

#### 5-6-2 男女双方に対するプロジェクトの公平な便益

プロジェクトでは、男女双方に公平な便益が及ぶような実施体制がとられている。例えば、PDM の活動 1-1 ではサバナケット PTO と LNTA のイニシアチブの下で観光関連機関の代表者が集まって、プロジェクトの WG が組織され、プロジェクトの重要な事項は WG で決定されることになっている。観光産業に従事する関係者の男女比は男性のほうが多いようであるが<sup>18</sup>、本事前評価調査の際に行われた PCM ワークショップ、FGD、JICA との協議に、サバナケット PTO をはじめとする関係者のほぼ男女同数が参加してプロジェクトに関する意見を述べている。本事前評価調査の様々な協議の場に参加していた関係者が WG の主要メンバーになることから、WG の会議の場でも男女双方の視点が盛り込まれるものと考えられる。

プロジェクト活動に関する重要事項を決定する場（WG）に男女双方が平等に参加するということは、プロジェクト対象地域の男女双方にプロジェクト活動への参加の機会が与えられ、便益が及ぶものと判断される。例えば、活動 2-1（「サバナケット PTO 職員を対象にサービス向上の研修を実施する」）を実施する際にも、男女双方に研修機会が与えられるものと考えられる。したがって、研修を受講したサバナケット PTO・LNTA スタッフが講師となって民間セクター関係者に研修を実施する際にも、受講生の男女比に配慮した研修を計画・実施するものと考えられる。

成果 3（サバナケット PTO/LNTA と民間セクターの協調の下で、地元観光資源のプロモーションが行われる）に関しても、成果 3 を生み出すための活動に、男女双方が参加し、それらの活動から男女双方が便益を得るものと判断できる。既に 5-6-1 で述べたように、男女双方が PCM ワークショップと FGD で自分たちが観光振興のためにやりたいことを述べており、そして、そのやりたいことがプロジェクトの活動として取り入れられている。地元の農産物を使ってレストランを経営する者もいれば、手工芸品を製造して土産物として販売する者もいるであろう。プロジェクト開始後は、自分たちがやりたかった活動に意欲的に取り組むものと期待できる。

妻が現金収入を得るために働き始めることに夫が反対するのではないかと懸念があ

<sup>18</sup> この情報は、Lao Women's Union Tour Co., Ltd でのヒアリングによる。

るかもしれない。しかし、FGD で男女双方の参加者が述べているように、家計所得の向上に貢献する限りは、夫は決して反対することはないということである。[z1]したがって、観光振興のために自分たちが取り組みたい現金収入創出活動に従事することにより、家計の総所得が増加し、生活水準が向上すると考えられることから、男女双方がプロジェクトの便益を享受するものと判断される<sup>19</sup>。

### 5-6-3 男女双方の（潜在）能力の活用

第3番目のジェンダー評価項目に関しては、サバナケット県の観光振興のプロセスにおいて男女双方が既にもっている技術・能力が活用されると評価できる。特に、成果3を生み出すための活動では、住民（男女双方）の既存の技術・能力が有効活用されると考えられ、少数民族の女性が有する染め・織りの技術を生かした特産品開発などが具体的な活動としてあげられる。プロジェクトは既存の地域資源を生かした観光振興をめざしているので、地元住民は男女双方ともに3-1、3-2、3-3などのプロジェクト活動に参加することになる。特産品開発において、地元住民がもつ技術や能力の有効活用は不可欠である。特産品開発だけでなく、レストランの経営やホームステイの実施などにおいても、男女双方の能力が活用されることになるであろう。レストランやホームステイに関する情報は、成果4に関連した活動で作成されるパンフレットなどに盛り込まれることになるであろう。

女性が現金収入を稼ぐことに男性が反対するという国もあるが、ラオスはそのような国の範疇には入らないようである。女性が現金収入を得るために働くことにより、家庭で男女間のシナジー効果が表れているようである。男女双方が技術・能力を生かし、サバナケット県の観光推進に貢献できる手段として、FGD の参加者は以下の可能性をあげている。

#### （1）伝統的な手織り技術の活用

FGD で男女双方のグループで指摘されたように、参加者は、少数民族の女性が織る布や編む籠は、地域の特産品として観光客の土産物に適するのではないかと期待している。伝統的な手織りの技術は僻地に住む女性に特有のものであり、男性は同様の技術をもっていない場合がほとんどである。手織りの布による製品が魅力的な土産物になるという潜在性を秘めているが、少数民族の女性は、これまでに商品として販売するという考えを思いつくことはなく、自分たちの手織りの技術を家族のために生かしてきただけである。最近、約20人のアメリカ人観光客がピン郡を訪れ、少数民族の女性が作った手工芸品を土産として買っていったという事実もあり、それらの手工芸品が観光客向けの土産物として通用するのではないかと期待できる。

ピン郡での FGD の参加者は、少数民族の女性が販売目的で手工芸品を作るように促していきたいと考えている。ある女性参加者は、「特産品を展示する場所が必要だ。地元住民は、伝統的な技術をもっている。ピン郡には多くの少数民族が居住しており、彼女たちは手織りや籠編みの技術をもっている。特に、手織りの布は魅力的である。できる限り少数民族女性の（布織り・籠編み）を支援したい」と述べている。プロジェクトの活動計画表（PO）は、まだ作成されていないが、彼女の意見は PO を作成する際に検討に値する。

<sup>19</sup>「妻が現金収入を得るようになって、その支出に関する決定権を妻がもたない場合は、プロジェクトの便益を享受したことにならないのではないか」という見方もあるが、ここでは、「家計所得の向上に貢献する限りは、夫は決して反対することはない」と FGD で男女双方が述べていることから、「家計の総収入が増加することだけがプロジェクトによる便益」と評価した。

ピン郡での FGD では、男女双方のグループから、妻が現金収入を得るために夫が反対することはないという意見が示されている。「妻が手織り布や手工芸品を販売するビジネスを始めたとしたら、夫は反対すると思うか」という質問に対し、男女双方のグループが、「夫は絶対に妻のビジネスに協力する。特に、重労働な染めの工程で夫が手伝うだろう」と述べている。布を染めるためには、草木や枝などが必要であるが、FGD に参加した女性は、男性が枝を切り落とす作業を手伝ってくれるのではないかという意見を出している。

## (2) ホームステイの受け入れ

FGD の参加者は、観光客を迎えるためにできることとして、観光客のホームステイの受け入れをあげている。僻地にはゲストハウスやホテルが存在しないので、地元住民の生活様式を体験できるホームステイの機会を観光客に提供することはおもしろいアイデアである。FGD の参加者は、観光客をホームステイで受け入れると家計所得の向上につながるので、家庭内で男女は協力することになるであろうと述べている。僻地に観光客を惹きつけるためには、活動 4-1 や 4-2 で作成されるパンフレットなどで、ホームステイ情報を提供する必要がある。

## (3) レストランの経営

ピン郡を訪れる観光客が増加するにしたがって、同郡のレストランを利用する客も増加している。ほとんどの観光客はピン郡で一泊することのない「通過客」である。たとえ観光客のほとんどが通過客であったとしても、ゲストハウスは利用しなくてもレストランは利用するので、FGD の参加者のなかにはレストラン経営を開始したいという参加者もいる。FGD の参加者は、観光客が増加するにしたがい、より多くの男女が協力してレストランを始めるのではないかと考えているようである。

一方で、ゲストハウスを始めたいと考えている FGD の参加者はいなかった。ほとんどの観光客はピン郡に滞在しない通過客であるので、仮に彼（女）らがゲストハウスを経営したとしても収入向上を期待することができないと考えているようである。

ピン郡及びカイソン・フォンビヘン郡での FGD の参加者によると、ゲストハウスやレストランの経営は夫婦で行われていることが多い。夫婦協働で現金収入を稼ぐという習慣が確立されているようなので、今後、新たにレストランを開始する夫婦も、夫婦で協力しながら経営を行っていくであろう。業種にかかわらず、家計所得の向上という共通の目標に向かって男女が働いている。

### 5-6-4 プロジェクトへの男女双方による参加の度合い

第4番目のジェンダー評価項目に関していえば、プロジェクトの計画段階における男女双方による参加の度合いは高いと評価できる。その理由は、PCM ワークショップ（2回）と FGD（4回）を実施し、観光振興において自分たちに何ができる（やりたい）かに関して男女双方が意見を出し合っていることがあげられる。さらに、PCM ワークショップと FGD の参加者が「自分たちができる・やりたいこと」をプロジェクトの活動に含めていることから、プロジェクトの実施段階でも、彼（女）らが積極的に活動に参加するものと判断できる。

#### 5-6-5 予測される負の影響への対策の盛り込み

プロジェクトの実施による予測される負の影響として、対象地域のモラルの低下が懸念されているが、それを予防・縮小する手段として、観光モラル向上委員会が設置されることになっている。PCM ワークショップ及び FGD の参加者は、観光客の増加による負の影響として社会秩序の乱れをあげている。ピン郡の参加者は、教育をあまり受けていない女兒や若い女性が、外国人観光客に騙されて連れ去られ、売春婦として働かされるようなことが起きるかもしれないという懸念を示している。

カイソン・フォンビヘン郡で FGD に参加した参加者も、観光振興によってもたらされる負の影響として、同様の心配をしている。ある男性参加者は、外国人観光客から時々、若い女性を紹介するように頼まれるそうであるが、必ず、そのようなリクエストは断っている。彼だけでなく、FGD のほかの参加者も、外国人観光客の増加に伴う売春の増加を懸念している。

プロジェクト関係者は、観光振興は経済発展という正の側面を持っている一方で、社会・文化的な側面には負の影響をもたらす可能性があると感じている。売春など、男性よりも女性が犠牲になりやすい負の影響を予防・縮小することをめざして、「旅行者の増加による負の影響を防止する仕組みが導入される」という PDM の成果 5 が設定されている。

活動 5-1 では、観光モラル向上委員会が設置されることになっている。同委員会のメンバー候補としては、サバナケット PTO、LNTA、ラオス女性同盟、保健省、観光警察、民間セクターの代表者などが考えられ、同委員会では、予測される負の影響の予防・縮小のための活動について協議されることになっている<sup>20</sup>。プロジェクトによる負の影響の予防・縮小に向けて責任をもつ同委員会は、プロジェクトの WG と定期的に協議の場をもつことになっている（活動 5-2）。

#### 5-7 結論

上述のとおり、本計画はラオスの政策及び住民のニーズに合致しているとともに、わが国の政策との整合性も高い。またジェンダーの視点からも、ポテンシャルを有効活用できるとの分析がなされている。さらに観光客の増加による負の影響・住民の不安に対する対応策が盛り込まれている。よって本計画の実施妥当性は高いと判断される。

---

<sup>20</sup> LNTA の社会・ジェンダー開発専門家からのヒアリング（3月23日）によれば、観光セクターのジェンダー意識を高めるため、2005年に、サバナケット県を含む5県がジェンダー政策重点地域（Gender Focal Point : GFP）に指定されているとのことである（しかし、GFP 担当官の経験が浅いことから、現在のところ、あまり活発な活動が行われていない）。サバナケット県は、ウドムサイ県とともに、HIV/AIDS の撲滅キャンペーン地域にも指定されている。また、ラオスでは、国家レベルの取り組みとして国家人身売買取締委員会が設置されており、更に Law on Development and Protection of Women が制定され、人身売買や売春は違法行為として規制しているにもかかわらず、いまだに多数行われているのが現状である。問題は外国人観光客によるものだけではないものの、観光モラル向上委員会の活動の1つとして、例えばこのような被害を防ぐための啓蒙活動の推進なども考えられる。

## 付 属 資 料

1. PDM
2. PCM ワークショップ結果及び参加者リスト
3. FGD 結果
4. 旅行者インタビュー結果
5. 主要面談者リスト
6. 主要ヒアリング・現場視察リスト
7. 調査日程
8. 収集資料リスト

1-1 PDM (日本語版)

Project Name: 東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト

Duration: 2007年9月～2010年8月

Date: 2007/05/28

Project Area: サバナケット県

Target Group: サバナケット県住民

Ver. No.: 事前評価調査団案  
20

プロジェクトの要約	指 標	入手手段	外部条件
上位目標 Overall Goal			
サバナケット県の経済が活性化する	1. サバナケット県のGRDPが、2013年までにX%増加する		
プロジェクト目標 Project Purpose			
サバナケット県において観光産業が振興する	1. サバナケット県内のサービスを利用する旅行者の数（サバナケット内のホテルの宿泊客数、ツアーリストインフォメーションセンター訪問者数、ツアー参加者数等）が2010年までにXX%増加する 2. 旅行者がサバナケット県に滞在する日数が2010年までにYY%増加する 3. サバナケット県におけるレストラン、ホテル、交通サービス、旅行会社の売上げが2010年までにZZ%増加する		
アウトプット Outputs			
1. サバナケット県の観光振興における方針が定まり、関係者に広く共有される  2. サバナケット県の観光セクターにおけるサービスが向上する  3. PTO/LNTAと民間セクターの協調の下で、地元観光資源(*1)のプロモーションが行われる  4. サバナケット県の観光に関する情報が旅行者及び関係者に効果的に提供される  5. 観光開発による負の影響を防止する仕組みが導入される	1-1. 戦略計画が2008年初期に策定され、これに基づき具体的な活動が実施される 1-2. 年間アクションプランが毎年作成され、活用される 1-3. XX種類の観光資源が2009年までに特定されプロモーションに供される  2-1. YY人のLNTA及びPTOの職員が2009年までにサービス向上に関する研修を受ける 2-2. ZZ人の民間セクターの観光産業従事者が2010年までにサービス向上に関する研修を受ける 2-3. 旅行者満足度調査における、サービスに関する満足度が2010年までにXX%高まる  3-1. 商品化された観光資源の件数が2009年までにxx件になる  3-2. 観光イベントへの参加、又は開催件数が2009年までにyy件となる  4-1. XX種類の宣伝用資料（パンフレット・ビデオ等）が2009年までに旅行者に提供される  4-2. Webサイトのアクセス数が2010年までにYY%増加する  5-1. 観光モラル向上委員会が2008年までに設置される 5-2. WGと観光モラル向上委員会が半年ごとに定期的に意見交換の場をもつ		鳥インフルエンザのような世界的流行病が蔓延しない  (ラオスへの旅行に影響を与えるような) テロが発生しない

活動 Activities	投入 Inputs		
<p>1-1. サバナケット県の観光開発に関するWGを設置し運営する(*2)</p> <p>1-2. サバナケット県及びラオス南部の有望な観光資源を特定するベースライン調査を実施する</p> <p>1-3. ベースライン調査に基づき、サバナケット県における地元観光資源を特定する</p> <p>1-4. LNTA及びPTO職員を対象にマーケティング戦略に関する研修を実施する</p> <p>1-5. サバナケット県における観光振興の戦略的計画を策定する(*3)</p> <p>1-6. サバナケット県の観光開発に関する年間アクションプランを作成する</p> <p>1-7. (毎年のアクションプランにいかすため) 旅行者の満足度調査を実施する</p> <p>2-1. PTO職員を対象にサービス向上の研修を実施する</p> <p>2-2. LNTA及びPTOが観光関連民間セクターを対象にサービス向上に関する研修を定期的実施する</p> <p>3-1. (1-3で特定された) 地元観光資源を官民協力の下商品化する</p> <p>3-2. 商品化された観光資源につき、サバナケット県において販売促進活動を行う</p> <p>3-3. 商品化された観光資源につき、国内他地域や、他国で販売促進活動を行う</p> <p>4-1. サバナケット県及び南部地域における観光資源の情報を集約する</p> <p>4-2. 旅行者向けの情報資料を用意し、ツーリストセンターに効果的に展示・配置するとともに、映像資料を用意する</p> <p>4-3. LNTAのWebサイト内にサバナケット県の観光産業についてのWebサイトを設立し、定期的に更新する</p> <p>4-4. 観光情報資料の使用状況に関するモニタリングを実施する</p> <p>5-1. 観光開発によってもたらされる負の影響を防ぐための観光モラル向上委員会を設置する(*4)</p> <p>5-2. WGと観光モラル向上委員会が定期的に意見交換の場をもつ</p>	<p>&lt;日本側&gt; 長期専門家派遣 (チーフアドバイザー兼観光開発)</p> <p>研修員受け入れ 1. シンガポールのトレーニング機関から講師を招聘してのTOT研修 2. JICA東京主催の集団研修「観光とマーケティング」ほかへの派遣</p> <p>機材供与 デジタルカメラ、プロジェクター、ビデオカメラ、コンピューター、ファックス、スキャナー、プリンター、複写機</p>	<p>&lt;ラオス側&gt; プロジェクト・ディレクター(1名) プロジェクト・マネージャー(1名) カウンターパート(4名) 事務員 日本人専門家執務室 一般運営経費</p>	<p>前提条件</p> <p>主要な関係者の協力を得られる</p>

\*1. ベースライン調査によって特定され、かつ有望視された観光資源。自然、文化的、歴史的観光地、地元特産品などを含む。例えば、アグロツーリズム、機織り体験、その他のツアー、地元特産品など。

\*2. WGの活動内容としては、国道9号線沿線地域の観光開発計画、必要に応じ観光関連法令改定への働きかけ、全国並びに近隣諸国・国際的市場までを視野に入れたマーケティング、近隣諸国との連携を図ること等とする。メンバーは、PTO、JICA、地元観光産業の代表、そのほかの関係者とする。

\*3. 全体的な戦略とともに、必要であればパイロットエリアを選定して重点的に観光振興を行うことも視野に入れる。

\*4. 本委員会の役割としては、旅行者の増加による、治安の悪化、売春の増加、環境の悪化等を防ぐための方策を検討し、関係諸機関に働きかける等の活動が期待される。本委員会のメンバーは、LNTA及びPTOのほか、女性同盟、保健局、警察などの関係者を含むこととする。

1 – 2 PDM (英語版)

Project Name: Savannakhet Tourism Project

Duration: September 2007 ~ August 2010

Date: 2007/05/28

Project Area: Savannakhet Province

Target Group: People in Savannakhet Province

Ver. No.: Draft 20 for Ex-ante Evaluation

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <p>The economy of Savannakhet is activated.</p>	<p>1. GRDP is increased XX% by 2013 in Savannakhet compared with 2007.</p>		
<p>Project Purpose</p> <p>The tourism in Savannakhet is promoted.</p>	<p>1. Number of tourists using the services (for example, number of customers staying at hotels, tourists joining tours, number of visitors of Tourist Information Center in Savannakhet) in Savannakhet is increased XX% by 2010.</p> <p>2. Length of stay of tourists in Savannakhet become longer YY% by 2010.</p> <p>3. The profit of restaurants, hotels, transportation companies, and travel agencies in Savannakhet is increased ZZ% by 2010.</p>		
<p>Outputs</p> <p>1. The tourism strategy is developed and shared among major stakeholders.</p> <p>2. Services provided by tourism sector in Savannakhet are improved.</p> <p>3. The identified local resources are being promoted by PTO/LNTA in collaboration with the private sector under the effective marketing strategy.</p> <p>4. Appropriate information about tourism in Savannakhet is effectively provided to tourists and other parties concerned.</p> <p>5. Mechanism to prevent the negative impact caused by tourism development is installed.</p>	<p>1-1. Strategy Plan is developed by early 2008 and relevant activities are implemented.</p> <p>1-2. Annual action plan is developed every year and put into practice.</p> <p>1-3. XX kinds of local tourism resources are identified for promotion by 2009.</p> <p>2-1. YY personnel of LNTA/PTO are trained in the field of service in tourism by 2009.</p> <p>2-2. ZZ people in private sector related to tourism have received training in the field of service in tourism by 2010.</p> <p>2-3. The number of people satisfied with services in tourism in Savannakhet has increased ZZ% by 2009. ( in tourists' satisfaction survey ).</p> <p>3-1. XX items of tourism resources are ready for promotion.</p> <p>3-2. YY numbers of events related to tourism, participated or organized by 2009.</p> <p>4-1. XX promotion materials (brochure, video, etc.) are made and provided to tourists by 2009.</p> <p>4-2. Number of web-site accesses increased YY% by 2010.</p> <p>5-1. Public Moral Promotion Committee has been established by 2008.</p> <p>5-2 Regular meetings with Working Group are held.</p>		<p>World wide epidemic such as bird flu is not prevalent.</p> <p>Terrorism (which may discourage travels to Laos) does not occur.</p>

Activities	Inputs		
1-1. Establish and operate a Working Group in charge of tourism development in Savannakhet. (*1)	<Japan>	<Laos>	
1-2. Conduct a baseline survey to identify potential tourism resources in Savannakhet and Southern Provinces of Laos to explore their marketing opportunities .	Long-term expert (Chief advisor, tourism development)(1)	Project Director(1) Project Manager(1) Coutnerpart(4)	
1-3. Based on the baseline survey, identify and make an inventory of tourism resources(*2) in Savannakhet.	Training	Office clerk	
1-4. Conduct training for LNTA/PTO staff to be able to develop marketing strategies.	Equipment (digital camera, LCD projector, digital video camera, computer, facsimile machine, scanner, monochrome printer, monochrome copy machine)	Office space for a Japanese expert	
1-5. Develop tourism strategic plan in Savannakhet.(*3)		general management cost	
1-6 . Develop annual action plan.			
1-7 (Monitoring) Conduct survey of tourist's satisfaction.			
2-1. Conduct training for PTO staff to improve services.			
2-2. Conduct training for private sector by LNTA/PTO staff to improve services regularly.			
3-1. Make the local tourism resources in Savannakhet marketable with the collaboration of public/private sector.			Pre-conditions
3-2. Conduct promotion in Savannakhet province.			
3-3. Conduct promotion nationwide and worldwide.			
4-1. Compile information on tourism resources in Savannakhet and Southern Provinces of Laos.			
4-2. Create information materials for tourists and display them effectively at Tourism Information Centers and other places, and prepare audio visual materials.			
4-3. Launch website of tourism in Savannakhet linked to LNTA website and update it periodically.			Major stakeholders collaborate with the project.
4-4. Conduct monitoring on the utilization of information materials.			
5-1. Establish Public Moral Promotion Committee (*4)			
5-2 Hold regular meetings with the Working Group.			

\*1. This working group is expected to conduct activities as follows;

- Tourism promotion planning for the areas alongside the National Road No.9
- Encourage related agencies to review regulations related tourism, if necessary
- Focus marketing on national, regional, and international audiences
- Collaboration with neighboring countries

Working group is consisted of PTO and other authority concerned, JICA, representatives of local tourism businesses, and other key stakeholders.

\*2. Tourism resources which will be identified by baseline survey and considered to be feasible for successful marketing. These include, natural, cultural, and historical resources, as well as local specialties. For example, agro-tourism, weaving experience, local specialty products, and tours.

\*3. Along with the overall strategy, selecting a pilot area and conducting intensive promotion will also be considered.

\*4. This committee is expected to conduct activities as follows in full cooperation with concerned parties;

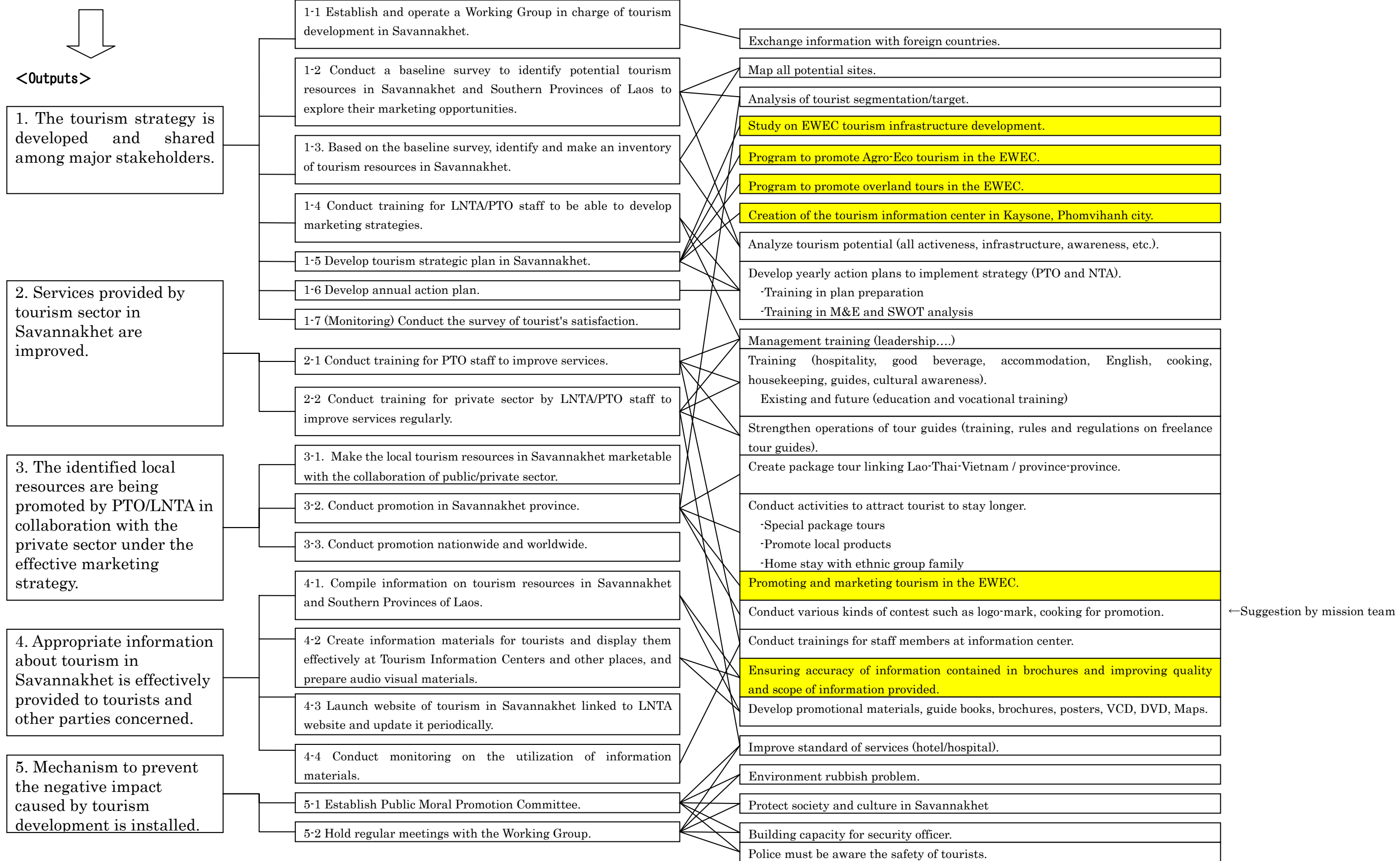
- Maintaining social order
- Prevention of prostitution
- Preservation of environment

Not only LNTA/PTO but other stakeholders such as police, Women's Union, Department of Health, etc., must be included as committee members.

■ **Overall Goal** ■  
The economy of Savannakhet is activated.

■ **Project Purpose** ■  
The tourism in Savannakhet is promoted.

<Sub-activities>  
 Ideas from LNTA  
 Ideas from the results of PCM workshops of Savannakhet and Vientiane



2. PCM ワークショップ結果及び参加者リスト

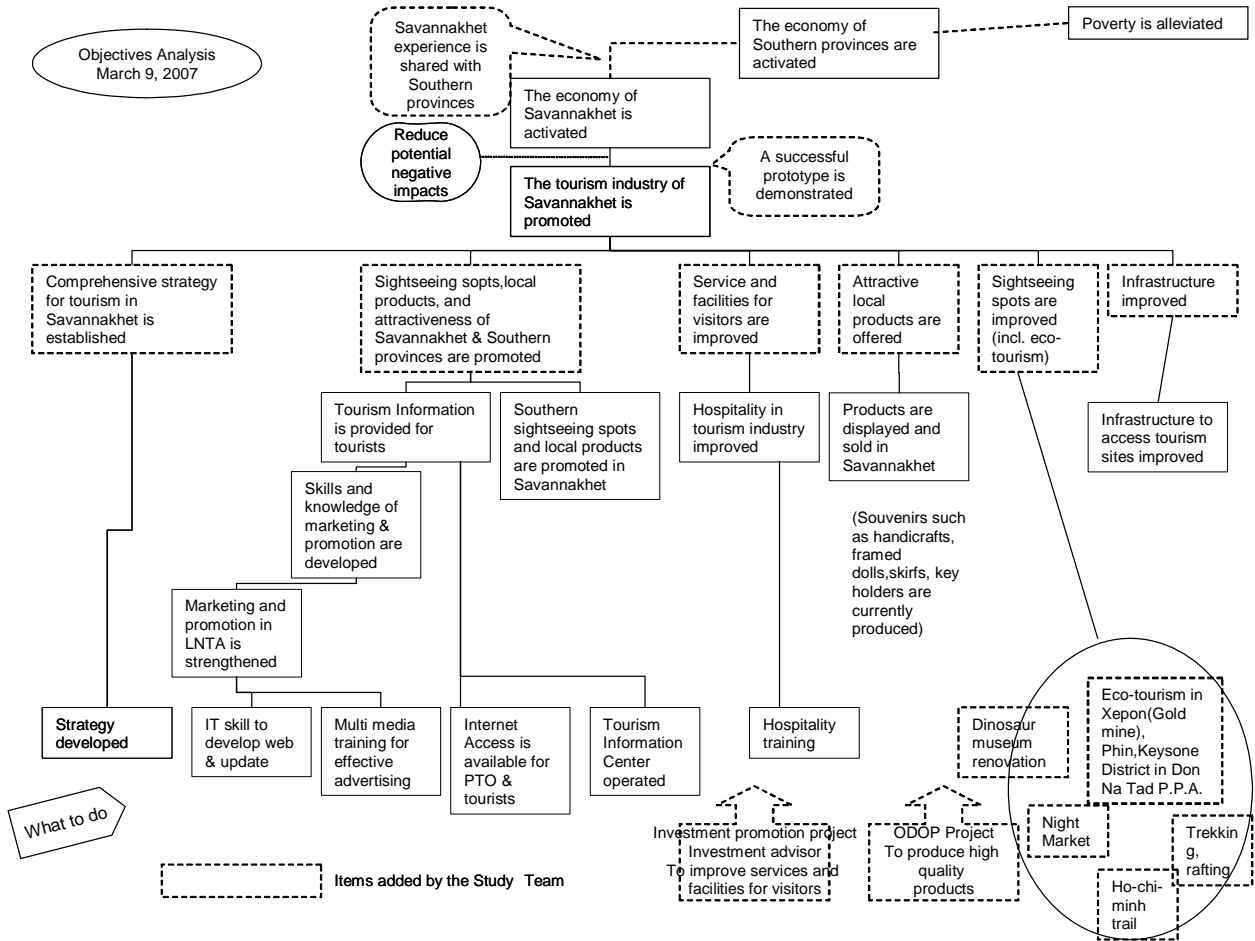
2-1 LNTA・ワークショップ

2-1-1 LNTA・参加者リスト

Mr. Saly PHIMPHINITH (Director General)

Ms. Sengsoda VANTHANOUVONG (Chief of Promotion Division)

2-1-2 LNTA ワークショップ・目的分析系図

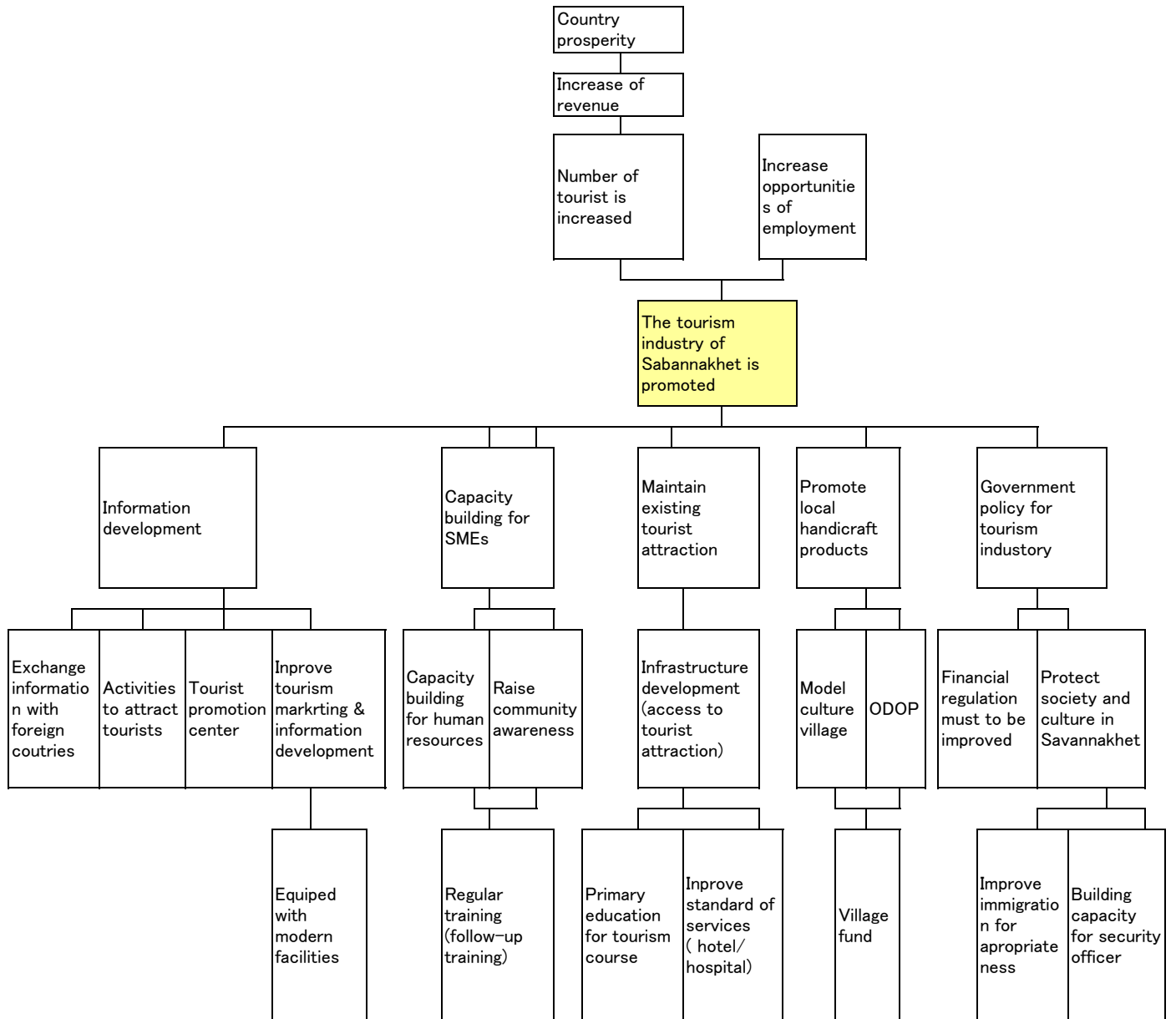


## 2-2 サバナケット県・ワークショップ

### 2-2-1 サバナケット県・参加者リスト

No.		氏名	所属	
1	Mrs.	Bounmy KHANTIVONG	サバナケットPTO	官
2	Ms.	Phonesouk PHETKONGCHACK	サバナケットPTO	官
3	Mr.	LAMMONE	サバナケット県特別経済特区	民
4	Mr.	PHANOMKONE Dararassamy	サバナケット県特別経済特区	民
5	Mr.	Sayabouth	LaoLaoDer レストラン&ゲストハウス	民
6	Ms.	Vonunhachanh	LaoLaoDer レストラン&ゲストハウス	民
7	Mrs.	Lin SAYTHANOME	サバナケットPTO	官
8	Mr.	Sisamer LUANGXAY	Thonglahasinh社（染色・縫製品専門店）	民
9	Mrs.	Vanvilay PHONEPHACHANH	サバナケットPTO	官
10	Ms.	Souksavanh SOURIVONS	PTO所属 ツアーガイド	官
11	Ms.	Khamphong Vilaythong	サバナケット県女性同盟	官
12	Mr.	Aphaythong	セドン・ツアー会社	民
13	Mr.	Sonesavanh CHANHSINA	サバナケット県行政局	官
14	Mr.	Sonethavong	Savanbanhao Travel社	民
15	Mr.	Bountheung XAYAVONG	サバナケットPTO	官
16	Mrs.	Thongxay PHITHAMMA	旅行会社	民
17	Mr.	Keolabthavong SONGSAMAYVONG	SNV南部事務所	他ドナー
18	Ms.	Kaoru OZEKI	JICAラオス事務所	JICA
19	Mr.	Mitthavisouk RATTANA	JICAラオス事務所	JICA

2-2-2 サバナケット県ワークショップ・目的分析系図



2-2-3 PDM・サバナケット県でのワークショップの結果（暫定版）

Project Name: Savan Tourism Project

Duration: May 2007 ~ May 2010

Date: 2007/03/15

Project Area: Savannakhet Province and Vientiane

Target Group: People in Savannakhet Province

Ver. No.: Results from Savannakhet PCM

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <p>The economy of Savannakhet is activated.</p>	<p>1. GRDP is increased X% by 2017 in Savannakhet to compare with 2007.</p> <p>2. Tax revenue from tourism industry has been increased YY% by 2017 to compare with 2007.</p>		
<p>Project Purpose</p> <p>The tourism in Savannakhet is promoted.</p>	<p>1. Number of tourists using the services(*1) in Savannakhet is increased X% by 2010.</p> <p>2. The profit of restaurants, hotels, transportation companies and travel agencies in Savannakhet is increased by 2010.</p>		
<p>Outputs</p> <p>1. The Comprehensive strategic plan on tourism promotion is devised.</p> <p>2. The effective marketing strategy of tourism is established in LNTA/PTO.</p> <p>3. Appropriate information about tourism in Savannakhet is provided for tourists.</p> <p>4. Mechanism to prevent increase of social disorder by tourists is installed.</p>	<p>1-1. Strategy Plan is developed by early 2008.</p> <p>2-1. XX kinds of local products are identified for promotion by 2009.</p> <p>2-2. YY personnel of LNTA/PTO are trained by 2009.</p> <p>2-3. ZZ personnel in private sector are trained by 2010.</p> <p>3-1. XX promotion materials are made and provided to tourists by 2010.</p> <p>3-2. Number of access of the web-site are increased YY% by 2010.</p> <p>4-1. Prevention Committee(*2) has been established by 2008.</p>		<p>World wide epidemic such as bird flu is not prevalent</p>
<p>Activities</p> <p>1-1. Conduct baseline survey to identify potential resources of local products, to explore marketing channels in South part of Laos.</p> <p>1-2. Select pilot area of project.</p> <p>1-3. Devise the strategic plan on tourism promotion in Savannakhet.</p> <p>1-4. Review regulations related tourism such as immigration procedure, investment, banking and finance.</p>	<p>Inputs</p> <p>&lt;Japan&gt;</p>	<p>&lt;Laos&gt;</p>	

<p>2-1. Identify and develop local specialties in Savannakhet.</p> <p>2-2. Train the LNTA/PTO staff to be able to devise a marketing strategy.</p> <p>2-3. Conduct training course for private sector by LNTA/PTO regularly.</p> <p>2-4. Conduct the local specialties promotion in Savannakhet.</p> <p>2-5. Collaborate with the ODOP promotion plan project in terms of marketing.</p> <p>3-1. Compile information on attraction site and local specialties.</p> <p>3-2. Create information materials for tourists and put them in the PTO and the tourist center, and prepare visual materials.</p> <p>3-3. Launch the website of tourism in Savannakhet.</p> <p>3-4. Conduct monitoring on the utilization of information materials.</p> <p>4-1. Involve other stakeholders in preventing negative influence brought by tourists.</p>			<p>Pre-condition</p> <hr/> <p>Collaboration with stakeholders.</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	--	--------------------------------------------------------------------

\*1. Number of customer of hotel, visitor of Tourist information center, tourist joining tour in Savannakhet.

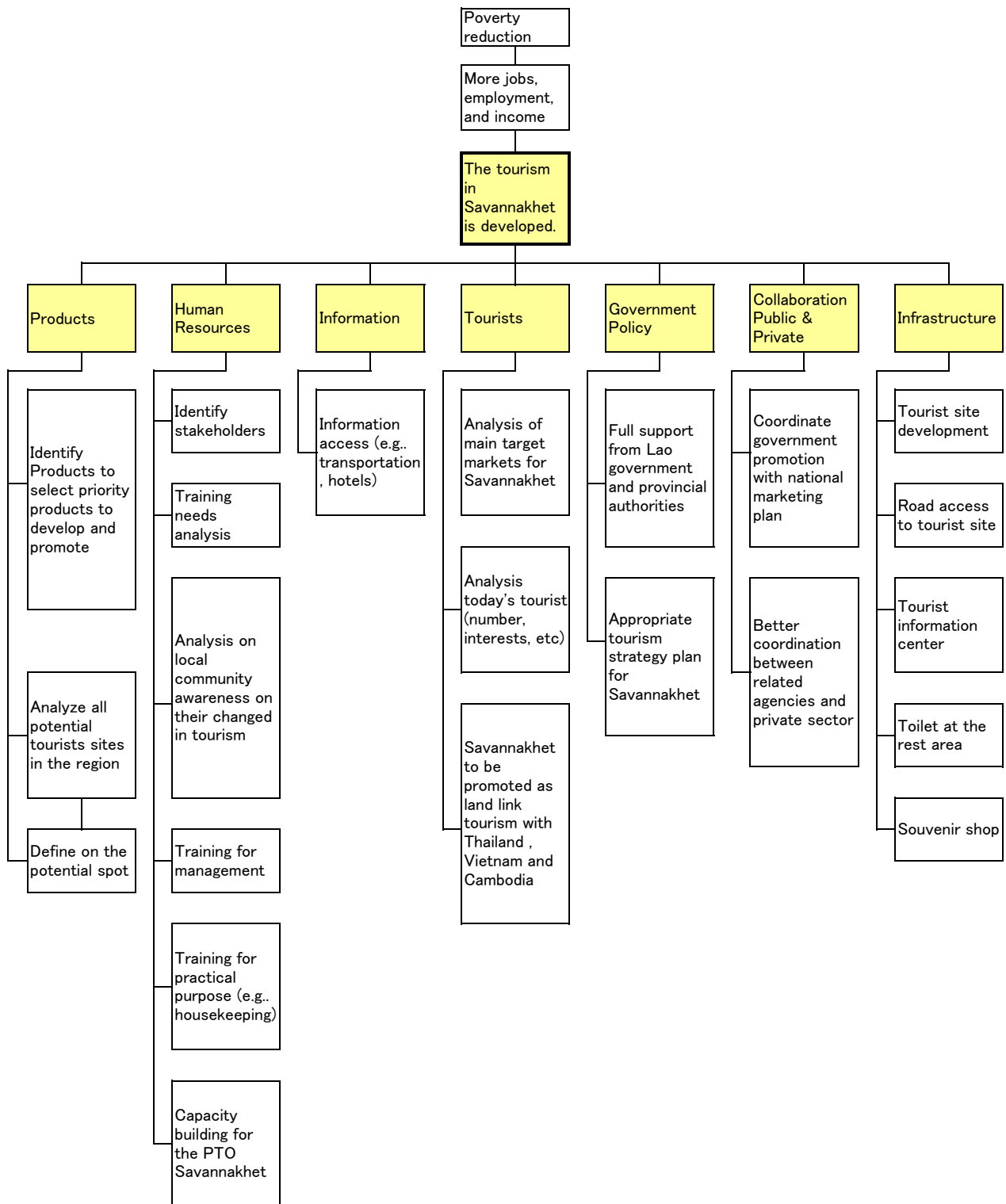
\*2. Not only LNTA/PTO but also other stakeholders must be included.

## 2-3 首都ビエンチャン・ワークショップ

### 2-3-1 首都ビエンチャン・参加者リスト

No.		氏名	所属	
1	Ms	Alounvanh VISOUVANNAVONGSA	ホテル・レストラン協会	民
2	Mr.	Tharipheth OULA	LNTA 計画・協力部	官
3	Mr.	Jean Yves PAILLE	Exotissimo Travel 社	民
4	Ms	Kirsten FOCHEN	LNTA 配属 GTZ 派遣専門家 (マーケティング)	他ド ナー
5	Ms	Kaoru OZEKI	JICA ラオス事務所	JICA
6	Mr.	Saly PHIMPHINITH	LNTA 観光マーケティング・プロモーション部	官
7	Mrs.	Vayakone BODHISANE	Diethelm Travel 社 ラオス事務所 旅行エージェント協会	民
8	Dr.	Paul Rogers	SNV	他ド ナー
9	Mr.	Mitthavisouk RATTANA	JICA ラオス事務所	JICA

2-3-2 首都ビエンチャン・ワークショップ・目的分析系図



2-3-3 PDM・首都ビエンチャンでのワークショップの結果（暫定版）

Project Name: Savan Tourism Project

Duration: May 2007 ~ May 2010

Date: 2007/03/19

Project Area: Savannakhet Province

Target Group: People in Savannakhet Province

Ver. No.: Results from Vientiane PCM

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumptions
<p>Overall Goal</p> <hr/> <p>More jobs, employment and income</p>	<p>Revenue from tourism</p> <p>Income average related tourism in Savannakhet</p>		
<p>Project Purpose</p> <hr/> <p>The tourism in Savannakhet is developed</p>	<p>Number of tourists</p> <p>Length of stay of tourist</p> <p>Number of attractive products</p> <p>How people in Savannakhet among tourists on package tours of travel agencies and on travel magazines (the article in guidebook?)</p> <p>Number of hotels, guesthouses, restaurant, souvenir shop</p>		
<p>Outputs</p> <hr/> <p>1. Products</p> <p>2. Human Resources</p> <p>3. Information Access</p> <p>4. Tourists</p>	<p>1-1. Development Plan with priorities, timings, budget, stakeholders.</p> <p>1-2. Number of products sold</p> <p>1-3. Marketing plan</p> <p>1-4. Material (brochure, website, etc...)</p> <p>2-1. Number of training and trainee.</p> <p>2-2. Quality of the services</p> <p>2-3. Number of villagers and officials providing a good services.</p> <p>2-4. Number of youngs involved.</p> <p>2-5. Strategic Plan and implementation.</p> <p>3-1. Visitor surveys</p> <p>3-2. Local surveys</p> <p>3-4. Tourists feedback</p> <p>3-5. Number of visitor in the website ( need count per click).</p> <p>3-6. Number of trainees</p> <p>4-1, Reports</p> <p>4-2. Number of questioner</p> <p>4-3. Number of tourists increased</p> <p>4-4. Length of stay</p> <p>4-5. Number of products sold.</p> <p>4-6. Number of tours</p>		<p>Infrastructure</p> <p>Bird flu</p> <p>Image of the region (terrorism, unsecured..)</p>

<p>5. Government support</p> <p>6. Collaboration with Public and Private sectors.</p>	<p>5-1. Master plan procedure for Savannakhet</p> <p>5-2. Yearly action plan for implementation of master plan produced.</p> <p>5-3. Regulations on tourism management at National and PTO produced.</p> <p>6-1. Number of road shows of tourism fairs attended.</p> <p>6-2. Number of farm-trips held</p> <p>6-3. Number of tour guides</p> <p>6-4. Rules and regulations on tour guides produced.</p> <p>6-5. Tour guides Ass, established.</p>		
<p>Activities</p> <p>1-1. Map all potential sites</p> <p>1-2. Analyze tourism potential ( all achiveness, infrastructure, awareness, etc.)</p> <p>1-3. Develop promote products and facilities</p> <p>1-4. Promotion and marketing</p> <p>2-1. Training ( hospitality, good beverage, mng, accommodation, English, cooking, housekeeping, guides, culture aware.) existing and future (education and vocational training)</p> <p>2-2, Management training (leadership....)</p> <p>3-1. Develop promotional materials, guide books, brochures, posters, VCD, DVD, Maps.</p> <p>3-2. Develop information center at the tourist spots and check point.</p> <p>3-3. Create, develop and constantly update the website for tourism in Savannakhet.</p> <p>3-4. Conduct trainings for staff members at information center.</p> <p>4-1. Analysis of tourist segmentation/target.</p> <p>4-2. Visitor survey</p> <p>4-3. Conduct activities to attract tourist to stay longer. Special package tours Promote local products Home stay with ethnic group family</p> <p>4-4. Create package tour linking Lao-Thai-Vietnam / province-province.</p> <p>5-1. Develop tourism master plan for Savannakhet.</p> <p>5-2. Develop yearly action plans to implement strategy (PTO and NTA) training in plan preparation training in M&amp;E and SWOT analysis</p> <p>5-3. Design and develop rules and regulations on tourism management SWOT analysis of existing rules and regulations (gap analysis) Strengthen rules and regulations related to tourism agencies and business enterprise development.</p>	<p>Inputs</p> <p>&lt;Japan&gt;</p>	<p>&lt;Laos&gt;</p>	<p>Pre-condition</p> <p>Agreement of provincial government on proiect components</p> <p>ASEAN and GMS Policies</p> <p>Agreement of transport cooperation Laos, Vietnam and Thailand.</p> <p>Bilateral agreements</p>

- 6-1. Joint promotional of marketing activities.
- 6-2. Develop Savannakhet tourism 'festival'
- 6-3. Fam-trip
- 6-4. Visa- facilitate and make easier to process
- 6-5. Entry fees- don't change too often.
- 6-6. Strengthen operations of tour guides (training, rules and regulations on freelance tour guides)

**Other**

Pre-conceived perception (conduct campaign to produce good reputation)

Environment rubbish problem

Identify the needs of Savannakhe tourism development

### 3. FGD 結果

#### 3-1 FGD の結果（要約）

##### ○FGD のデザイン

サバナケット県における観光開発に関し、特に第 2 メコン橋開通の影響及び観光プロジェクトにより想定されるインパクトについて、観光関連分野に従事する人々（公共・民間両セクターを含む）による、計 4 回の FGD を実施した（2007 年 3 月 13 日及び 15 日）。うち 2 回はピン郡<sup>1</sup>で、残る 2 回はサバナケット県の県都であるカイソン・フォンビヘン郡で行った。ジェンダーに配慮して、両郡とも参加者を女性と男性のグループに分けて実施した（下表参照）。

表 FGD 対象グループ

	女 性	男 性
ピン郡 観光関連セクターで働く人々	グループ① (3月13日 13:30-15:30)	グループ② (3月13日 15:30-17:00)
カイソン・フォンビヘン郡 観光関連セクターで働く人々	グループ③ (3月15日 8:20-10:00)	グループ④ (3月15日 10:30-11:50)

#### 1 第 2 メコン橋完成後の変化

第 2 メコン橋の開通は、国道 9 号線の整備とあいまって、サバナケット県の人々の生活に大きな変化をもたらしている。

##### 1-1 プラスの変化

プラスの変化として、カイソン・フォンビヘン郡においては、観光客の増加によりホテル、レストラン、旅行業者、交通サービス、地元商店の売上げが増大したことがあげられた。また、雇用の機会が創出され、投資が拡大し、これらによる税収の増加が県政府による公共サービスの向上をもたらしている。さらに、増加する観光客を受入れるために県民相互の協力が強まり、観光客を惹きつけるための名案も出始めた。

他方ピン郡では、9 号線の交通量の増加が与える影響が業種によって異なっている。収容人数を大幅に超えて顧客を受入れているレストラン<sup>2</sup>や売上げの増加した市場がある一方、ゲストハウスでは宿泊客が減少しているとのことである。旅行者が、短時間のうちにカイソン・フォンビヘン郡やタイ・ベトナムまで移動できるようになったことが一因という。

##### 1-2 マイナスの影響

<sup>1</sup> 国道 9 号線沿いに位置し、ベトナム国境から約 1 時間、タイ国境から約 2 時間半の地点にある（巻頭地図参照）。

<sup>2</sup> ピン郡のレストランでは、店内に客を収容しきれず、観光バスに道路に停めたまま車内で食事を提供しているところもある。

他方、売春及びHIV/AIDSや性感染症が広がることへの懸念が、地元住民の間に広まっている。

特にカイソン・フォンビヘン郡では、旅行者の増加が、少女を含めた売春の増加等の形で男性よりも女性に顕著に影響を及ぼしていることが、女性グループから指摘された。男性グループからも、外国人旅行者から女性を斡旋するように要求され困惑しているという声があった。静寂そのものだったメコン沿いの町に、深夜まで営業する店が増え、暴力行為の増加などの治安の悪化や、旅行者と地元の住民の争いも懸念されている。交通事故の増加<sup>3</sup>や、物価の上昇も報告された。また外国文化の影響（とりわけ服装に関して）も、地元住民には負のインパクトとして受け取られている。知的財産権の侵害（外国人によるラオ製品の違法な複製の増加）もあげられた。道路に散乱するゴミは旅行者の増加によって増え、この清掃についても取り組まなくてはならない課題となっている<sup>4</sup>。

ピン郡でも、男性グループが売春の問題を取りあげた。ベトナム人女性のいる店が営業していることで、同様のビジネスがラオス人女性にも広まることを懸念している。またピン郡においても、外国文化の影響はラオスの伝統的な文化への脅威と受け止められている。

## 2 マイナスの影響の防止

売春及びHIV/AIDSや性感染症の広がりを防ぐために、ラオス女性同盟と保健局等は、両郡において啓蒙運動を展開している。またカイソン・フォンビヘン郡の人々は、上述のような負のインパクトを防止あるいは緩和するために、法的な強制・法の遵守についてももっと真剣に考えるべきであると、述べている。地元女性の性産業へのかかわりを防ぐためには、ほかの雇用機会を女性に提供することも重要であるとの意見もあった。

## 3 好機を捉える

旅行客の増加という好機をとらえるために、地元特産品の開発と販売促進活動が必要であるという意見は、すべてのグループからあげられた(後述5. 参照)。また、カイソン・フォンビヘン郡では、交通標識の改善、トゥクトゥク<sup>5</sup>運賃の規制、病院の改善等、医療サービスの充実も重要事項としてあげられた。さらに、地域に関する観光情報の発信が不可欠と考えられている。

ピン郡では、エコツーリズム、ホームステイ、伝統工芸体験ツアーや、地元特産品を展示する物産館の設置などが、観光客を惹きつけるためのアイデアとしてあげられた。

---

<sup>3</sup> ラオスとタイでは走行車線が逆。

<sup>4</sup> ベトナムやタイへの途上でラオスを通過するだけの旅行者に関しては、「ラオスの人はゴミを掃除するだけになってしまう」という切実な訴えもあった。

<sup>5</sup> バイクタクシー。旅行者相手の法外な料金の請求が問題となっている。

#### 4 旅行客を歓迎するための方策

旅行客に気持ちよく過ごしてもらうためには、トイレの改善や、レストランやホテルの衛生面での改善が必要であるとの指摘が全グループから出されている。レストランやホテルの従業員に対する衛生面での指導や、ツアーガイドの技量や知識の向上も含めたよりよいサービス提供のための研修の重要性も、両郡の参加者が強調している。カイソン・フォンビヘン郡では、地域住民が観光客に道案内をしたり地域の文化や魅力を紹介したりできるよう、観光情報は関係者や観光客だけでなく地域住民にも広く提供されるべきだという意見があった。ピン郡でも、特に同地域の重要な財産である自然資源の保護に関して、地域住民への情報提供の必要性が強調された。

#### 5 課題

すべてのグループで、言葉の壁（英語、ベトナム語など）が指摘されている。また必要な設備の不足も両郡であげられた。カイソン・フォンビヘン郡では、ホテルやレストランが不足している。ピン郡では、ゲストハウスは足りているが、通過客が食事や休憩を取るレストランが不足している。

カイソン・フォンビヘン郡では、出入国手続きの改善も必要という意見があった。また、観光客向けに販売する地元の特産品を望む声も多かった。現在、同郡の市場で売られている商品は多くがタイ製であり、観光客にとってはあまり魅力的なものではない。

ピン郡でも、地元特産品を望む声は同じであった。同郡はベトナムとの国境に近いので、市場で売られているのはベトナム製品がほとんどであるという。

#### 6 今後に向けて

第2メコン橋の開通（2007年1月）から2ヵ月を経て、旅行客・通過客の増加は、地元経済を活性化している半面、住民は治安の悪化や売春の増加・ラオス文化の廃退に深刻な懸念を抱いている。

橋のたもとに位置するカイソン・フォンビヘン郡の人々は、橋の開通による影響をより強く感じている。また2006年11月に同郡で行ったFGDと比べると、観光産業に対するイメージが格段に明確になっていた。特に、一般住民も含めたすべてのステークホルダーの協力の重要性が強調されたことが特徴的であった。地元特産品の開発と販売促進の重要性や、対象に地元住民も含めた想定での情報発信の必要性も明らかになった。

観光産業における課題はそれだけではない。近隣諸国との競争力の問題もある。例えば宿泊施設の収容力についてみると、ベトナムのホテルはサバナケット県よりも格段に規模が大きい。タイからのツアー客は、ツアーの全員が同じホテルに泊まれるベトナムでの宿泊を希望し、サバナケット県を「通過する」ことになる。

---

<sup>6</sup> 例えば寺院など文化的資産に関する歴史的説明や、観光客が興味をもちそうなお店の案内等。

しかし、ある参加者がディスカッションの最後に、「ラオスには、客を迎えるラオス独特のやり方がある。われわれはそれを守っていくべきだと思う」と語っていた。彼の言葉は、他国の真似ではなく、彼らの国民性・彼らがもっているものを大切に活用していくという、サバナケット県における観光産業発展のあり方を示唆していたようである<sup>7</sup>。

---

<sup>7</sup> FGD 結果の詳細は別冊 Focus Group Discussion Report を参照。

### 3 – 2 Summary of the Focus Group Discussions

#### **Design of Focus Group**

Four focus group discussions (FGDs) on tourism development in Savannakhet Province were held on March 13 and 15, 2007, with those who work in the tourism-related sector. Two FGDs were conducted in Phin District (which is located alongside of the National Road No.9), and two in Kaysone Phomvihane District. In both places, the participants were divided into male and female groups, to see if there are different views on the impact of the opening of the Second Mekong International Bridge and the potential impact of the tourism project (table 1).

**Table 1: Savannakhet Tourism Development Focus Group Blueprint**

Participants (Respondents)	Female	Male
People who work in tourism- related sector in Phin district	Group 1 (March 13, 2007)	Group 2 (March 13, 2007)
People who work in tourism- related sector in Kaysone Phomvihane District	Group 3 (March 15, 2007)	Group 4 (March 15, 2007)

#### **1. Change after the Completion of the Second Mekong International Bridge**

The FGDs on tourism development in Savannakhet Province found that the opening of the bridge, accompanied by the renovation of the National Road No.9, had substantial impacts on the lives of people in Savannakhet Province.

##### **1-1. Positive changes**

As for positive changes, an increase of tourists/visitors generated revenues for hotels, restaurants, tour companies, transportation services, and local shops in Kaysone Phomvihane District. Employment opportunities have been created. Investment has been increasing, and thanks to the increased tax revenue, the Provincial government is providing better services. Moreover, collaboration among people in Savannakhet has been enhanced to welcome the increased number of tourists, and people started to come up with new creative ideas to attract visitors.

In Phin District, however, the benefit is felt differently depending on the kind of business. Some restaurants are receiving customers beyond their capacities and local

shops' sales are increasing, while guesthouses have lost some of their customers because they now prefer to stay overnight in Kaysone Phomvihane District, Thailand, or Vietnam.

### **1-2. Negative changes**

As for negative changes, prostitution, and fear of the spread of HIV/AIDS or STDs are the serious concerns of the local people.

Especially in Kaysone Phomvihane District, female participants stressed that the bridge negatively affected females more than males. Also, foreign cultural influences (especially in fashion) are perceived as negative impacts on the local people. Social disorders, such as violence, fighting, and an increase in traffic accidents are also concerns in Kaysone Phomvihane District. They said that the prices of local products have been increasing as well. The issue of the intellectual property rights (illegal copying of Lao products by foreigners) was also raised. Garbage left by tourists has to be dealt with even though many of these tourists are just passing through Savannakhet on their way to Vietnam or Thailand.

In Phin District, the male group raised an issue of prostitution. Several “shops” with Vietnamese girls are operating, which makes the respondents worry about similar businesses spreading to include Lao women. Also, foreign cultural influence is perceived as a threat to their traditional culture in Phin District as well.

### **2. Minimizing negative changes**

In order to prevent prostitution and the spread of HIV/AIDS and STDs, the Lao Women's Union and local authorities have been conducting awareness campaigns in Kaysone Phomvihane District as well as in Phin District. Also, in order to mitigate or minimize the above-mentioned negative impacts, Kaysone Phomvihane District people suggested that they should become more serious about law enforcement. Providing other employment opportunities to women was also suggested as a way to avoid involvement in the sex industry.

### **3. Seizing opportunities**

In order to seize this opportunity of an increase in tourists, all the groups suggested developing and promoting local products. Also, in Kaysone Phomvihane District, improving traffic signs, regulating tuk- tuk drivers' fares, and improving hospitals were all cited as important. Furthermore, disseminating local tourism information was considered to be essential.

In Phin District, several ideas for activities to attract tourists were suggested, such as ecotourism, home stay, “hands-on experience tour” for traditional weaving, and setting up a trading post (market) to display local specialties.

#### **4. Plans to welcome tourists**

In order to welcome tourists, all the groups suggested that renovating toilets and maintaining sanitation for the restaurants and hotels are necessary. The importance of training hotel/restaurant staff for sanitation and better services as well as improving skills and knowledge of tour guides were emphasized by the respondents of both places. In Kaysone Phomvihane District, they also suggested that tourism information should be provided not only for the tourists but also for the residents so that the residents can help tourists by giving directions and introducing local culture and attractions. In Phin District, too, the need for providing information for local residents was emphasized, especially concerning the preservation of natural resources, which were considered to be the most important asset of the district.

#### **5. Challenges and difficulties**

Language barrier (English, Vietnamese, and others) was pointed out in all four groups. The shortage of necessary services provision was mentioned in both places. In Kaysone Phomvihane District, hotels and restaurants are in shortage. In Phin District, the capacity of restaurants, not guesthouses at this moment, is in short supply. In Kaysone Phomvihane District, respondents pointed out that the improvement of immigration procedures may be needed. They also mentioned a wish to have local specialty products sold to the tourists, since their markets now carry mostly Thai products which are unattractive to tourists. In Phin District, they have a similar problem of the need for local goods; being closer to Vietnamese boarder, mostly Vietnamese goods are sold at their markets.

#### **6. Toward the future**

Only a few months have passed since the public opening of the bridge (January 2007), but it changed the life of the people in the Province considerably. People in Savannakhet are seriously concerned about the emergence of social problems and the degradation of local culture. However, they have been taking some measures to mitigate the negative impacts.

The people living and working in Kaysone Phomvihane District, who have felt direct and strong impact of the bridge, have a clearer image of tourism and its services now as

compared with the participants of the FGDs conducted in November 2006 in Savannakhet, just prior to the bridge opening. This time, more than before, they emphasized the importance of collaboration among all the stakeholders including ordinary residents. The importance of local products' development and marketing were emphasized by all the groups. Information dissemination, not only for the tourists but for all the stakeholders, including residents, was also emphasized.

Challenges are not only inside of the Province. Competition in tourism with neighboring countries is tough. For example, capacity wise, Vietnamese hotels are much larger than the hotels in Savannakhet, which is one of the reasons why tours from Thailand tend to "pass" Savannakhet so that all tour members can stay at one accommodation. However, one participant in Savannakhet, toward the end of their discussion, said to the group, "Lao people have our own traditional ways to welcome tourists. We just have to emphasize them." His words seemed to summarize the idea for tourism in Savannakhet which should make the best use of what they are and what they have.

## 4. 旅行者インタビュー結果

### 4-1 旅行者インタビュー調査の概要

Kaysone Phomvihane District において、外国人旅行者を対象に、訪問の目的・サバナケットの印象・改善すべき点等をヒアリングした。この調査の目的は、旅行者の興味、特にタイからの訪問客の関心・印象を欧米からの旅行者と比較し、今後の観光戦略立案の参考とすることである。

ただし、調査団員が日程の合間に実施したもので対象人数も限られているため、下記の結果は参考情報にとどまる<sup>1</sup>。

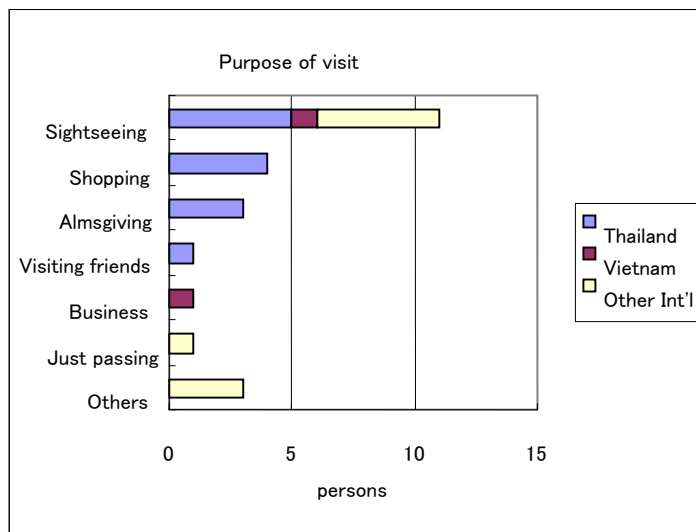
- インタビュー実施期間：2007年3月11日～15日
- 対象人数：24名（タイ13名、ベトナム2名、その他海外（欧米・日本）9名）
- 方法：半構造的インタビュー（質問票を併用したヒアリング形式）
- 実施場所：カイソン・フォンビヘン郡内（第2メコン橋のラオス側ゲート付近、ラオス側からタイ側に向かうバスの待合、市内観光情報センター、市内バスターミナル、ホテル等）
- 聞き手：調査団員及び通訳

### 4-2 調査結果<sup>2</sup>

#### (1) サバナケット県訪問の目的

観光目的が半数であるが、タイからの旅行者は、買い物、お布施という回答もあり、日帰り客が多い。インタビューの対象が週末の国境越えバスの客を含んでいたこともあるが、例えば、朝、家族や友人とタイを出て、ラオスで恐竜博物館や寺院を訪ね、市場や免税店で買い物をして午後タイへ戻る、というパターンである。

国境でバスを待つタイの人々のなかには、スイカやサトウキビの束、免



<sup>1</sup> 詳細で大規模な旅行者調査が、現在 IFC によって実施されており、その報告書は、ハイシーズン分が 2007 年 4 月、ローシーズン分が 6~7 月、最終報告書が 9 月には完成する見込みとのことである（SNV ヒアリング（2007 年 3 月 14 日）による）。

<sup>2</sup> データの詳細は 4-2 を参照。

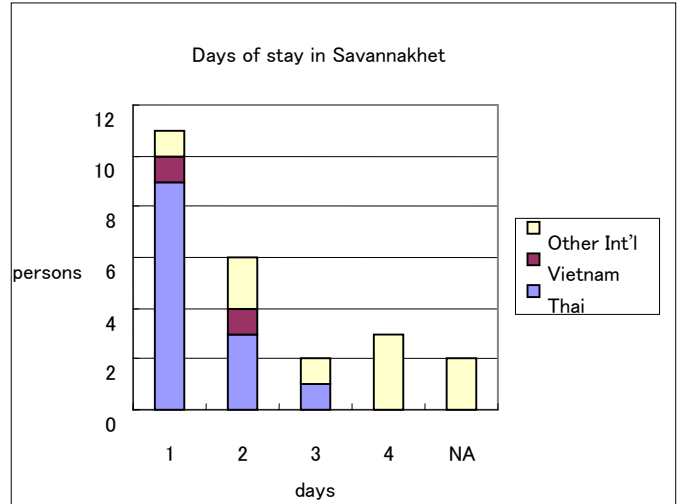
税店の青いビニール袋を下げた人が多かった。子連れでも夕食までには戻れるので、週末には手軽な娯楽となっている。

欧米からの旅行者では、観光のほかに、トレッキング、サイクリング、ビザの更新という回答もあった。

### (2) 滞在日数・同伴者・交通手段

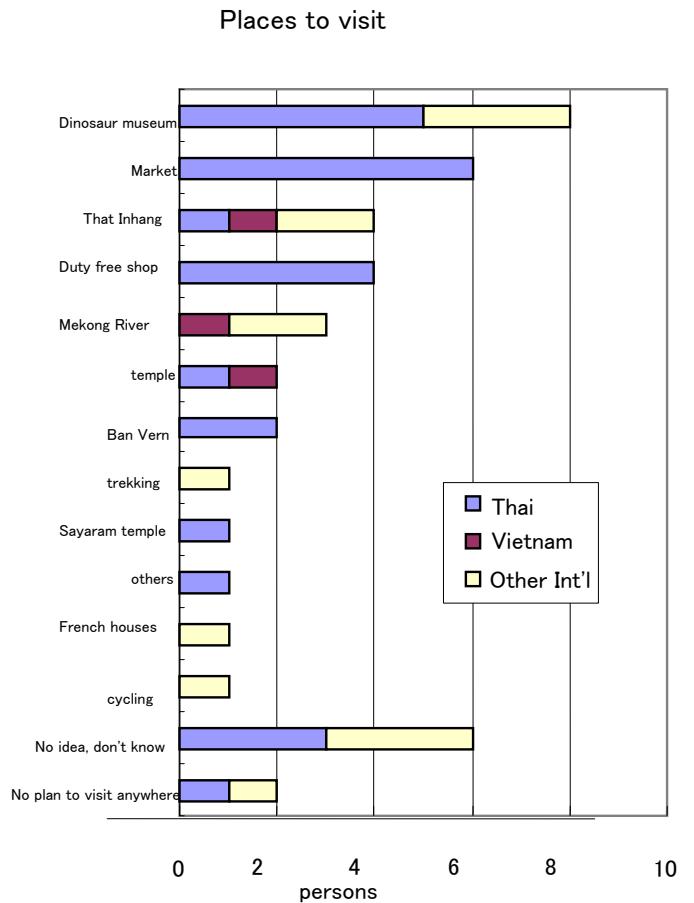
タイからの旅行者は家族・友人同士が多く、滞在日数は大半が1~2日である。海外からの旅行者は、友人と、あるいは1人旅で、半数は1~2日の滞在であるが、残る半数は3~4日と長めとなっている。

バンコクから自転車で来た1名とレンタカーの1名を除き全員がバスで来訪している。



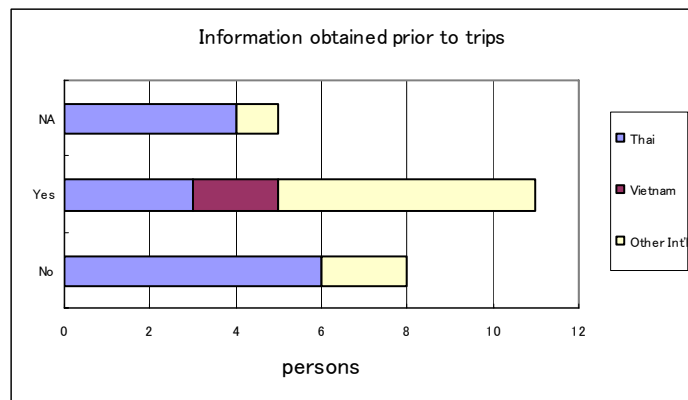
### (3) サバナケット県での訪問先

どこを訪問したか、又は訪問する予定かという質問には、恐竜博物館(8名)が最も多く、市場(6名)、タット・インハン寺院(4名)、免税店(4名)、メコン川沿い(3名)、寺、Ban Vern(各2名)と続く。「わからない」という回答も6名あった。



#### (4) 事前の情報入手

ベトナムと海外からの旅行者は『ロンリープラネット』やインターネットなどで情報を入手しているが、タイからの旅行者の半数は、特に情報を入手せずに来訪している。既に訪れたことのある家族や友人が同行しているためか、改めて情報をとらなくても、新聞やテレビ、人づてなどで情報が入っているためと考えられる。

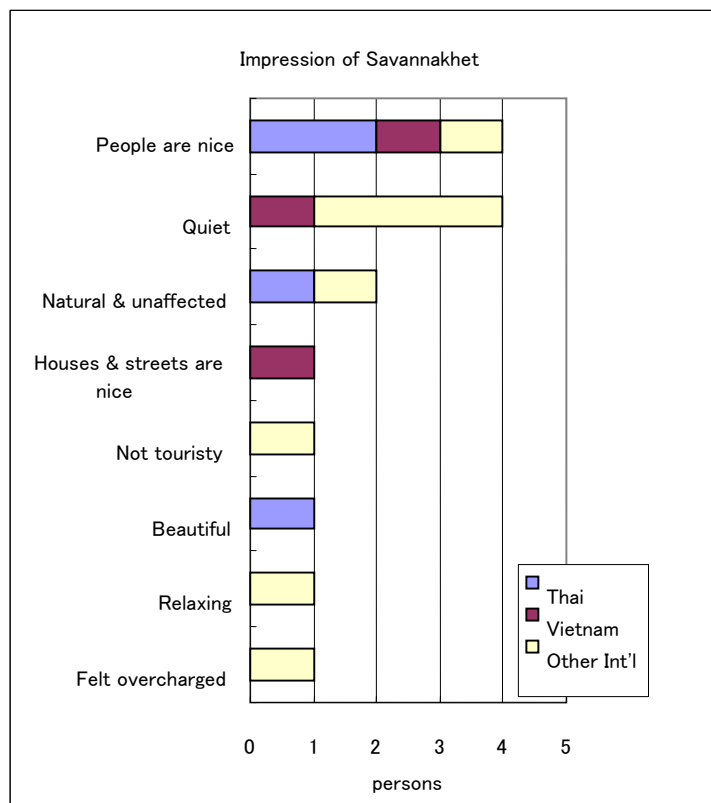


#### (5) サバナケット県の印象

サバナケット県の印象をたずねたところ、”People are (very) nice (impressive).”と回答した人が最も多かった(4名)。これに並ぶのが、静かであること(4名)。自然があり、あまり手をつけられていないこと(2名)、その美しさ、フランス風とラオス伝統家屋の調和した街並、リラックスできる、観光地ずれしていないこと(各1名)となっている。

他方、tuk-tuk のドライバーにオーバーチャージされたことや、入国手数料の高さで、よくない印象しか残らなかったフランス人も1名あった。

さらにサバナケット県で最もいい



ところは何かをたずねたところ、恐竜博物館が2名であとはすべて1名であるが、人々の心、歴史があること、自然、ほかの町への移動に便利、免税店、と続く。何も無いという回答も6名あった。ポジティブな回答者の数とあまり変わらないことから、静かで人々が印象的なところが好きな人には好かれるが、そうでない人には、ただ何も無いところと映っているようだ。

## (6) 改善すべき点

改善すべき点があるかどうかという質問に対しては、Yesが9名、Noが5名でNoは全員が欧米等からの旅行者である。彼らは、サバナケット県の静けさや自然がこのままであってほしいと願っている。

他方改善すべき点としてあげられたのが下記の点である。タイの旅行者からは、

- ・ 入国手続きが遅い
- ・ tuk-tuk のオーバーチャージ
- ・ 観光案内所の設置（存在が知られていないということである）
- ・ 観光地へのアクセスが悪い

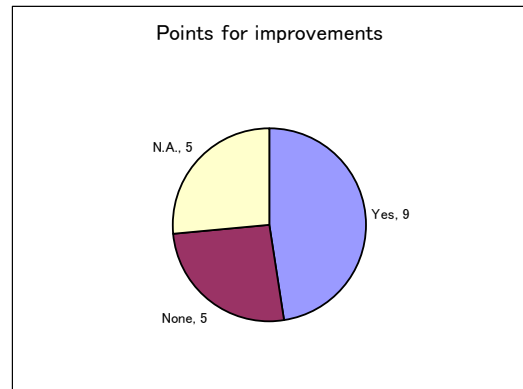
ベトナムの訪問者からは、

- ・ 道路の清掃が必要
- ・ 手工芸品などの特産品の開発が必要

欧米等の海外からの旅行者からは、

- ・ tuk-tuk のオーバーチャージ
- ・ もっと英語が通じるとよい
- ・ レンタカーや貸自転車の情報があるとよい

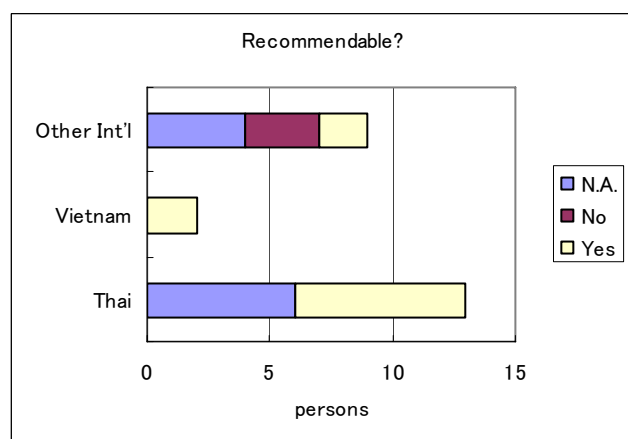
などとなっている。



## (7) サバナケット県への訪問を家族や友人に勧めるか

タイとベトナムからの旅行者の多くがYesと答えたのに対し、欧米等からの旅行者は意見が分かれた。欧米等からの旅行者のなかには、サバナケット県の観光地化していないところを評価する人と、何も特色がない、北部の方がいいとする人とあった。

タイからの旅行者はYesが7名、Noがゼロ、ベトナムも、Yesが2名、Noがゼロで、回答しなかった人を除く全員が、サバナケット県への訪問を家族や友人に勧めると回答した。



#### 4-3 Tourists Interview Data

##### International Tourists Interview Results

Period: 3/11-3/15, 2007  
 Samples: 24 samples (13 Thai, 2 Vietnamese, 9 Other international)  
 Venue: Kayson Phomvihane District, Savannakhet Province(Bridge, hotels, bus terminal, Tourist Information Center,etc.)  
 Interviewer: Preliminary Evaluation Study Team and interpreters  
 Method: One on one interview using a questionnaire

Q1 Where are you from?

Thailand		Vietnam		Other Int'l
Mukdahan	4	2		2 UK
Bangkok	1			2 France
Nakhon Ratchasima	1			1 Italy
Khon Kaen	1			1 Netherlands
Nakhon Phanom	2			1 Norway
Ubon	1			1 Japan
Sakon Nakhon	1			1 Canada
Saraburi	2			
<b>TOTAL</b>	<b>13</b>	<b>2</b>		<b>9</b>

Q2 You are here for ?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	Total
Sightseeing	5	1	5	11
Shopping	4			4
Almsgiving	3			3
Business		1		1
Visiting friends	1			1
Others			3	3
Just passing			1	1
<b>Total</b>	<b>13</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>24</b>

Q3 How many days are you staying in Savannakhet?

Days	Thai	Vietnam	Other Int'l	Total
1	9	1	1	11
2	3	1	2	6
3	1		1	2
4			3	3
NA			2	2
<b>Total</b>	<b>13</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>24</b>

Q4 With whom are you traveling?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	Total
Family	9	1		10
Friends	3		3	6
Alone			3	3
Others	1	1	2	4
NA			1	1
<b>Total</b>	<b>13</b>	<b>2</b>	<b>9</b>	<b>24</b>

Q5 Means of transportation

bus	21
bicycle	1
rent-a-car	1
N.A.	1

Q6 How many times have you visited Savannakhet Province?

	Thai	Vietnam	Other Int'l
once	9	1	6
2-5 times	4	1	3

Q7 Where did you visit in Savannakhet? (Or, where are you planning to visit?)

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
no plan to visit anywhere	1		1	2
no idea, don't know	3		3	6
cycling			1	1
French houses			1	1
others	1			1
Sayaram temple	1			1
trekking			1	1
Ban Vern	2			2
temple	1	1		2
Mekong River		1	2	3
Duty free shop	4			4
That Inhang	1	1	2	4
Market	6			6
Dinosaur museum	5		3	8

Q8 Did you get information about Savannakhet beforehand? If yes, how or from where?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
No	6		2	8
Yes	3	2	6	11
NA	4		1	5

Thai tourists: tourist agent(2)

Vietnamese tourists:website(2), travel agency(2),TV(1)

Int'l tourists : Lonely planet(3), Chikyuu no arukikata(1), Thai immigration office(1), friend(1)

Q9 What is your impression about Savannakhet?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
Felt overcharged			1	1
Relaxing			1	1
Beautiful	1			1
Not touristy			1	1
Houses & streets are nice(*2)		1		1
Natural & unaffected	1		1	2
Quiet		1	3	4
People are nice(*1)	2	1	1	4
NA	6		2	8

(\*1)People are impressive(1), are very nice(2)

(\*2)Mixture of French and local culture.

Q10 What is the best about Savannakhet?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
Dinosaur museum	2			2
people's mind			1	1
nature	1			1
Historical			1	1
Convenient to visit other places			1	1
Duty free shop(*1)			1	1
tourists' sites	1			1
None	3		3	6
Don't know	2			2
N.A.		2		2

(\*1)vintage wines

Q11 Do you find any points for improvements?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
No			5	5
Yes	5 (*1)	2 (*2)	2 (*3)	9
	4		1	5

(\*1:Thai tourists=Document checking at immigration is slow(1), tuk-tuk drivers overcharge(1), should have tourists' info.center(1), road access to tourists sopts(1), quicker transportation(1))

(\*2:Vietnamese tourists=Should clean the road more.(1), Should develop local products as souvenir such as handicrafts(1).

(\*3: International tourists =tuk-tuk driver's overcharging tourists(1), wish more people speak Englis(1), information about rent-a-car on rent-a-cycle would be nice(1))

Q12 Do you recommend visiting Savannakhet to your family or your friends? And Why?

	Thai	Vietnam	Other Int'l	total
N.A.	6		4	10
No	0	0	3	3 (*1)
Yes	7	2 (*3)	2 (*2)	11

(\*1.found nothing special(1), I prefer Northern part of Laos(1))

(\*2:It is good to stay here. Not touristy. I like little town like Savannakhet(1))

(\*3:I like to recommend tasty Lao food (1), Vietnamese must know the way of life in Laos(1).)

## 5. 主要面談者リスト

### (1) LNTA

Mr. Soukaseum BODHISANE(Vice chairman)  
Mr. Saly PHIMPHINITH (Acting Director-General)  
Ms. Sengsonda VANTHANOUVONG (Chief of Promotion Division)

### (2) PTO

Ms. Khantivong BOUNMY (Director)  
Mr. Syha PHANNAVONG (Deputy Director)  
Mr. Bountheung XAYAVONG (Deputy Director)  
Ms. Vanvilay PHONEPHACHANH (Statistic, Development, Planning and Cooperation Division )  
Mr. Kongphanh YHAPPAVONG (Business Administration Division)  
Ms. SengA-Thid VONGVORAVATH (Administration Division)  
Mr. Somsanook BUTHAKOTH (Advertisement and Marketing Division)、他

### (3) サバナケット州政府

Dr. Souphanh KEOMIXAY (副知事)

### (4) 日本国大使館

中村 建 一等書記官  
川久保 潤 二等書記官

### (5) JICA ラオス事務所

武井 耕一 次長

### (6) 他ドナー

#### 1) SNV

Mr. Keolabthavong SONGSAMAYVONG (Portfolio Coordinator)  
Dr. Paul ROGERS (Senior Advisor/Practice Leader)  
Mr .Ranjan SHRESTHA (Advisor, Small and Medium Enterprise Development)  
Mr. Southep PHOOCHANA (Sustainable Tourism Advisor)  
Mr. Sengthong PHOTHISANE (Local Governance Advisor)

#### 2) GTZ

Ms. Kirsten FOCKEN (Marketing Advisor)

(7) サバナケット県経済特区 (SEZA)

Mr. Phanomkone DARARASSAMY (Director of Investment Promotion and Legal Affair Division)

(8) ジェンダー関連

1) Lao National Tourism Administration

Ms. Sipraseuth CHANTHAOANYA (Social and Gender Development Specialist)

2) Lao Women's Union Tour Co., Ltd

Ms. Somchanh THANAVONG (Managing Director)

Mr. Silasak VATTAVONG (Marketing Manager, Tourist Guide)

Ms. Thoummaly VONGPHACHANH (Director General of the Counseling and Protection Center for Women and Children)

3) Tourist Police Department, Ministry of Security Public

Mr. Lt. col. Phonepasath SAYA-OXA (Deputy Director, Tourist Police Department)

## 6. 主要ヒアリング・現場視察リスト

(1) 第2メコン橋 出入国管理事務所・観光案内所

Mr. Boundeth SENELATH (Mekong Checkpoint and Head of Immigration Office)

(2) カジノ (SAVANHVEGAS)・大規模ホテル建設現場

Dr. Viengamano XUNIXAY (カジノ・マネージャー、STグループ)

(4) 製塩所 (SVNK Lao)

Mr. Keo KAYSONE (Tour coordinator)

(5) サバナケット県観光産業従事者

・免税店 (Mr. Khamleuxay PHOMMASONE; General Manager, Dao-Heuang 免税店)

・ツアー会社 (Mr. Sonethavong; Managing Director, Sawanvan Hoaw)

・テキスタイル製造・販売会社 (Mr. Sisamer LUANGXAY, Thonglahasinh 社)

・レストラン (Torenam Restaurant)、他。

(6) 外国人旅行者－別添4参照

7. 調査日程

			AM	PM
1	3月8日	木	評価分析及びPCM評価分析団員：東京出発→ビエンチャン到着（コネクションフライト：TG692）	
2	3月9日	金	事務所表敬、事務所担当者との協議、大使館表敬	LNTAとの協議（PDM要約の確認）
3	3月10日	土	評価分析及びPCM評価団員：ビエンチャン→サバナケットへの移動、第2メコン架橋の視察、インタビュー（旅行者対象1）、ジェンダー分析団員：東京出発→ビエンチャン到着（コネクションフライト：TG692）	
4	3月11日	日	評価分析及びPCM分析団員：FGD準備、東西回廊及びサバナケット周辺視察、インタビュー（旅行者対象2） ジェンダー評価分析団員：ビエンチャン→サバナケットへの移動	
5	3月12日	月	サバナケット県庁への表敬及び協議、サバナケットPTOへの表敬及び協議	インタビュー（旅行者対象3）
6	3月13日	火	ピン地区へ移動。 13時～15時FGD ① ピン地区の公務員、幹線道路沿いで商売をしている人たち、幹線道路沿いの住民：男性）。 15時～17時FGD ② ピン地区の公務員、幹線道路沿いで商売をしている人たち、幹線道路沿いの住民：女性）。 サバナケットへ移動。	
7	3月14日	水	9時～SNVとの協議、10時半～GITZとの協議、FGD資料整理、分析。 PCMワークショップ準備。	ツアー会社・免税店ヒアリング インタビュー（旅行者対象3）
8	3月15日	木	8時～10時、FGD ③ サバナケットの観光関連産業代表：女性） 10時～12時 FGD ④ サバナケットの観光関連産業代表：男性）	PCMワークショップ（サバナケットの公共セクター、民間セクター代表）。
9	3月16日	金	SEZAインタビュー FGD、PCMワークショップ資料整理、分析。	15時～サバナケットPTOへの報告
10	3月17日	土	セノ近郊製塩所視察。サバナケット→ビエンチャンへ移動。	
11	3月18日	日	M/M（案）、PDM（案）作成	
12	3月19日	月	PCMワークショップ	PCMワークショップ分析、PDM作成
13	3月20日	火	団内協議・PDM修正	LNTAとのPDM（案）協議
14	3月21日	水	PDM（案）修正・団内協議	評価分析及びPCM評価分析団員：事務所への報告
15	3月22日	木	大使館への報告	評価分析及びPCM評価分析団員：ビエンチャン発（TG693）→バンコク着、バンコク発→日本 ジェンダー分析団員：資料整理
16	3月23日	金	評価分析及びPCM評価分析団員：日本着 ジェンダー分析団員：LNTA（ジェンダー担当者）へのインタビュー、資料整理	
17	3月24日	土	ジェンダー分析団員：ビエンチャン発（TG691）バンコク着、バンコク発→日本	
18	3月25日	日	ジェンダー分析団員：日本着	

## 8. 収集資料リスト

- Ecotourism Programme Savannakhet Province, SNV, 2003
- Final Report: PCM/PDM Workshop on Tourism Development Project in Lao PDR, Lao Management & Development Consultants Co., Ltd., 2007
- Final Report: Objective Analysis and PDM Workshop on Tourism Development Project in Lao PDR, Lao Management & Development Consultants Co., Ltd., 2007
- Greater Mekong Sub region: Tourism Sector Strategy, ADB, 2005
- Improving leadership and performance within the National Tourism Authority (Outline of LNTA leadership training by SNV), SNV, 2006
- JBIC TODAY February 2007, 国際協力銀行, 2007
- Journal of GMS Development Studies Vol.3 No.1 July 2006, ADB, 2006
- Lao PDR Tourism Strategy 2006-2020, LNTA, 2006
- Lao Tourism Law, National Committee, 2005
- Lao Tourist Survey Form, IFC-MPDE, 2007
- Law of Tourism, Lao P.D.R. Peace Independence Democracy Unit, 2005
- Living with Tradition in Laos, Jonathan Rigg, 2005
- Luang Prabang Tourism and Opportunities for the Poor, SNV/ODI, 2006
- National Ecotourism Strategy and Action Plan 2004-2010, LNTA, 2004
- National Growth and Poverty Eradication Strategy, Lao P.D.R. Peace Independence Democracy Unit, 2004
- National Socio-Economic Development Plan (2006-2010), Lao P.D.R. Peace Independence Democracy Unit, 2006
- “One District One Product-ODOP” Study, Mixai Techno Engineering & Consulting Co, Ltd., 2007
- Public Sector and Private Sector Perception towards Tourism in Savannakhet, Foundation for Advanced Studies on International Development (FASID), 2006
- Savannakhet Province Socio-Economic Development Plan, 2006-2010 (in Lao), 2006
- SNV Annual Activity Plan, Savannakhet Provincial Tourism Office, 2007
- Statistic of Tourists, Savannakhet Province, 2007
- The Akha Experience, Exotissimo travel, 2007
- The household of Lao PDR: Social and economic indicators: Lao Expenditure and Consumption Survey 2002/03 LECS 3, National Statistical Center, 2004
- The Official Lao PDR Tourism Guide Book, LNTA, 2006
- Village Level Monitoring Benchmark, SNV, 2007
- 貧困克服のためのツーリズム、高寺奎一郎、2004
- ラオスの開発と国際協力、西澤信善他、2003

以上

# 第二部

## 環境社会配慮調査報告

## 略 語 表

ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
DGM	Department of Geology and Mines	地理鉱業局
DMH	Department of Metrology and Hydrology	気象水文局
DOE	Department of Electricity	電力局
DOI	Department of Industry	産業局
DPI	Department for Planning and Investment	計画投資局
DPRA	Development Project Responsible Agency	開発事業所管官庁
EIA	Environmental Impact Assessment	環境影響評価/環境アセスメント
EMP	Environmental Management Plan	環境管理計画
IEE	Initial Environmental Examination	初期環境調査
IUCN	International Union for Conservation of Nature and Natural Resources	国際自然保護連合
LNTA	Lao National Tourism Administration	ラオス観光庁
MAF	Ministry of Agriculture and Forestry	農業森林省
MCTPC	Ministry of Communication Transport, Post and Construction	公共事業省
MF	Ministry of Finance	財務省
MIC	Ministry of Information and Culture	情報文化省
MIH	Ministry of Industry and Handicrafts	産業手工芸省
MND	Ministry of National Defense	防衛省
MoInt	Ministry of Interior	内政部
NBCA	National Biodiversity Conservation Areas	国家生物多様性保全地域
NGD	National Geographic Department	国家地理局
NPA	National Protected Area	国家自然保護地域
NSC	National Statistics Center	国家統計センター
PD	Project Document	事業概要書
PO	Project Owners	事業者
SIDA	Swedish International for Development Agency	スウェーデン国際開発庁
SNV	The Stichting Nederlondse Vrijwilligers	オランダ開発機構
STEA	Science, Technology and Environment Agency	科学技術環境庁
SVK-PTD	Savannakhet Provincial Tourism Department	サバナケット県観光事務所
TOR	Terms of Reference	業務指示書
UDAA	Urban Development Administration Authority	都市開発管理庁
UNEP	United Nations Environment Programme	国連環境計画

UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国際連合教育科学文化機関
UXO	Unexploded Ordinance	不発弾
WRCC	Water Resources Coordinator Committee	水資源管理委員会
WWF	World Wide Fund for Nature	世界自然保護基金

## 第1章 環境社会配慮調査実施の経緯と目的

### 1-1 本調査の経緯

ラオスにおいては、観光産業は外貨獲得、所得と雇用の拡大、地域振興などの側面から、経済開発に寄与するものとして期待が高い。ルアンパバンとワット・プーが世界遺産としてUNESCOに登録され、世界的にも注目されつつある。また豊かな自然が残されていることから希少な動植物が生息し、景勝地や歴史的遺産も多く、観光資源開発のポテンシャルを有している。

近年の観光客の伸び率をみると、1990年には1万4,400人に過ぎなかった観光客の数は、2000年には74万人、2005年には110万人に達し、観光産業は鉱物資源の輸出と並んで有力な外貨獲得源の1つとなっている。さらに、観光客数は、2010年には200万人に増加すると予想されている。

一方、観光のためのインフラストラクチャーが不十分であることに加え、観光に関する情報が十分整理されておらず、観光プロモーションは大きな課題となっている。またLNTAでの人材育成も十分でないことから、増大する観光サービス需要を満たすための組織と人材の更なる強化が必要となっている。

プロジェクト対象地域の中部のサバナケット県では、第2メコン橋が2006年12月に完成し、タイからベトナムへの円滑な移動が可能になった。だが、ラオス国内の国道9号線（東西回廊）沿線は、魅力的な観光資源に乏しいことや旅行者への情報提供の不足などから、タイーベトナム間を通過するだけの旅行者も多い。このため、東西回廊が同国経済へ及ぼす裨益効果は、高いとはいえない状況である。

上記のような背景から、国道9号線沿線において、東西回廊のラオス国内への経済効果が期待できる実践的な観光開発を実施しつつ、LNTA及びサバナケット県で観光関連人材の育成を行い、戦略策定やマーケティング・プロモーション力を強化するための協力が要請された。

一方、本プロジェクトに含まれる活動内容や立地条件によっては負の影響を及ぼす可能性があり、環境社会配慮のための諸活動を含めた計画作りが求められる。係る事情から、プロジェクト開始前の事前調査段階で、環境社会配慮調査が実施されることとなった。

### 1-2 環境社会配慮ガイドラインに基づくカテゴリ分類とその理由（要望調査時）

#### カテゴリ B

#### （理由）

観光開発計画の策定であり、サイトによっては環境や社会への負の影響が想定される。環境社会配慮の視点を取り入れながら、自然・文化資源等の保全を考慮した計画づくりが必要である。

### 1-3 調査の概要

本調査は2次資料の収集・分析及び簡易な現地踏査のみを行う初期環境調査（Initial Environmental Examination, IEE）相当の調査である。不明な点については、プロジェクト開始後、モニタリングの実施段階で確認が必要となる。

調査日程及び主要面談者については以下のとおりである。また、収集した資料については、

付属資料1を参照のこと。

調査日程

日 時	訪問先・主要面談者
9月11日 8:45 着	バンコク→ビエンチャン
11:00	JICA ラオス事務所表敬 面談者：高島所長、磯辺所員
13:30	LNTA ■面談者 Mr. Kettasone, Director
15:00	ADB ■面談者 Ms. Nokphakone
9月12日 9:00	農業森林省（MAF）、Forest survey and planning unit ■面談者 Sanonti, Director
11:00	国家地理局（NGD） ■面談者 Dr. Thongchanh, General Director
13:00	国家統計センター（NSC） ■面談者 Mr. Thirakha, Deputy Director Ms. Yavang Vachoima, Deputy Director General
16:00	科学技術環境庁（STEA） ■面談者 Mr. Sinsavanh, Director Mr. Peter G. Jensen (SIDA), Team Leader of SEM II Project
9月13日 10:00	LNTA ■面談者 Mr. Kettasone, Director
9月14日 8:00 発	ビエンチャン→サバナケット
15:00	サバナケット県観光事務所（SVK-PTD） ■面談者 Mr. Syha Phannavong, Deputy Director
9月15日 8:00 発	サバナケット→ピン 現地視察（国道9号線、ラオス-ベトナム国境、ホーチミントレイル）
9月16日 8:00 発	ピン→サバナケット 現地視察（Samattak Rapids, Dong Phuvieng NBCA）
9月17日 8:00 発	現地視察（Monkey Forest, Turtles Lake, Buddha Temple）
9月18日 8:30 発	現地視察（恐竜博物館）
9:00	SNV ■面談者 Mr. Bounby Lasysamay, Sustainable Tourism Advisor
9:30	Land Planning and Development Office, SVK Province ■面談者 Mr. Sivilay Phonesisouvang, Deputy Director

10:30	SVK 都市開発管理庁 (UDAA) ■面談者 Mr. Bounthung Phongsavath, Vice President
13:00	現地視察 (Laha Handicraft Shop)
14:00	Savan-Seno Special Economic Zone ■面談者 Mr. Thong Say SAYAVONGKHAMDY, Vice Governor of Savan-Seno Special Economic Zone
9月19日 9:00	SVK PTD ■面談者 Ms. Khantivong Bounmy, Director
10:00 発	サバナケット→ビエンチャン
9月20日 10:00	LNTA ■面談者 Mr. Kettasone, Director
11:00	MAF-気象水文局 (DMH) ■面談者 Mr. Khanmany, Technical Division of DMH
15:00	JICA ラオス事務所 調査結果報告 面談者：高島所長、武井次長、磯辺所員
16:00	国際自然保護連合 (IUCN) ■面談者 Dr. Nathan Badenoch, Programme Coordinator
22:30 着	ビエンチャン→バンコク

#### 1-4 本調査の位置づけ

本プロジェクトの現在のステージは事前調査段階であり、JICA ガイドラインの3.6.2-1及び2に該当する。

JICA ガイドライン3.6.2-1及び2 (カテゴリ B の技術協力プロジェクト)

1. JICA は、事前調査を行い、環境社会配慮に必要な調査団員を派遣する。環境影響評価等の実施状況及びその内容、本ガイドラインを満たす環境影響評価等がなされているか否か等について調査を行い、改めて環境社会配慮調査を行う必要があるか否かを確認する。JICA は、事前調査報告書を完成後速やかにウェブサイト上、JICA 図書館と現地事務所で情報公開する。

2. JICA は、環境影響評価等が実施されている場合又は本ガイドラインに基づいて開発調査がなされている場合であって、改めて環境社会配慮調査を行う必要がない場合は、必要なモニタリング項目や環境社会配慮に関する双方の実施項目を定めた R/D の署名を行う。協力は、環境影響評価等の結果を踏まえて計画され実施される。JICA は、R/D 及び環境社会配慮に関連する情報を速やかにウェブサイト上、JICA 図書館と現地事務所で公開する。

## 第2章 ラオスにおける環境社会配慮に関する法制度と実施状況

### 2-1 環境アセスメント制度、関連組織

#### 2-1-1 根拠法やガイドライン

1999年4月3日付の Environmental Protection Law (No. 02/99/NA) の第8条に環境影響評価/環境アセスメント (EIA) についての規定があり、以下の5点が定められている。

- ① STEA が EIA の手続きと手法についての規則を作成すること
- ② STEA の規則をベースに、事業官庁が EIA の手続きと手法についての規則を作成すること
- ③ 環境に影響を及ぼす開発プロジェクトは EIA 報告書を提出すること
- ④ 法律施行以前に運用されている開発プロジェクトは緩和策を提出すること
- ⑤ EIA は影響を受ける地方政府、組織と住民の参加を含めること

また、STEA が 2000 年 10 月 3 日に Regulation on Environment Assessment in the Lao PDR (No. 1770/STEA) を発効し、原則、手続き、賞罰を定めている。

#### 2-1-2 対象事業

EIA の対象事業については、各セクターの所管官庁がガイドラインを作成し、定めることとなっている。2007年9月現在、観光開発に関するガイドラインは存在せず、また、EIA が求められる規模要件などのクライテリアは存在しない。

本プロジェクトに関しては、今後計画作りを進める段階で、なんらかの物理的コンポーネント（道路など）が含まれるような場合、それらの事業規模等に見合った手続きが要求される可能性がある。

#### 2-1-3 EIA の実施・責任主体<sup>1</sup>

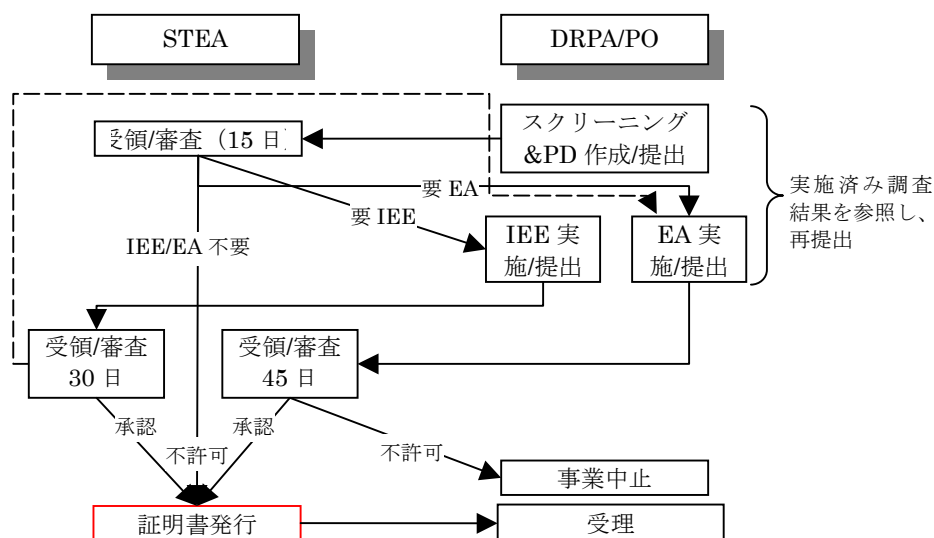
事業者（PO）が事業概要書（PD）の作成、及び初期環境調査（IEE）・EIA を実施し、必要なコストを負担する（Article 4）。事業の所管官庁は開発事業所管官庁（DPRA）と呼ばれ、IEE の承認、EIA 実施のための TOR 作成や審査などを行う。

なお、DPRA が開発プロジェクトを実施する場合、DPRA が PO となり、同様の責任を負う。

---

<sup>1</sup> STEA (2003) “Regulation on Environment Assessment in the Lao PDR”, Vientiane, pp.59-91.

2-1-4 手続き



出典：STEA（2003）ibid. に基づき作成。

図2-1 ラオス EIA 制度のフロー

(1) PD の作成・提出、スクリーニング

すべての事業について、特徴、規模、立地条件を記載した PD が作成され、DRPA へ提出されるとともに、関連省庁や関連自治体等に対しても回覧に供される。これら機関からの意見が反映された形で、スクリーニングが行われる。DRPA は、PD の受領後から 30 日以内に、スクリーニングを完了する必要がある。

スクリーニングを受領した関係機関は、15 日以内に審査を行い、DRPA に結果を通知する。

DRPA は、審査結果を受領後 7 日以内に、PO に対してスクリーニングの結果を通知する。同時に、関連機関にも通知する。

DRPA はスクリーニングに関する決定を行い、STEA に通知する。このとき、提案プロジェクトによる環境社会影響は生じないと判断される場合、同通知の受領から 15 日以内に、環境応諾証明書（Environmental Compliance Certificate）が発行される。なんらかの環境社会影響が想定される場合、IEE 又は EIA の手続きが実施されることとなる。

(2) IEE/EIA の実施

スクリーニングの結果、IEE 実施が要求された場合、POs によって IEE が実施される。影響が複雑なものでない場合は、IEE 報告書の一部として環境管理計画（EMP）が作成され、DRPA に提出される。また、報告書には、影響緩和策、環境モニタリング計画、必要な措置の実施計画が含まれなければならないとされる。

DRPA は同報告書について意見を付し、環境影響が複雑であると判断される場合には、EIA が要求されることとなる。

スクリーニングの結果、又は IEE 手続き中に EIA が必要だと判断された場合、以下の

手続きに従う。

EIA の実施にあたっては、EIA 調査のための業務指示書（TOR）が決められる。TOR には、EIA 実施者の資格要件、実施体制などが含まれ、直接・間接的な利害関係者に対して公開される。

TOR 案の作成後、STEА に提出され審査される。また、関係機関にも配布され、7 日間、意見が求められる。STEА は、同 TOR 案の受領後、30 日以内に TOR 承認のための意思決定を行い、PO 及び DPRA に通知しなければならない。

TOR の承認後、同 TOR に従い、EIA 調査が実施される。

### （3）EIA の審査

STEА は EIA 報告書の受領後、審査、関係省庁との調整、公衆関与などの作業を行い、それらについての責任を負う。STEА は、EIA 報告書受領後から 15 日以内に、被影響グループなどに告知を行い、意見を求める。これらのグループは、告知を受け取ってから 30 日間、意見表明の機会が与えられる。STEА は、これらの意見に配慮し、EIA の承認に関する意思決定に反映させる。

STEА は、EIA 報告書を受け取ってから 60 日以内に審査を終了し、承認に関する意思決定をしなければならない。

承認に関する決定後のアクションとしては、以下の 3 とおりがある。

- 1) EIA 報告書（EMP を含む）が条件つきで承認される。付与される条件は、プロジェクトの詳細設計段階で実施される。
- 2) PO に対し、追加調査、及び EIA 報告書の改定を要求し、要求が満たされる場合に承認される。
- 3) EIA 報告書が拒否され、提案プロジェクトは承認されない。

### （4）EMP の実施

EIA 報告書には EMP が含まれていなければならない、プロジェクト実施のために必要な環境証明書発行のために必須の要件となっている。

#### 2-1-5 関連組織

EIA の所管は、STEА の下に位置する環境局 EIA 課が包括的に行う。また、各セクターを所管する事業官庁も承認手続きに関与しており、例えば道路事業の場合は、公共事業省（MCTPC）が行うといった具体である。

なお、観光セクターに関しては、現在までに EIA や IEE の対象となった事業は存在しないため、LNTA 内に環境社会配慮を行うセクションは設置されていない<sup>2</sup>。

#### 2-2 生物資源の保全に関する規制

同国において、森林などの野生生物の生息地を保護するための制度として、「国家自然保護地域及び水生生物と野生生物の管理に関する規制（Regulation on natural protected areas, aquatic resources and wildlife management）」が制定されている。同規制は、1999 年に発令された、「森

<sup>2</sup> LNTA 担当官へのヒアリング（2007 年 9 月 13 日）による。

林法の実施に関する首相令（Prim minister decree on forest law implementation, No. 198/PM）」を受けたもので、2003年に制定された。

同規制の主な目的は、①国家自然保護地域（NPA）／国立公園（National Parks）／国家生物多様性保全地域（NBCA）の各区分を定めること、②保護すべき生物種を定めること、③NPAs保全のための基金を設立すること、以上の3つとされている。

本プロジェクトとの関係では、サバナケット県には2つの自然保全地域が含まれている。自然保全地域における禁止行為については、同規制の第16条に以下のような記述がある。

- 第一項 天然資源の開発、ダムや道路の建設、水資源の利用、森林伐採、野生生物の狩猟、植物の移植、そのほか森林に関与する行為
- 第二項 土地の売買、家屋の建設、土地の開拓、焼畑農業
- 第三項 政府の許可なしに行う文化・歴史的財産の開発・移動・掘削
- 第四項 そのほか環境に影響を与える行為

仮に、自然保全地域でこれらの禁止行為を行う場合、同規制には、その許認可に関する明確な記載はない。一般的な手順として、同地域の境界内でなんらかの開発行為を行う場合には、以下の手順に則るものとされる<sup>3</sup>。

- ① 事業者は、開発行為の担当官庁と協働でプロジェクトドキュメントを作成し、農業森林省森林局にオフィシャルレターとして送付する。
- ② 森林局は、森林資源保全課に対し、必要な措置に関するコメントを求める。
- ③ 同課からのコメントを受け取った森林局は、事業者及び開発行為の担当官庁に対して、同措置の内容を伝える。

### 2-3 そのほかの環境関連法

環境社会配慮に係る重要な制度として、ラオスの非自発的住民移転に関するものが制定されている。これには、2005年6月に成立した「開発事業の補償と移転に関する法令（Decree on the Compensation and Resettlement of the Development Project）」及び、2005年11月に成立した、「開発事業によって影響を受ける人々の補償と移転に関する法令の実施のための規則（Regulations for Implementing Decree on Compensation and Resettlement of People Affected by Development Projects）」がある<sup>4</sup>。いずれも、スウェーデン国際開発庁（SIDA）による技術支援を受けて作成されたものである。

そのほか、STEА がまとめた報告によると、環境関連制度としては表2-1の法や規則が存在する。また、大気や水質汚染に関する環境指標については、現在のところ、SIDAによる支援を受けて検討中である<sup>5</sup>。

<sup>3</sup> 森林局技官に対するヒアリング（2007年9月21日）による。

<sup>4</sup> STEА（2006）“Decree on Compensation and Resettlement of People Affected by Development Projects”, Vientiane. STEА（2006）“Regulations for Implementing Decree on Compensation and Resettlement of People Affected by Development Projects”, Vientiane.

<sup>5</sup> STEА 担当官に対するヒアリング（2007年9月12日）による。

表 2 - 1 ラオスにおける環境関連法

Law	Regulated Activities	Key Contents	Responsible Ministries
Forestry Law (1996)	States principles, regulations and standards for the use of forest lands and resources. Promotes the conservation and rehabilitation of forest resources. Defines roles and authorities of forest management and inspection organizations.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Specified procedures for getting approvals from authorized agency is required for individuals and organizations to possess and use natural forests</li> <li>Individuals and organizations have obligation to preserve forest resources including water sources, marine animals and wildlife</li> </ul>	MAF
Water and Water Resource Law (1996)	Regulates the management, exploitation, development, protection and sustainable use of water and water resources	<ul style="list-style-type: none"> <li>MAF is responsible for the survey and inventory of water resources</li> <li>Classifies scale of water use into small, medium and large, the latter two require permits.</li> </ul>	WRCC
Land Law (1997)	Provides rules on management, protection and use of land.	<ul style="list-style-type: none"> <li>All individuals and organizations have obligation to protect the land to ensure that there is no soil erosion, land slip, soil degradation and negative impact on the natural or social environment</li> </ul>	MAF, MIH, MCTPC, MIC, MND, MoInt, MF
Mining Law (1997)	Provides a system of management for the conservation, exploration, mining and processing of minerals for local consumption and export	<ul style="list-style-type: none"> <li>Licensees are required to preserve and restore the land utilized during mining and to rehabilitate the land after mine closure and to guarantee that the project shall have no serious negative impacts.</li> <li>Any person or entity licensed to develop mineral resources shall utilize procedures to limit adverse environmental impacts</li> </ul>	MIH / DGM
Environmental Protection Law (1999)	Specifies principles, rules and measures to manage, monitor, restore and protect the environment, natural resources and biodiversity. Ensure the sustainable socio-economic development.	<ul style="list-style-type: none"> <li>All persons and organizations residing in Lao PDR have an obligation to protect the environment</li> <li>STEA is responsible for overall environmental oversight and coordination</li> <li>Each sector responsible for development projects shall issue its</li> </ul>	STEA / DoE

		own regulations for EIA, based on general EIA regulation issued by STEA	
Industrial Law (1999)	Regulates the establishment and management of business in industry and handicraft sector	<ul style="list-style-type: none"> <li>• All businesses shall ensure the protection of the environment in accordance with EPL</li> <li>• Wastes shall be treated in accordance with the relevant waste discharge regulations</li> </ul>	MIH / DOI
Environmental Impact Assessment (2000)	Establishes uniform environmental assessment requirements and procedures for all development projects	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Organizational responsibilities are specified</li> <li>• Procedures and methods for the EA.</li> <li>• Requirements for the Environmental Management Plans, Environmental Monitoring and Evaluation, and Public Involvement.</li> </ul>	STEA / DoE
Implementing Decree of the EPL (2001)	Outlines requirements for the preparation of detailed sector regulations, and provides assistance in achieving the goals of the National Socio-Economic Development Plan (NSEDP) .	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Ministries and ministerial equivalents shall:</li> <li>• Issue and implement sectoral regulations</li> <li>• Prepare technical standards and regulations on construction, operation, maintenance, repair, innovation and expansion</li> <li>• Issue regulations to protect and control pollution</li> <li>• Establish or Improve the EMMUs.</li> </ul>	STEA / DoE
Electricity Law (1997)	Provides a framework to manage all electricity activities ( generation, transmission and distribution)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The planning and execution of power projects must take into account social and environmental impact, including those upon ecosystems and wildlife habitats, as well as ensuring economic returns.</li> </ul>	MIH/DoE

出典：STEА 提供資料

### 第3章 本プロジェクトにおけるスコーピング

スコーピングの実施にあたり、本プロジェクトにおいて実施が予定されている諸活動から、環境社会配慮に関するものを整理する。

本プロジェクトにおけるアウトプットとして、以下の5項目が想定されている<sup>6</sup>（表3-1）。

表3-1 本プロジェクトにおけるアウトプット

アウトプット
1：サバナケット県の観光振興における戦略が策定される
2：サバナケット県の観光セクターにおけるサービスが向上する
3：サバナケット県観光局/LNTA と民間セクターの協調の下で、地元観光資源のプロモーションが行われる
4：サバナケット県の観光に関する情報が旅行者及び関係者に効果的に提供される
5：観光開発による負の影響を防止する仕組みが導入される

これら5項目のうち、直接的な環境社会影響（以下、特に断らない限り、「影響」と略する）を生じる可能性があるのは、アウトプット1のための諸活動である。

なお、現在のところ、アウトプット1のための諸活動は図3-1のように整理されている。基本的に、活動①から活動⑦まで順に実施され、活動⑤まで進んだ時点で、初めて影響を生じうる活動内容（例：道路や橋梁の整備など）が明らかとなる。

このため、現時点でこれらの活動内容を特定することはできない。

<sup>6</sup> JICA（2007）「ラオス人民民主共和国東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト 事前評価調査報告書（案）」、ドラフトレポート、pp. 41.

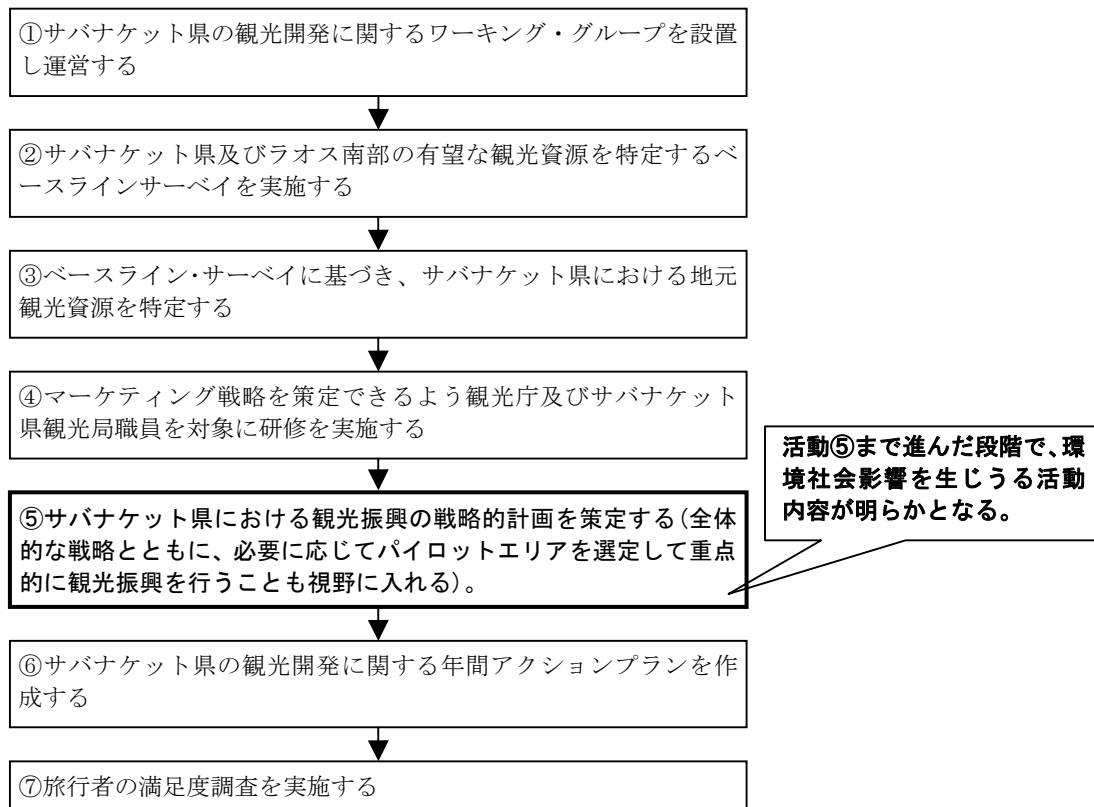


図 3 - 1 アウトプット 1 に関する諸活動

そのほか、本プロジェクトの実施により、同地区における観光業の従事者や観光客の増加など、人口移動・集積が生じうる場合、なんらかの影響が発生する可能性がある。具体的な影響については、別項で検討する。

### 3 - 1 現 況

プロジェクト対象地域は、首都ビエンチャンより南東約 280km の地点に位置する。計画対象地域の行政区は、Savannakhet Province (サバナケット県) となる。

#### 3 - 1 - 1 被影響エリア

本プロジェクトによる影響が及ぶ範囲について、現時点では、影響を生じ得る主な活動が特定されていないため、影響範囲の設定は困難である。一方で、プロジェクトの主な活動は国道 9 号線沿線を含む東西回廊周辺となるため、仮の被影響エリアとしては、これらの地域とした。

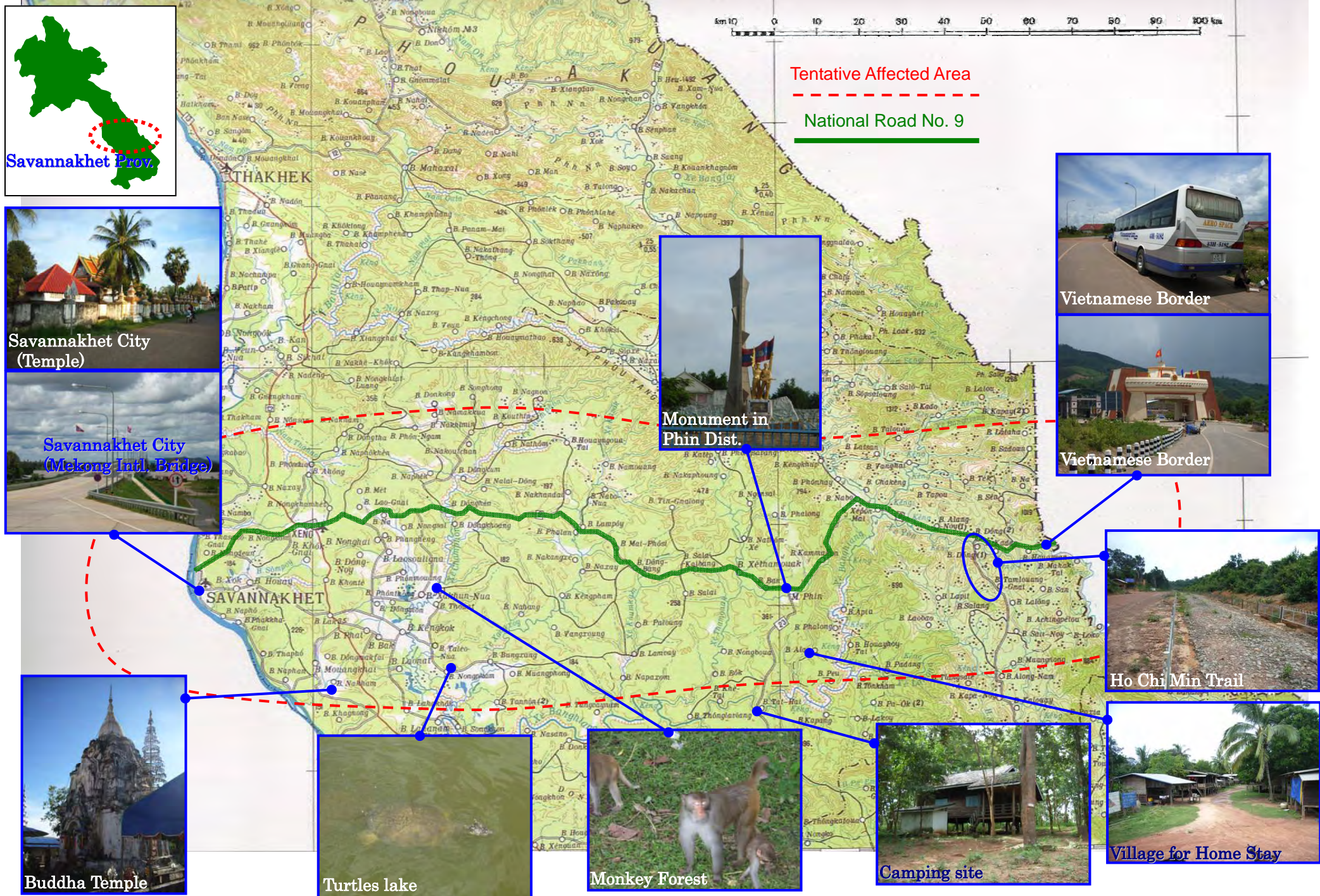


図3-2 プロジェクト対象地域及び視察ポイント

### 3-1-2 社会環境概況

#### (1) 人口基礎統計の概要

サバナケット県全体の人口は、82万5,902人となっており、全国18県中（17県＋首都）最大の規模である<sup>7</sup>。県の人口増加率（1976～2004年の年平均値）は1.079（全国平均は1.083）であり、ほぼ平均的な増加率となっている<sup>8</sup>。貧困者比率（Head Count Poverty Ratio）をみると全国で12番目となっており、比較的貧困率の低い地域であるといえる。

表3-2 人口増加率（1976～2004年の平均値）

Items	Growth Rate	Rank
Lao PDR	1.083	
Bokeo	1.169	1
Xayabury	1.099	2
Capital	1.086	3
Oudomxay	1.081	4
Borikhamxay	1.080	5
Attapeu	1.080	6
Champasack	1.080	7
Phongsaly	1.079	8
Xiengkhuang	1.079	9
<b>Savannakhet</b>	<b>1.079</b>	<b>10</b>
Luang Prabang	1.078	11
Huaphanh	1.072	12
Sekong	1.071	13
Saravane	1.064	14
Khammuane	1.037	15
Luangnamtha	1.029	16
Xaysomboon SR	0.997	17
Vientiane	0.995	18

出典：NSC（2005.09）*ibid.*に基づき作成

表3-3 貧困者比率（1997～1998年）

Province	HCI	Rank
Lao PDR	38.6	
Huaphanh	74.6	1
Oudomxay	73.2	2
Phongsaly	64.2	3
Luangnamtha	57.5	4
Xaysomboon SR	55.0	5
LuangPrabang	49.4	6
Sekong	45.7	7
Attapeu	45.3	8
Khammuane	41.6	9
Saravane	39.6	10
Bokeo	37.4	11
<b>Savannakhet</b>	<b>37.1</b>	<b>12</b>
Champasack	35.6	13
Xiengkhuang	34.9	14
Borikhamxay	25.8	15
Vientiane	24.3	16
Xayabury	21.2	17
Capital	12.2	18

出典：MOFA（2004）“National Growth & Poverty Eradication Strategy”, p.23.に基づき作成

サバナケット県には15の市が存在し、県全体の世帯数は13万1,216、世帯あたりの平均人数は6.3人となっている<sup>9</sup>。

サバナケット県の産業セクター別労働力をみると、農業が64%、焼畑農業が4%、公務員が4%、民間企業が2%、貿易業が3%、建設業が1%、無職が1%、そのほか21%となっている<sup>10</sup>。観光セクターについては、別項で論じる。

民族構成については、県全体では、Lao族が約62.1%と半数以上を占める。そのほか、Putai族が15.2%、Makong族が9%、Katang族が8.7%、Tri族が2.6%、そのほか2.4%となっている。民族の違いによって農業の形態や生活様式、使用言語が異なる。

<sup>7</sup> NSC（2005.09）“Population and Housing Census Year 2005 Preliminary Report”, Vientiane, Lao PDR, p.21.

<sup>8</sup> NSC（2005.07）“1975-2005”, Vientiane, Lao PDR, p.22.

<sup>9</sup> NSC（2005.09）*ibid.*, p.21.

<sup>10</sup> DPI-SVK（2007）“Savannakhet Province -Potentials and Investment Opportunities”, Savannakhet, p.5.

表 3-4 サバナケット県の民族構成（上位 5 位）

Rank	Name of ethnic group	No. of Population	%
1	Laos	512,966	62.1
2	Putai	125,566	15.2
3	Makong	74,381	9.0
4	Katang	71,805	8.7
5	Tri	21,591	2.6
Others		19,593	2.4
Total		825,902	100.0

サバナケット県の識字率（15 歳以上）については 68.5%となっており、全国平均の 72.7%と比較するとやや低い水準にとどまっている。男女別にみると、女性が 59.2%、男性が 78.5%となっており、男女差で相当の差がみられる<sup>11</sup>。就学率についても同様の傾向がみられ、非就学率については、男女間で 10%以上の格差がみられる。

表 3-5 サバナケット県の識字率（2005）

	Female			Male			Total		
	Literate	Population	Rate	Literate	Population	Rate	Literate	Population	Rate
Savannakhet	151,260	255,691	59.2	189,599	241,555	78.5	340,859	497,246	68.5
Lao PDR	1,091,698	1,726,633	63.2	1,383,598	1,678,070	82.5	2,475,296	3,404,703	72.7

出典：NSC（2006.03）*ibid*, p.70.

表 3-6 ルアンパバンの 6 歳以上の就学率（2005）

	Population Aged 6+	Never been to school (%)	At school (%)	Left School (%)	No answer (%)	Total (%)
Savannakhet	700,687	28.1	25.3	45.4	1.2	100.0
Female	356,164	34.9	23.0	40.6	1.5	100.0
Male	344,523	21.1	27.7	50.3	1.0	100.0
Lao PDR	4,746,493	22.8	28.4	46.7	2.1	100.0
Female	2,393,104	29.5	25.6	42.4	2.6	100.0
Male	2,367,389	16.1	12.1	36.3	50.3	100.0

出典：NSC（2006.03）*ibid*, p.58.

サバナケット県における保健医療サービスについて、2005 年現在、ヘルスセンターが存在するのは 1543 村中 81 村（5.25%）のみにとどまっており、医療サービスが十分普及しているとはいえない状況である<sup>12</sup>。

HIV/AIDS の一般的状況<sup>13</sup>については、2005 年の統計で特定された全国の HIV 保持者は 1,827 人（人口の 0.08%）であり、ラオスは比較的感染者数が少ない国だとされている。だが、調査の不備によって、統計上現われていない多数の潜在感染者の存在が指摘

<sup>11</sup> NSC（2006.03）“Results from the Population and Housing Census 2005”, Vientiane, p.70.

<sup>12</sup> NSC（2006.09）*ibid*, p.32.

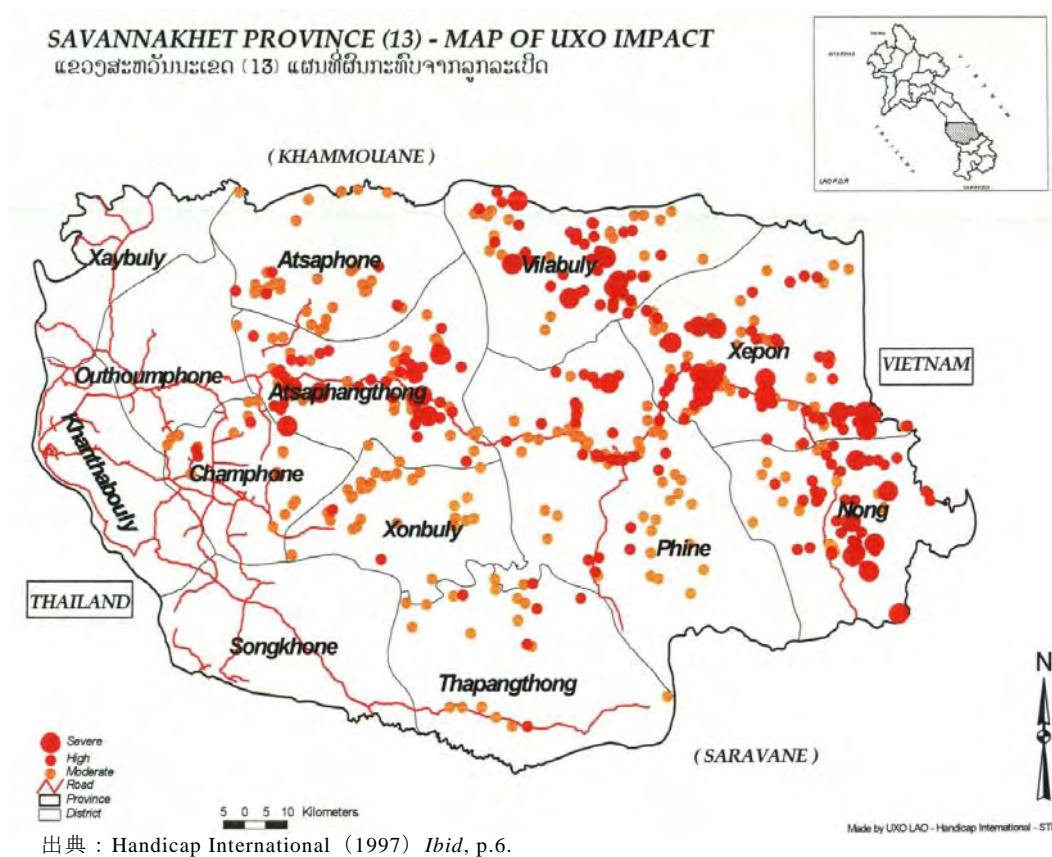
<sup>13</sup> National Committee for the Control of AIDS（2006.02）“National Strategy and Action Plan on HIV/AIDS/STI 2006~2010”, Vientiane, pp.3-5.

されている。また近年、売買春の常習利用者や、HIVを他者に感染させてしまう Bridge Population と呼ばれる人々が増加しているとされる。そのほか、予防に関する知識不足や、女性の地位が低いこと、人口移動、性交渉に関する考え方の変化などが、HIV感染の増加につながっていると報告されている。

サバナケット県での感染者について、特に性労働者の感染が増大しており、全体の感染者のうち3.3%にのぼる。また、同県はHIV/AIDS対策の重要地域とされており、2002～2005年にかけて、性交渉による感染予防の統合プログラム、コンドーム100%使用プロジェクト、日和見感染に対する病院での処置、抗レトロウイルス薬の処方、家庭での治療プログラム、などが実施されている<sup>14</sup>。

(2) 不発弾 (Unexploded Ordnance, UXO) の概況<sup>15</sup>

1996年現在、サバナケット県は、730を越える村(47%)が不発弾(UXO)により汚染されており、全国のなかでも高い汚染地域とされている。現在でも、625の村でUXOによる問題が報告されている。



出典：Handicap International (1997) *Ibid*, p.6.

図3-3 サバナケット県におけるUXOの現状

<sup>14</sup> National Committee for the Control of AIDS (2006.02) *ibid*, pp.6-7.

<sup>15</sup> Handicap International (1997) "National Study on the Socio-Economic Impact of Unexploded Ordnance Province & District Report Savannakhet", pp.3-5.

汚染された村々のうち、190 村は深刻な汚染、194 村は高い汚染地域であるとされている。

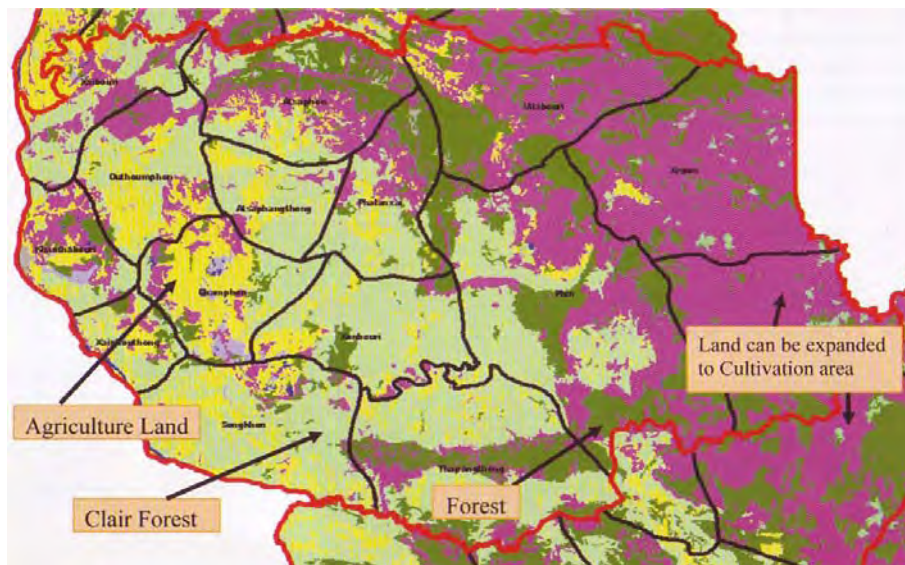
また、汚染地域の分類として、大まかに以下の4エリアとされている。

- ① Ho Chi Min Trail による移動ルートであった、Xepon、Vilabuly、Nong の東部3市
- ② シーズーバトルと呼ばれる激しい戦闘のあった国道9号線及び23号線を有する Phine、Atsaphangthong の2市
- ③ 米国空軍による爆撃があった、北部の Atsaphone、中部の Champhone 及び Xonbuly、南部へ抜ける Thapangthong の4市
- ④ 未調査地帯である Xaibouly、Outhoumphone、Khantabouly、Songkhoneno の4市

### (3) 土地利用<sup>16</sup>

サバナケット県における主な土地利用区分は、農地及び森林となっている。農地については、県全体の15%の面積を占め、主に米作が行われている。米の生産量は、県全体の需要を満たすに十分であり、周辺他県や他国にも輸出されている。森林面積は、県全体の50%を占め、3つの自然保護地域を含む。

そのほか、同県内には、多数の河川や湿地が位置しており、また、銅、金、鉄、鉛、岩塩などの採掘も広く行われている。



出典：DPI-SVK (2007年8月) *ibid*, p. 6.

図3-4 サバナケット県における土地利用

<sup>16</sup> DPI-SVK (2007.08) *ibid*, pp.6-7.

(4) 観 光<sup>17</sup>

サバナケット県への訪問者は、過去6年間で約2倍に増加しているが、すべての訪問者が観光目的かどうかは不明である。同県の宿泊施設については、過去6年間で2倍以上に増加している（表3-7、表3-8）。主に観光を目的とする海外訪問者に対して実施された意識調査の結果をみると、サバナケット県への訪問者は、全体の10%前後にとどまっている（表3-9）。

表3-7 サバナケット県への訪問者数及び増加率

Year	Visitors	Ratio
1999	90,910	
2000	109,033	1.20
2001	113,287	1.04
2002	98,962	0.87
2003	64,050	0.65
2004	118,821	1.86
2005	192,560	1.62
2006	192,385	1.00
Average Growth Rate		1.18

出典：LNTA（2006）“2006 Statistical Report on Tourism in Laos”, Vientiane, p.15.

表3-8 サバナケット県の宿泊施設及び増加率

Year	No. of Establishments	Ratio
2000	512	
2001	479	0.94
2002	504	1.05
2003	979	1.94
2004	995	1.02
2005	1,257	1.26
2006	1,236	0.98
Average Growth Rate		1.20

出典：LNTA（2006）*ibid*, p.19.

表3-9 各県の訪問者率（複数回答）

	2002	2003	2004	2005	2006
Vientiane	98.0	93.0	96.0	98.0	97.2
Luang Prabang	68.0	61.0	68.0	64.0	64.3
Xieng Khouang	8.0	13.0	9.0	11.0	8.5
Champassak	4.0	17.0	12.0	16.0	11.2
Khammouane	1.0	4.0	2.0	4.0	3.3
<b>Savannakhet</b>	<b>3.0</b>	<b>14.0</b>	<b>8.0</b>	<b>10.0</b>	<b>9.7</b>
Bokeo	7.0	7.0	5.0	10.0	7.5
Bolikhamxay	2.0	2.0	1.0	2.0	2.4
Luang Namtha	6.0	7.0	6.0	7.0	8.4
Xayabouli	1.0	2.0	1.0	1.0	1.4
Attapeu		4.0	2.0	2.0	1.8
Saravanh		3.0	2.0	2.0	2.6
Huapanh	1.0	2.0	1.0	2.0	1.7
Oudomsay	6.0	6.0	5.0	7.0	7.0
Sekong		3.0	2.0	1.0	2.2
Phong Saly		2.0	1.0	3.0	2.5
Vientiane Province		1.0	1.0	1.0	1.0

出典：LNTA（2006）*ibid*, p.19.

<sup>17</sup> LNTA（2007）“2006 Statistical Report on Tourism in Laos”, Vientiane, pp.23.

サバナケット県における主な観光資源としては、88カ所あるスポットのうち、約半数の44カ所が自然に由来するものである。市ごとにみると、サバナケット市街地のあるKaisone Phomvibane市に、最も多く集中している（表3-10）。

今回の調査では、同県の主要な観光スポットとなり得る地点を視察した（図3）。いずれの地点も、国道9号線などの主要幹線道路から数10km離れた地点にあり、また道路整備も十分に行われていないため、アクセスが困難である。

エコツアーについては、SVK-PTDによって企画されている。2001年から、SNVの支援によりパイロット事業を開始しており、2005年10月からは商業的に行われている。

表3-10 サバナケット県における観光資源（2004～2007）

	Type of resources			Total
	Nature	Culture	History	
Kaisone Phomvibane	3	7	7	17
Xaibury	5	3	1	9
Xaiphouthong	1	3	0	4
Songkhone	6	3	2	11
Champhone	4	1	0	5
Atsaphangthong	1	1	1	3
Phalamxai	2	1	1	4
Xonnabuly	3	2	1	6
Phine	2	0	2	4
Sepone	4	1	3	8
Thapangthong	4	0	0	4
Vilabuly	2	2	0	4
Nong	6	0	3	9
Total	43	24	21	88

出典：PTD-SVK 提供資料

表3-11 エコツアーの参加者

	2005	2006	2007	Average
Jan		47	55	51
Feb		23	35	29
Mar		30	48	39
Apr		21	26	24
May		8	2	5
Jun		19	9	14
Jul		30	48	39
Aug		71	38	55
Sep		17		17
Oct	11	15		13
Nov	36	37		37
Dec	20	48		34
Total	67	366	261	

出典：PTD-SVK 提供資料

なお、国全体の観光開発計画として、LNTAにより、2005～2020年までを計画年度とする国家観光戦略が作成されている<sup>18</sup>。環境社会配慮に関する活動として、国際航空の奨励（2.4）、道路整備計画と連携した観光（2.5）、河川交通の改善（2.6）、自然保護地域に配慮した観光（3.4）、エコツアーの普及（4.2）、などがあげられる。

#### （5）廃棄物<sup>19</sup>

廃棄物の現状等に関しては、本プロジェクトによって最も発生量が増加すると思われる Kaysone Phomvibane 市（サバナケット県庁所在地）についてのみ取りあげることとする。

同市における廃棄物の発生量は、月あたり約 400t 前後、年間約 5,000t となっている。収集対象世帯は約 4,000 世帯とされており、1 世帯あたり、1 日 3.4kg の廃棄物を排出している計算になる。廃棄物の収集は、原則として各世帯ごとに毎日行われている。収集コストに対して、世帯毎に 6,000 キップ／月が徴収されている。

公共空間における廃棄物の収集は、一般的には月に数回であるが、イベントなどがあった場合には適宜収集が行われている。

廃棄物の分別は各世帯の責任で行われ、学校教育でも指導されている。だが、分別は徹底していない。

廃棄物の埋立処分場は、市内に 1 ヶ所あるのみで、2000 年 8 月より運転が開始されている。処分場の面積は 13.5Ha であり、使用可能期間は 5～10 年となっている。このため、あと 3 年足らずで使用ができなくなる計算になる。

埋立処分場では、地元のウェイストピッカーが、換金可能なプラスチック製品などを自主的に回収しているため、結果として、かなりの量の分別が行われることとなっている。

そのほか、医療廃棄物については、オートクレーブによる高温・高圧処理が病院で行われたあと、処分場に運ばれることになっている。

#### （6）EIA 制度上の位置づけ

現在のところ、環境セクターで EIA や IEE の対象となった事業は存在しない。だが、観光に係るプロジェクトとして物理的コンポーネント（道路など）が含まれる場合、当該コンポーネントのみを対象とした手続きが適用されることとなる。

### 3-1-3 自然環境概況

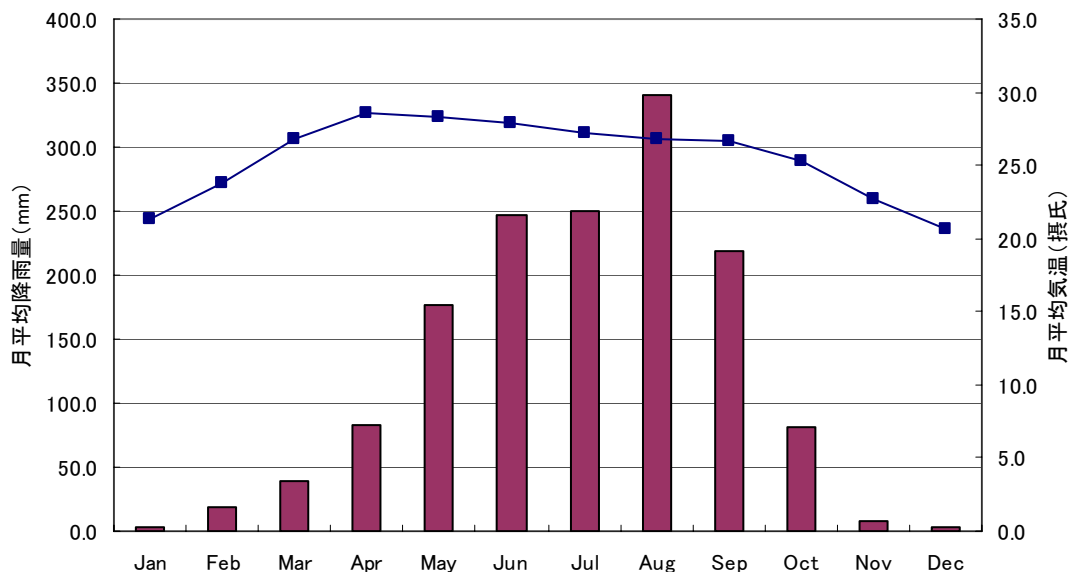
#### （1）地形・気象・動植物等

サバナケット県は、北緯約 16.05 度～17.07 度、東経約 104.3 度～106.7 度、標高 140～200m 程度の比較的平坦な地域に位置する。

気象条件は、年平均降水量が約 1,468mm、年平均気温が 25.5 度（摂氏）となっており、気候分類上は熱帯モンスーン気候とされている（図 3-5）。

<sup>18</sup> LNTA (2005) "National Tourism Strategy for LAO PDR 2005 to 2020", Vientiane, pp.68.

<sup>19</sup> 本項の記述は、UDA 担当官に対するヒアリング（2007 年 9 月 18 日）による。



出典：DMH 提供資料に基づき作成

図 3-5 過去 36 年間（1971～2006）の月別平均降雨量及び月別平均気温  
（サバナケット県観測所：16.33N, 104.45E, ALT150m）

同県の主要河川は、タイとの国境を北西から南西に流れるメコン川のほか、Se Bang Hiang、Se Bang Phai、Se la Nong、Se Kok、Se Cham Phone、Se Nam Noy の 6 つの主要河川がある。

植生については、面積は不明であるが、乾燥常緑樹林、混合落葉樹林、乾燥フタバガキ樹林、ガレリア樹林、針葉樹林、広葉/針葉混合樹林、竹林、低木林、サバンナなどで構成される。なお、同県には 3 ヲ所の生態系保全地域が指定されている（図 3-6）。

WWF の生態系分類（Ecoregions）によると、同地域は Central Indochina Dry Forest に分類されており、広範囲に耕作されている<sup>20</sup>。

<sup>20</sup> ADB & UNEP (2004) "Greater Mekong Subregion ATLAS of the environment", Manila, p.143.

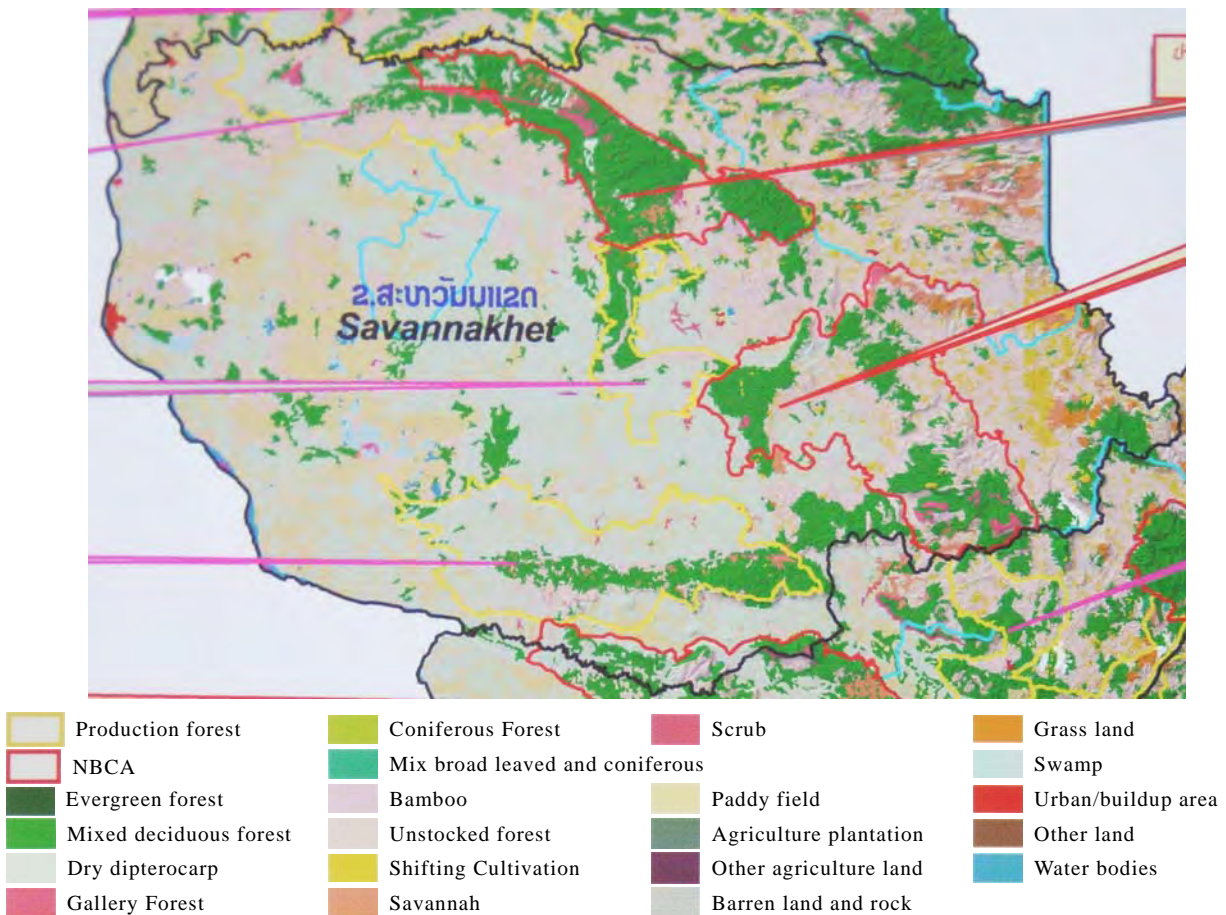


図 3-6 サバナケット県の植生

サバナケット県における動植物の現状については、絶滅危惧種の Eld's deer と呼ばれる鹿の一種 (*Cervus eldi*)、及び絶滅危惧種であるサイアムワニについて、現地住民に対するヒアリング等の簡易調査が実施されている<sup>21</sup>。

調査の結果、Eld's deer については、Chonbuly (Xonnabuly) 市域内で 30 頭ほどが生息すると見積もられている。サイアムワニについては、Sonbouli (Xonnabuly) 市域内の湿地帯で、5～15 頭程度が存在するとしている。

#### 3-1-4 予想される環境社会影響

以下、予想され得る環境社会影響を示す。

##### (1) 非自発的住民移転

道路や橋梁などのインフラ施設が含まれるかどうかについて、現時点では不明である。プロジェクト開始後、土地収用を伴うようなインフラストラクチャー整備が想定される場合、調査や影響予測の実施、及び緩和策の検討を行う必要がある。

<sup>21</sup> Vongkhamheng, C. & S. Phirasack (2002) "Eld's deer (*Cervus Eldi Siamensis*) Surveys in Chonbuly District, Savannakhet Province", WCS, Vientiane, pp.19. Phothitay C. & Somphanith (2003) "Crocodile Survey Report of Wetlands area in Savannakhet and Attapeu Provinces", LARRC, Vientiane, pp.18.

## (2) 地域経済、土地利用や地域資源利用

地域経済は、正の影響として、本プロジェクトの実施によって収入の増加が見込まれる。一方、観光業へ過度に依存することにより、地域経済の基盤が脆弱となる可能性もある。

土地利用の変化については、本プロジェクトに含まれる物理的コンポーネントが確定していないので、現時点では検討不可能である。

地域資源利用については、水資源や農林水産関係（農作物、魚類、森林、家畜など）の天然資源と、文化財等の観光資源へのインパクトが考えられる。

前者については、観光客及び観光業従事者が急激に増加する場合、資源利用の持続性が損なわれる可能性がある。また、廃棄物及び汚水の排出量増大によって、間接的にダメージを与える恐れがある。

後者については、別項で検討する。

ただし、これらのインパクトは一般論であり、具体的なインパクトは、プロジェクトコンポーネントある程度固まって段階で、検討され得る。

## (3) 社会関係資本・社会組織

農民・漁業組合、旅行業組合等の存在が想定されるが、詳細は不明である。次の調査段階で調査する必要がある。

## (4) 既存の社会インフラストラクチャーや社会サービス

既存の道路等、社会インフラストラクチャーへのインパクトについては、本プロジェクトに含まれる物理的コンポーネントが確定していないので、現時点では検討不可能である。

## (5) 貧困層・先住民族・少数民族

エコツアーの対象地域には、少数民族がコミュニティーを形成していることが多く、本プロジェクトにエコツアーが含まれる場合、彼らの生活パターンや習慣などに影響を与える可能性がある。ただし、現時点ではエコツアーが含まれるかどうか不明であるため、検討困難である。

## (6) 被害と便益の偏在、地域内の利害対立

観光資源のある地域とない地域、あるいは特定プロジェクトの対象地域と非対象地域の間で、経済格差が生じる場合、利害対立の原因となる可能性がある。

## (7) ジェンダー、子供の権利

同県では、国道9号線に沿っていくつかの繁華街が林立しており、女性の性的労働者の割合が比較的高く、これら業種の人身取引が活発化する可能性もある。子供の権利については、特に女兒の場合、人身取引の対象となる可能性がある。

(8) 文化遺産

観光客の増加に伴い、文化遺産に対する直接・間接的なダメージが想定される。

(9) 公衆衛生

同県の HIV/AIDS 感染者は全国でも高いレベルにあり、特に性労働者の感染が増大している。このため、本プロジェクトによって人の移動や繁華街が増加する場合、感染が広がる可能性がある。

(10) 事故リスク等生活環境への影響、その他

観光地への通過交通が増大することで、交通事故のリスクが増大する可能性がある。

また、候補地は UXO による高い汚染地帯であるため、インフラストラクチャー整備のための建設労働者や訪問者などがこれらに接触し、爆発事故が発生する可能性も否定できない。

(11) 生物・生態系

特に生物多様性保全地域では、絶滅危惧種のワニやシカの存在が確認されている。本プロジェクトの活動が同地域にて行われる場合、これらの生物種の生育や繁殖にダメージを与える可能性がある。

(12) 気 象

本プロジェクトによる気象変化は想定されない。

(13) 景 観

本プロジェクトの活動として、景観改変が想定されるような物理コンポーネントが含まれるかについては、現時点では不明である。

(14) 地球温暖化

観光客や観光業従事者など、恒常的・一時的な人口の集積により、その分の二酸化炭素の発生が増加する。

(15) 大気汚染・悪臭

観光スポットへのアクセス量増大に伴い、道路周辺にて、通過交通が排出するガスによる大気汚染や悪臭が発生する可能性がある。

(16) 水質汚濁・土壌汚染

観光地付近の人口集積により、河川等への汚水流入量が増大し、富栄養化などの水質悪化につながる可能性がある。

土壌汚染については、本プロジェクトに土壌汚染を引き起こす種類の活動が含まれるとは想定し難いが、現時点では不明である。

(17) 廃棄物

直接的影響としては、施設建設時に建設残土等が発生する。間接的影響としては、同地域へのアクセス数増大により、道路沿線及び市街地での廃棄物の増加が想定される。

現在のところ、同県における年平均増加率は約 1.08 であるが、仮に本プロジェクトの実施によって人口が増加する場合、廃棄物の発生量も増加することとなる。

以下では、廃棄物の発生量について、原単位法による簡易予測をおこなった（出典：調査団作成図 3-7）。

計算にあたり、廃棄物の発生原単位は東京都による数値（1994 年）を引用し、観光業に関係する業種としては飲食店、娯楽施設、宿泊施設の 3 業種を選択し、各原単位の平均値を使用した。

また、同業種に従事する人口は、現在の全人口の 2% と仮定し、1 万 6,518 人と設定した。

計算の結果、仮に同業種の人口が 2 割増加する場合、1 日あたりの発生量が約 6t 増加することとなる。1 年間では、約 2,000t の増加となる。

正確な予測のためには、原単位や同業種の従事者、人口増加率の精査が必要であり、プロジェクト開始後、大幅な人口増加が見込まれるような場合には、必要に応じて検討するべきである。

表 3-10 廃棄物発生量の簡易予測に使用したパラメーター

廃棄物発生原単位 g/人・日 (東京都 1994 年の値)		サバナケット県の人口 (2005 年現在)	825,902
飲食店	1,827	観光関連業種の人口 (県人口の 2% と仮定)	16,518
娯楽施設	2,560		
宿泊施設	4,265		
原単位の平均値	2,884		

出典：調査団作成

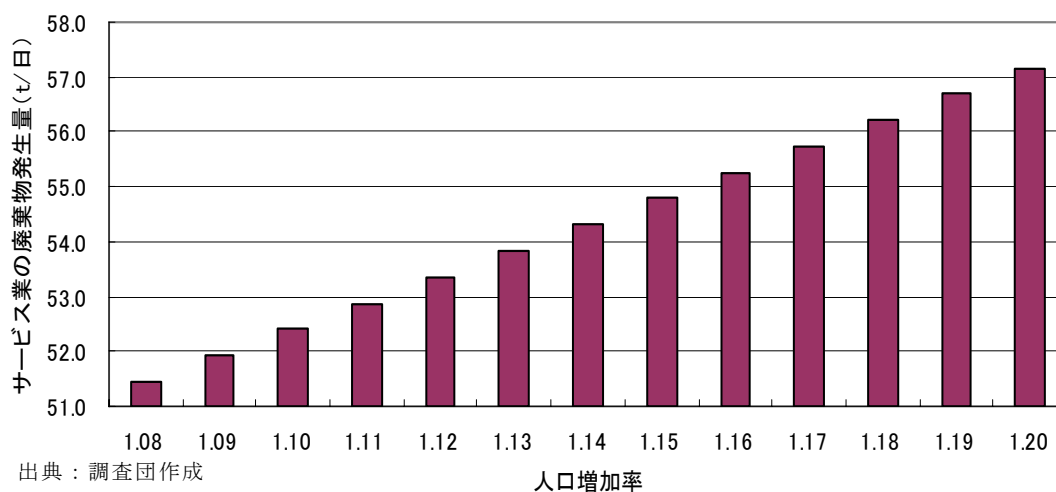


図 3-7 廃棄物発生量の簡易予測結果

(18) 騒音・振動

観光スポットへのアクセス量増大に伴い、道路周辺での通過交通からの騒音レベルが増大する可能性がある。

以上、本プロジェクトによって想定される環境社会影響を、次表にまとめた。

表 3 - 11 環境社会影響評估表

No.	Impacts	Rating	Brief Description
Social Environment: *Regarding the impacts on “Gender” and “Children’s Right”, might be related to all criteria of Social Environment.			
1	Involuntary Resettlement	??	N/A (Project components are unfixed)
2	Local economy such as employment and livelihood, etc. , land use and utilization of local resources	+, -	Local peoples may have income from the tourism activities. In case of rapid population growth in that are, it can affect the sustainability of natural resources.
3	Social institutions such as social infrastructure and local decision-making institutions	??	N/A (Project components are unfixed)
4	Existing social infrastructures and services	??	N/A (Project components are unfixed)
5	The poor, indigenous and ethnic people	??	N/A (Project components are unfixed)
6	Misdistribution of benefit and damage / Local conflict of interests	—	A conflict is likely to happen between beneficial groups who live around tourism spots and others.
7	Cultural heritage	—	Increasing visitors may affect cultural heritages.
8	Sanitation / Infectious diseases such as HIV/AIDS	—	HIV/AIDS carriers are likely to increase due to influx of visitors into the area.
9	Hazards (Risk)	—	As the visitor increases, traffic accident can become even more serious. And UXOs might be exploded due to construction work or trespassing.
Natural Environment			
10	Flora, Fauna and Biodiversity	—	Some endangered species might be affected due to tourism development in the areas.
11	Meteorology	0	No impact expected.
12	Landscape	??	N/A (Project components are unfixed)
13	Global Warming	—	CO2 gas emission is likely to increase because human activities is saccelerated.
Pollution			
14	Air Pollution, Offensive Odor	—	As the passing vehicle increases, air pollution along to the road side can become even more serious.
15	Water Pollution	—	Water pollution might be triggered due to visitor increased.
16	Waste	—	As the population related to tourism increases, waste generation can even more increase.
17	Noise and Vibration	—	As the passing vehicle increases, noise and vibration along to the road side can become even more serious.

Rating:

--: Serious impact is expected.

-: Some adverse impact is expected.

0: Neither adverse nor beneficial impacts are expected. IEE/EIA is not necessary.

+: Some Positive impact is expected.

++: Positive impact is expected.

?: Extent of impact is unknown (Examination is needed. Impacts may become clear as study progresses.)

## 第4章 環境社会配慮モニタリング案

環境社会配慮モニタリングの実施にあたっては、以下の要領での実施を検討すべきである。

- (1) プロジェクトの中間評価、及び終了時評価の段階で、調査団の一員として環境社会配慮担当団員を含め、上記スコーピングで検討した項目に関するモニタリングをおこなう。なお、担当団員として、国際協力専門員、または企画・調整部環境社会配慮審査チームの担当者など、JICA ガイドラインに精通しているインハウス人材を活用することが望ましい。
- (2) 本プロジェクト開始後に作成される「観光振興戦略」に、道路建設などの環境社会影響を生じ得る物理的コンポーネントが含まれることになった場合、環境社会配慮実施のためのフレームワークを作成し、同戦略に含めるべきである。その際には、現地の事情に精通しているローカルコンサルタントの活用が望ましい。

## 付 属 資 料

1. 収集資料リスト
2. 情報公開用サマリー（英）

## 1. 収集資料リスト

No.	Author	Title	Published Year	Place of obtain
1	ADB & UNEP	"Greater Mekong Subregion ATLAS of the environment", Manila.	2004	MCTPC, Department of Road
2	MAF	1971-2006 年の月別平均降雨量および月別平均気温(サバナケット観測所)	—	MAF, Department of Meteorology and Hydrology
3	National Committee for the Control of AIDS	"National Strategy and Action Plan on HIV/AIDS/STI 2006-2010", Vientiane.	2006.02	JICA Laos office
4	NSC	"Population and Housing Census Year 2005 Preliminary Report", Vientiane.	2005.09	NSC
5	NSC	"1975~2005", Vientiane, Lao PDR.	2005.07	NSC
6	NSC	"Results from the Population and Housing Census 2005", Vientiane.	2006.03	NSC
7	LNTA	"2006 Statistical Report on Tourism in Laos", Vientiane.	2005	JICA Laos office
8	STE A	"Decree on Compensation and Resettlement of People Affected by Development Projects", Vientiane.	2006	STE A, Department of Environment
9	STE A	"Regulations for Implementing Decree on Compensation and Resettlement of People Affected by Development Projects", Vientiane.	2006	STE A, Department of Environment
10	STE A	"Regulation on Environment Assessment in the Lao PDR", Vientiane.	2003	STE A, Department of Environment
11	JICA	ラオス人民民主共和国東西回廊における実践的な観光開発プロジェクト 事前評価調査報告書(案)	2007	JICA Laos office
12	DPI-SVK	Savannakhet Province -Potentials and Investment Opportunities	2007	JICA Laos office
13	Handicap International	National Study on the Socio-Economic Impact of Unexploded Ordnance Province & District Report Savannakhet	1997	JICA Laos office
14	LNTA	National Tourism Strategy for LAO PDR 2005 to 2020	2005	LNTA
15	Vongkhamheng, C. & S. Phirasack	Eld's deer (Cervus Eldi Siamensis) Surveys in Chonbuly District, Savannakhet Province	2002	IUCN
16	Phothitay C. & Somphanith	Crocodile Survey Report of Wetlands area in Savannakhet and Attapeu Provinces	2003	IUCN

## 2. 情報公開用サマリー（英）

### Summary Report on the Preparatory Study for Environmental and Social Considerations

March 7, 2008

#### 1. Title of the Cooperation Project, Relevant Project Report

##### 1-1 Title of the cooperation project

The project of prototype of attractive tourism center in the East West Economic Corridor for community empowerment and poverty alleviation

##### 1-2 Name of the project proponent

Lao National Tourism Administration (LNTA), Savannakhet Province

#### 2. Categorization of the cooperation project

##### (1) Categorization

B

##### (2) Reason of the categorization

In the tourism strategy to be developed, adverse impacts on the environment and society likely arise depending on location. It requires a plan considering conservation on the natural and cultural resources.

#### 3. Outline of the project and location

##### 3-1 Outline of the cooperation project

###### 3-1-1 Background of the project

In Lao P.D.R., the tourism industry is expected to contribute to economic development by acquiring foreign currencies, expanding job opportunities, generating income, and promoting regional development. The number of tourists in 2005 exceeded 1.1 million and is expected to reach 2.0 million in 2010. Luang Prabang and Wat Pu are listed with UNESCO as World Heritage sites, which are drawing attention worldwide. There is a high potential for tourism resource development, with many picturesque sites and rich nature including endangered flora and fauna.

In order to cope with rapid tourism industry growth, the government of Lao P.D.R. upgraded the status of LNTA from a Department to an Agency in 2004, and has been trying to reinforce tourism related institutions. However, due to underdeveloped tourism information services and insufficient human resource development, tourism promotion is still a challenge for LNTA.

In the Central region, the Second Mekong International Bridge was completed in December 2006 and provided smooth land transfer by East-West Corridor from Thailand to Vietnam. However, there is a concern that the economic benefit of the bridge in terms of tourism in Lao P.D.R., is not substantial as the tourists pass straight from Thailand to Viet Nam. Lack of attractive tourism

resources alongside the National Road No.9, and insufficient tourism information are considered to be the causes of the lost opportunity.

In Savannakhet Province, the percentage of people living below the poverty line is three times more than that of Vientiane area<sup>1</sup>. It is important that the people in Savannakhet Province be able to take advantage of any opportunity for regional development. The promotion of tourism development alongside the National Road No.9 through the enhancement of tourism-related human resources in LNTA and Savannakhet Province is one such clear opportunity.

Considering the background, the technical cooperation Project scheduled to be implemented in FY 2007, aims at implementing practical tourism development in Savannakhet Province where the East-West Corridor passes, by improving policies and strategies, enhancing the quality of services, strengthening marketing and promotion capabilities associated with tourism by enhancing LNTA and PTD (Provincial Tourism Department)'s capacity in human resource development.

### 3-1-2 Project description

In the cooperation project, five outputs have been set up as the following:

- a) The tourism strategy is developed and shared among major stakeholders;
- b) Services provided by tourism sector in Savannakhet are improved;
- c) The identified local resources are being promoted by PTD/LNTA in collaboration with the private sector under the effective marketing strategy;
- d) Appropriate information about tourism in Savannakhet is effectively provided to tourists and other parties concerned; and
- e) Mechanism to prevent the negative impact caused by tourism development is installed.

Major environmental and social impacts are likely raised activities for the first output, however we are not able to identify those activities at the current stage.

### 3-1-2 Project area

The project area will cover the province of Savannakhet, located at south-east region from the capital (see the fig. 1).

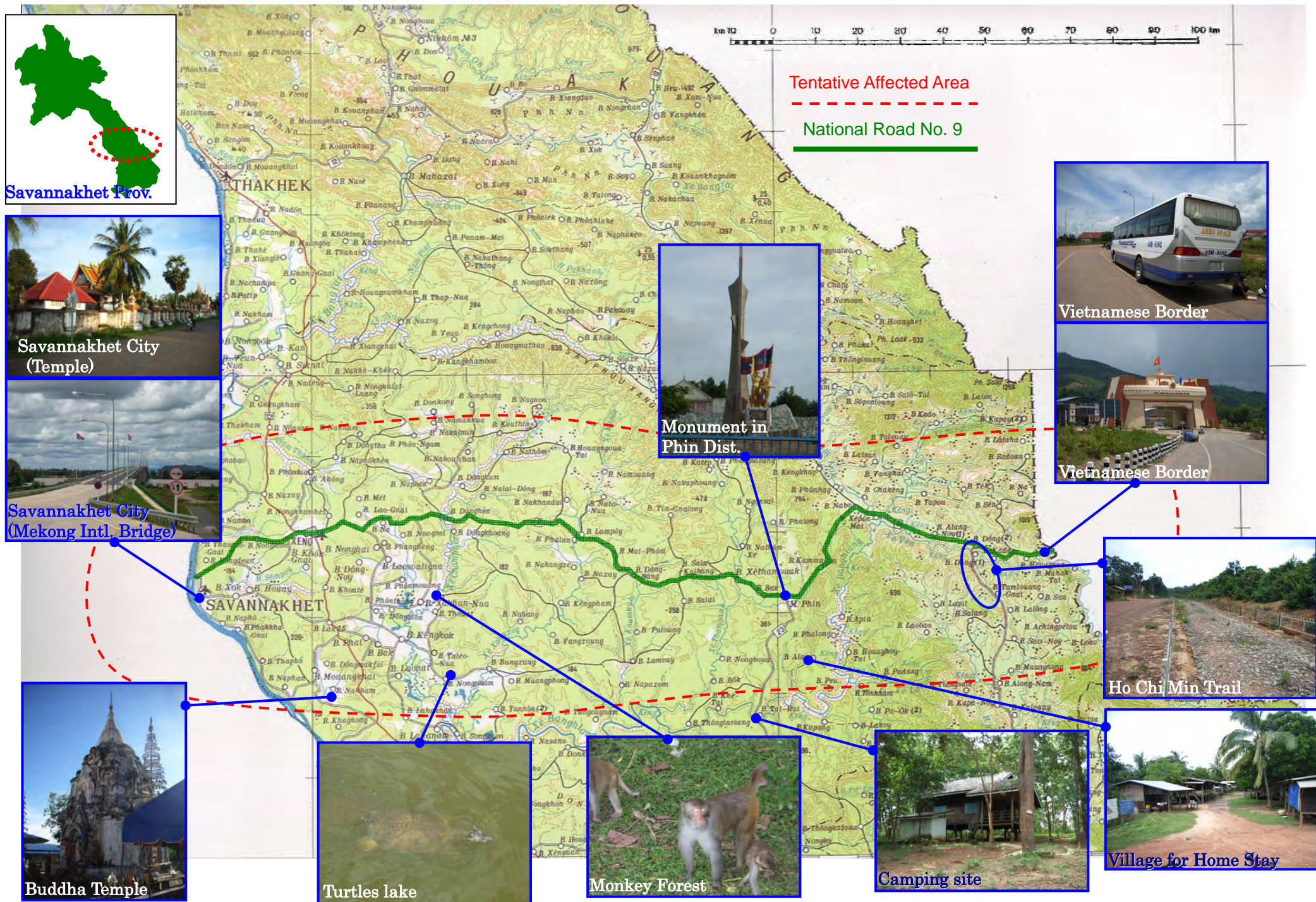


Fig. 1: Project area of the cooperation project

### 3-2 Outline of the location

#### 3-2-1 Social environment

The profile of population and other social aspects in the project area is shown in the table below. The population size is the largest of the provinces of this country and the population growth rate has been most average in recent years. HCI (Head Count Poverty Ratio) of the province indicates same level as the nationwide average.

The largest ethnic group in the province is Laos, accounting for 62.1% of the population.

A gender bias likely exists in the province on the education field, therefore literacy rate of the province of male is 78.5% and female, 59.2% respectively and the school attendance rate indicates similar gender gap, too.

**Table 1: Demographic features in Savannakhet province**

Population	Lao PDR	5,621,982	
	Savannakhet	825,902	
Population growth rate	Items	Growth Rate	Rank
	Lao PDR	1.083	
	Savannakhet	1.079	10
HCI	Lao PDR	38.6	
	Savannakhet	37.1	12
Ethnic group	Lao 62.1%, Putai 15.2%, Makong 9%, Katang 8.7%, Tri 2.6%, Others 2.4%		
Literacy rate	Lao PDR		63.2
	Savannakhet	Total	59.2
		Male	78.5
		Female	59.2

Medical services of the province have not been provided sufficiently, for instance, health care centers are located in only 81 villages out of 1543 villages in the province.

HIV/AIDS carriers have increased rapidly especially on sex workers in the province and this area is designated as a target area for comprehensive programmes on HIV/AIDS prevention.

Savannakhet province is the highest contaminated area by UXO (Unexploded Ordnance) because large number of fighting happened in the past war. In 1996 present, over 730 villages (47%) are reported as polluted area by UXOs.

The land use classification of the province indicates mainly agriculture (15%) and forest (50%). The forest area includes three national biodiversity conservation areas.

The visitors to the province have increased annually, and the average growth rate

is 1.19 between 1999 and 2006 (Table 2). Most of tourism resource comes from the rich nature, and cultural and historical resources are concentrated in Kaisone Phomvibane district where the provincial government is located ()

**Table 2: Visitors to Savannakhet province**

	Visitors to SVK	G.R.*	Establishments in SVK	G.R.*	% of visitors to SVK
1999	90,910	—	—	—	—
2000	109,033	1.20	512	—	—
2001	113,287	1.04	479	0.94	—
2002	98,962	0.87	504	1.05	3.0
2003	64,050	0.65	979	1.94	14.0
2004	118,821	1.86	995	1.02	8.0
2005	192,560	1.62	1,257	1.26	10.0
2006	192,385	1.00	1,236	0.98	9.7
Average Growth Rate		1.18	Average Growth Rate	1.20	—

\* Annual Growth Rate

**Table 3: Tourism resources in Savannakhet province**

District	Type of resources			Total
	Nature	Culture	History	
Kaisone Phomvihane	3	7	7	17
Xaibury	5	3	1	9
Xaiphouthong	1	3	0	4
Songkhone	6	3	2	11
Champhone	4	1	0	5
Atsaphangthong	1	1	1	3
Phalamxai	2	1	1	4
Xonnabuly	3	2	1	6
Phine	2	0	2	4
Sepone	4	1	3	8
Thapangthong	4	0	0	4
Vilabuly	2	2	0	4
Nong	6	0	3	9
Total	43	24	21	88

Regarding waste emission and its treatment, total waste amount per month is approximately 400 tons in Kaisone Phomvibane district, central of the province. The number of families to be collected is approximately 4,000, therefore a family generates about 3.4 kg of garbage a day.

The people knows a garbage separation system in the district, however it is not carried out. Waste pickers who are working at a dumping site separate voluntarily recyclable from non-recyclable garbage for making a money.

An only dumping site in the district has been opened since 2000 and its lifespan is between 5 and 10 years, therefore the site will be filled up in near future.

### 3-2-1 Natural environment

The province is located at latitude between 16.05 and 17.07 north and longitude between 104.3 and 106.7 east, and the general topography is hilly and low flatland. The annual mean rainfall and temperature are 1,468mm and 25.5 Celsius, respectively. Climatic division is classified as a tropical monsoon.

The major river in the province is Mekong river which flows from north west to south west. As other rivers, six major rivers flow in the area such as Se Bang Hiang, Se la Nong, Se Kok, Se Cham Phone and Se Nam Noy.

The vegetation in the province is made up of various forest such as evergreen forest, Mixed deciduous forest, Dry dipterocarp, Gallery Forest, Coniferous Forest, Mix broad leaved and coniferous, Bamboo, Unstocked forest, Shifting Cultivation, Savannah, Scrub, and so on. Regarding endangered species, a kind of deer and crocodile have been observed in some districts.

#### **4. Legal Framework of Environmental and Social Considerations**

##### **4-1-1 Environmental Impact Assessment**

Environmental Protection Law (No. 02/99/NA) promulgated in 1999 and Regulation on Environmental Assessment in the Lao PDR (No. 1770/STEA), in 2000 are known as the first set for a requirement of Environmental Impact Assessment.

A project of tourism sector has not been applied to the system so far, however, if a physical component is including in the tourism strategy that is going to be developed, EIA or IEE procedure is likely to be required.

As other important regulations on environment, Regulation on natural protected areas, aquatic resources and wildlife management was established in 2003 referring Prime minister decree on forest law implementation (No. 198/PM). According to the regulation, areas to be conserved are classified as three categories: National Protected Areas (NPA), National Parks and National Biodiversity Conservation Areas (NBCAs). The three NBCAs are located in eastern and southern part of Savannakhet province.

## 5. Scoping

### 5-1 Adverse impacts

The likely adverse impacts caused by the project are predicted as the following;

No.	Impacts	Rating	Brief Description
Social Environment: *Regarding the impacts on “Gender” and “Children’s Right”, might be related to all criteria of Social Environment.			
1	Involuntary Resettlement	??	N/A (Project components are unfixed)
2	Local economy such as employment and livelihood, etc. , land use and utilization of local resources	+, -	Local peoples may have income from the tourism activities. In case of rapid population growth in that are, it can affect the sustainability of natural resources.
3	Social institutions such as social infrastructure and local decision-making institutions	??	N/A (Project components are unfixed)
4	Existing social infrastructures and services	??	N/A (Project components are unfixed)
5	The poor, indigenous and ethnic people	??	N/A (Project components are unfixed)
6	Misdistribution of benefit and damage / Local conflict of interests	—	A conflict is likely to happen between beneficial groups who live around tourism spots and others.
7	Cultural heritage	—	Increasing visitors may affect cultural heritages.
8	Sanitation / Infectious diseases such as HIV/AIDS	—	HIV/AIDS carriers are likely to increase due to influx of visitors into the area.
9	Hazards (Risk)	—	As the visitor increases, traffic accident can become even more serious. And UXOs might be exploded due to construction work or trespassing.
Natural Environment			
10	Flora, Fauna and Biodiversity	—	Some endangered species might be affected due to tourism development in the areas.
11	Meteorology	0	No impact expected.
12	Landscape	??	N/A (Project components are unfixed)
13	Global Warming	—	CO2 gas emission is likely to increase because human activities is saccelerated.
Pollution			
14	Air Pollution, Offensive Odor	—	As the passing vehicle increases, air pollution along to the road side can become even more serious.
15	Water Pollution	—	Water pollution might be triggered due to visitor increased.
16	Waste	—	As the population related to tourism increases, waste generation can even more increase.
17	Noise and Vibration	—	As the passing vehicle increases, noise and vibration along to the road side can become even more serious.

## 6. Future activities on environmental and social issues

After the project beginning, the following activities should be taken in accordance with the JICA environmental and social considerations guidelines:

- a) to dispatch a specialist of environmental and social considerations in order to monitor those issues mentioned above during intermediate and final evaluation stages; and
- b) if a physical component will be included in the tourism strategy such as road construction, a framework for environmental and social considerations should be added to the strategy.

(END)

